



Net community SYSTEM

α NX

無線アクセスポイント

取扱説明書

このたびは、ネットコミュニティシステム α NX無線アクセスポイントをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。






安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店にお問い合わせください。

本書中のマーク説明

| | |
|---|--|
|  警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |
|  お願い | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなったり、機能停止を招く内容を示しています。 |
|  お知らせ | この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。 |
|  ワンポイント | この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。 |

- 本商品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。本商品を家庭環境で使用すると、電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

ご使用にあたってのお願い

- 本書とともに必ず、ご使用のパソコンの取扱説明書をよくお読みになり、理解したうえでお使いください。
 - 本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This wireless system is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
 - 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信、録音などの機会を逸したために生じた損害、または本商品に登録された情報内容の消失などにより生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本商品に登録された情報内容は、別にメモをとるなどして保管くださるようお願いいたします。
 - 本商品を医療機器や高い安全性が要求される用途では使用しないでください。お客様の使用環境によっては、通信が途切れる場合があります。
 - 本商品は、航空機内や病院などの使用を禁止された場所では、電源を切ってください。電子機器や医用機器に影響を与え、事故の原因となります。
 - 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。
 - 商品の外観および機能などの仕様は、お客様にお知らせすることなく変更される場合があります。
- * WindowsおよびWindows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
* Ethernetは、富士ゼロックス社の登録商標です。
* Netcommunityは、日本電信電話株式会社の登録商標です。
* その他、本文中での記載の製品名や品名は各社の商標または登録商標です。
* 本文中に™、®は明記しておりません。

- 本商品は、お客様固有のデータを登録または保持可能な商品です。本商品内に登録または保持されたデータの流出による不測の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品内に登録または保持されたデータを消去する必要があります。詳しくは当社のサービス取扱所にご相談ください。
- 本商品を安全にご利用いただくために、無線LANのセキュリティ設定(SSID、暗号設定等)の変更をお勧めします。

使用周波数について(5GHz)

- 本商品で使用する5GHz帯周波数は、衛星携帯電話や気象レーダ、高速道路の自動料金徴収システム(ETC)などでも使用されているため、電波法により屋内でのみ使用可能です。
- 万一、電波の干渉が発生した場合は、速やかに本商品の使用周波数を変更するか本商品の使用を中止してください。
- 本商品の使用する5GHz帯は電波法により屋外での使用を禁じられていますので、ご使用にならぬようご注意ください。
- J52: 5170 ~ 5230MHz (34・38・42・46ch)は使用できません。

使用周波数について(2.4GHz)

本商品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)ならびにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. 本商品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。
2. 万一、本商品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、当社のサービス取扱所、またはお買い求めになった販売店へご連絡頂き、混信回避のための処置等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
3. その他、本商品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きた場合には、当社のサービス取扱所、またはお買い求めになった販売店へご連絡ください。

2.4DS/OF4



本商品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS方式/OFDM方式を採用し、想定干渉距離は40m、全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局の帯域を回避可能です。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

設置について

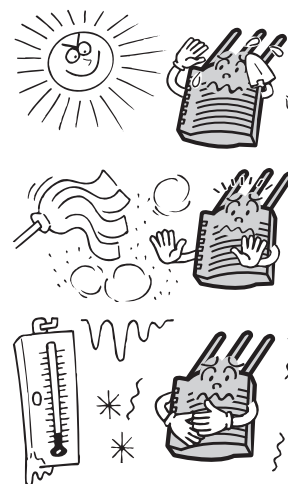
⚠ 警告

- 本商品、電源アダプタ、LANケーブル、LANケーブルのコネクタのそばに、水や液体の入った花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品などの容器、または小さな金属類を置かないでください。本商品、電源アダプタ、LANケーブル、LANケーブルのコネクタに水や液体がこぼれたり、小さな金属類が中に入った場合、火災・感電の原因となる場合があります。



- 本商品や電源アダプタ、LANケーブルを次のような環境に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

- ・屋外、直射日光が当たる場所、暖房設備やボイラーの近くなどの温度が上がる場所。
- ・調理台のそばなど、油飛びや湯気の当たるような場所。
- ・湿気の多い場所や水・油・薬品などのかかる恐れがある場所。
- ・ごみやほこりの多い場所、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所。
- ・製氷倉庫など、特に温度が下がる場所。



お取り扱いについて

⚠ 警告

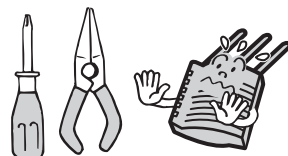
- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜き、LANケーブルを抜いて、煙が出なくなるのを確認し、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

- 万一、本商品を落としたり、キャビネットを破損した場合、または、本商品内部や電源アダプタ、LANケーブル、LANケーブルのコネクタに異物や水が入った場合は、電源プラグや電源アダプタ、LANケーブルをそれぞれ電源コンセントやLANケーブルのコネクタから抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。また、LANケーブルのコネクタがぬれた場合は、乾いても使用しないでください。

警告

- 本商品の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜き、LANケーブルを抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本商品を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理は当社のサービス取扱所にご依頼ください（分解、改造された商品は修理に応じられない場合があります）。



- 本商品から異常音がしたり、熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜き、LANケーブルを抜いて、当社のサービス取扱所に点検をご依頼ください。

- 本商品や電源アダプタ、LANケーブル、LANケーブルのコネクタに水をかけたり、ぬれた手で本商品の操作や電源プラグ、電源アダプタ、LANケーブルを抜き差ししないでください。火災・感電の原因となることがあります。



- 電源アダプタは、「電源アダプタ(K) -094」をお使いになり、それ以外のものは、絶対にお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- 電源は、AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- 本商品に接続する電源アダプタの電源コードやLANケーブルを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。

また、重い物をのせたり、加熱したりすると本商品に接続する電源アダプタの電源コードやLANケーブルなどが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源アダプタの電源コードやLANケーブルなどが傷んだら、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。



安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠ 警告

- 本商品に接続する電源アダプタの電源コードやLANケーブルなどが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜き、LANケーブルを抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。
- 本商品や本商品に接続する電源アダプタの電源コードやLANケーブルなどを熱器具に近づけないでください。キャビネットや本商品に接続する電源アダプタの電源コードやLANケーブルなどの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと、本商品の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。次のような設置のしかたはしないでください。
 - ・本商品を横置きや逆さまにする。
 - ・本商品を収納棚や本箱、配線ボックスなどの風通しの悪い狭い場所に押し込む。
 - ・本商品をじゅうたんや布団の上に置く。
 - ・本商品にテーブルクロスなどをかける。
 - ・本商品の周りに物をおいて、通風孔をふさぐ。
- 近くに雷が発生したときは、すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜き、ご使用を控えてください。雷による、火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品の電源入力コード差込口に、ほこりが付着していないことを確認してから電源アダプタに接続してください。また、半年から1年に1回は、電源アダプタを電源コンセントから抜き、LANケーブルを抜いて、点検、清掃をしてください。ほこりにより、火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関しては当社のサービス取扱所にご相談ください。

設置について

⚠ 注意

- 本商品は次のような場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。
 - ・ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所。
 - ・振動、衝撃の多い場所。



- 本商品を壁掛け設置する場合は、専用の壁掛け用木ねじによりしっかりと固定設置してください。固定が不十分な場合、落下、転倒の原因となることがあります。

お取り扱いについて

注意

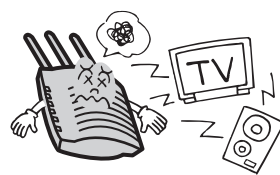
- 本商品の上に重い物をのせないでください。バランスがくずれて落下やけがの原因となることがあります。
- 本商品をお手入れするときは、安全のため必ず本商品の電源アダプタを電源コンセントから抜き、LANケーブルなどは抜いて行ってください。
- 本商品に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。
- 本商品を長期間で使用にならないときは、安全のため必ず電源アダプタを電源コンセントから抜き、LANケーブルを抜いてください。
- 本商品の付属品であるスタンドの底面には、ゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面が、まれに変色するおそれがあります。
- アンテナの曲がらない方向へ過度な力を与えるとアンテナ破損につながります。ご注意ください。

設置について

お願い

- 本商品を電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、インバータエアコン、電磁調理器など）。

- ・ 磁気や電気雑音の影響を受けると通信ができなくなることがあります。
- ・ テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- ・ 放送局や無線局などが近く、本商品の誤動作を招くおそれのあるときは、本商品の設置場所を移動してみてください。



- 硫化水素が発生する場所（温泉地）や、塩分の多いところ（海岸）などでは、本商品の寿命が短くなることがあります。
- 無線アクセスポイントの側面にある電源アダプタコード押さえは電源コード専用です。LANケーブルの固定用には使用しないでください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

お取り扱いについて

STOP お願い

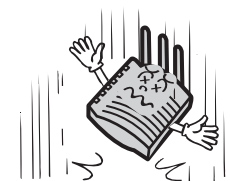
- 本商品をぬれたぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本商品の変色や変形の原因となることがあります。

汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。

ただし、LANケーブルのコネクタ部分は、よくしぼった場合でも、中性洗剤をつけた布では絶対にふかないでください。



- 本商品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。



- 本商品に接続する電源アダプタの電源コードやLANケーブルを引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。

- コネクタに異物を差し込んだり、端子面に触れないでください。故障の原因となることがあります。

- リセットスイッチを4秒以上押し続けると、設定を初期化状態に戻します。初期化状態に戻すとき以外は、この操作を行わないでください。

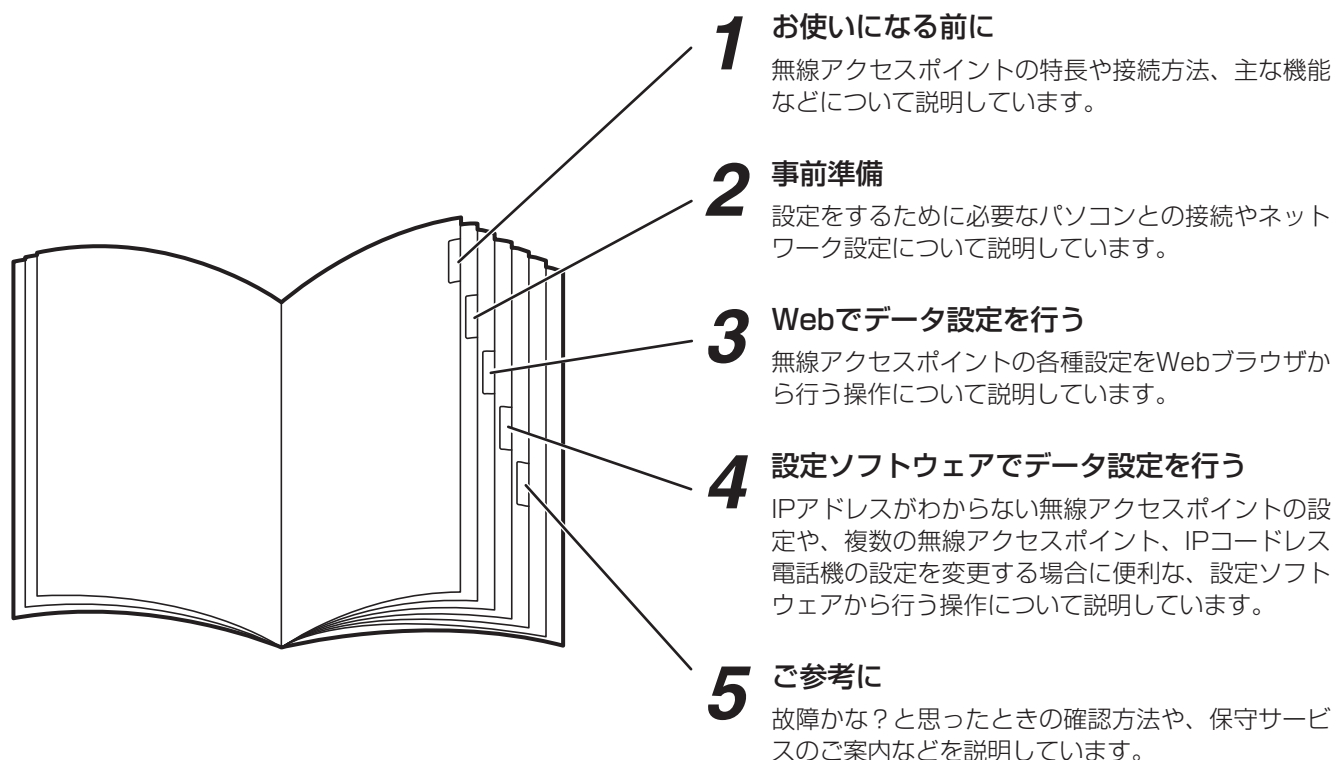
- 本商品を再起動した場合は、本商品に接続されているIP端末、無線LANカードなどからデータ通信、音声通話ができることを確認してください。

- 本商品は、音声優先機能を持っていますが、本商品の設定内容、またはお客様の利用環境（設置環境、無線電波の干渉、ネットワークの混雑等）によっては、性能が十分に発揮されず、通信が途切れる場合や通信ができなくなる場合がありますので注意してください。

- 本商品をお買い求めの状態でご使用になりますと、無線通信を傍受され不正アクセスされるおそれがあります。セキュリティ方式、暗号キーなどのセキュリティに関する設定を行ってご使用ください。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書の構成



●本書は、特に指定がない場合には、下記のような表記をしております。

- Netcommunity SYSTEM αNX無線アクセスポイント → 無線アクセスポイント
- Netcommunity SYSTEM X7000 → X7000
- Netcommunity SYSTEM RACSIA → RACSIA
- Netcommunity SYSTEM X7000 IP多機能電話機 → IP多機能電話機
- Netcommunity SYSTEM αNX 給電HUB → 給電HUB
- Netcommunity SYSTEM X7000 IPコードレス電話機 → IPコードレス電話機
- Netcommunity SYSTEM αGX IPコードレス電話機 → IPコードレス電話機
- Netcommunity SYSTEM αNX IPコードレス電話機 → IPコードレス電話機

この取扱説明書の見かた

操作説明ページの構成

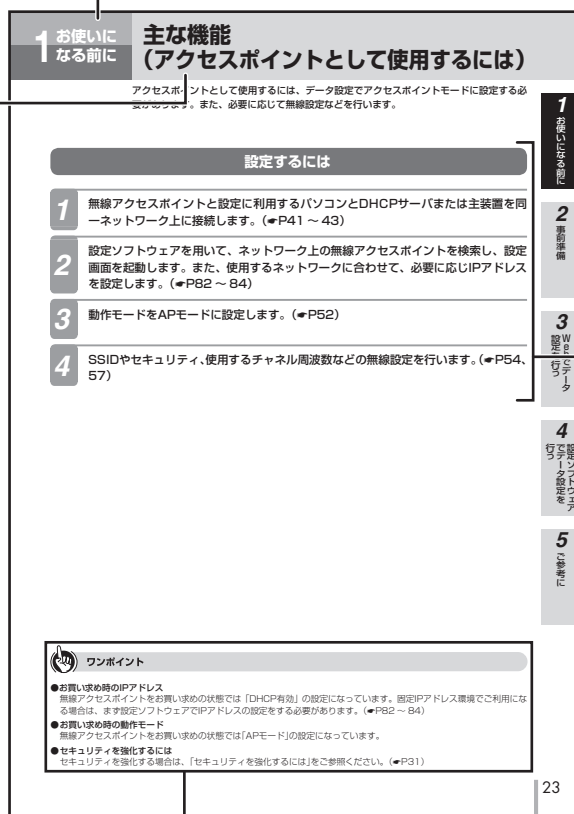
■装置の操作説明ページ

章タイトル

章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル

目的ごとにタイトルが付けられています。



操作手順説明

順番に操作を説明しています。

ワンポイント／お知らせ

〈ワンポイント〉

知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明を示しています。

〈お知らせ〉

この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

目次

| | |
|------------------------|----|
| 安全にお使いいただくために必ずお読みください | 2 |
| この取扱説明書の見かた | 9 |
| 目次 | 11 |

1 お使いになる前に

| | |
|-------------------------|----|
| 特長 | 13 |
| 各部の名前とはたらき/付属品 | 16 |
| 無線アクセスポイントの付属品 | 16 |
| 無線アクセスポイントの各部の名前とはたらき | 17 |
| 接続方法 | 19 |
| アクセスポイントモードと主装置を接続する | 20 |
| ステーションモードと給電HUBを接続する | 22 |
| 主な機能(アクセスポイントとして使用するには) | 23 |
| 設定するには | 23 |
| 無線LAN端末を無線アクセスポイントに | |
| 登録するには | 24 |
| 複数の無線アクセスポイントでご利用になる場合 | |
| (ローミング機能) | 25 |
| 主な機能(ステーションとして使用するには) | 26 |
| 設定するには | 26 |
| 自動登録モードで無線アクセスポイントに | |
| 登録するには | 27 |
| より便利に使用するには | 30 |
| さらに高速通信するには | 30 |
| セキュリティを強化するには | 31 |
| 音声優先を行うには | 32 |
| WPS登録を行うには | 33 |
| IPコードレス電話機を自動登録するには | 36 |
| RACSIAに接続する場合 | 39 |

2 事前準備

| | |
|-------------------|----|
| パソコンの接続 | 41 |
| 必要な準備 | 41 |
| 給電HUBを経由して主装置 | |
| またはDHCPサーバと接続する場合 | 42 |
| 直接パソコンと接続する場合 | 43 |
| パソコンのネットワーク設定 | 44 |
| Windows Vistaの設定 | 44 |

3 Webでデータ設定を行う

| | |
|---------------------|----|
| Webでデータ設定を行うには | 48 |
| 設定方法 | 48 |
| 無線アクセスポイントのデータ設定を行う | 50 |
| 設定メニュー一覧 | 50 |
| 基本機能を設定する | 52 |
| 無線機能を設定する | 54 |
| セキュリティを設定する | 57 |
| ACLを設定する | 59 |
| 詳細設定を設定する | 62 |
| フィルタリングを設定する | 64 |
| 手動/自動ファームウェア更新を行う | 66 |
| ローカルでファームウェアの | |
| バージョンアップを行う | 68 |
| 時刻設定を行う | 69 |
| 動作ログを表示する | 70 |
| 最大通話数ログを表示する | 71 |
| 統計情報を表示する | 72 |
| 設定内容一覧を表示する | 74 |
| 登録モードの設定を行う | 75 |

1
お使いになる前に

2
事前準備

3
Webでデータ
設定を行う

4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

目 次

4 設定ソフトウェアでデータ設定を行う

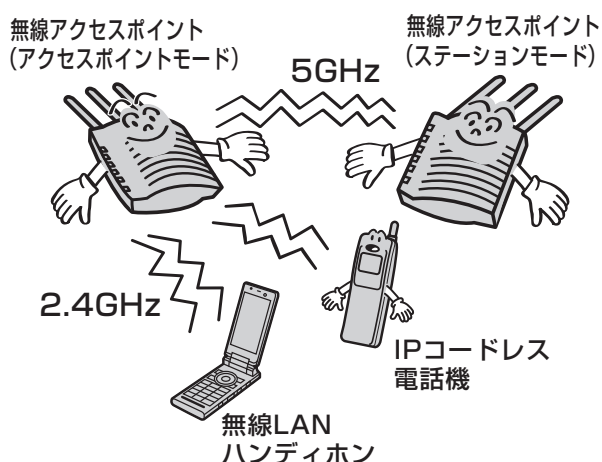
| | |
|--------------------------|-----|
| 設定ソフトウェアでデータ設定を行うには | 77 |
| 動作環境 | 77 |
| 無線アクセスポイントの設定について | 78 |
| IPコードレス電話機の設定について | 79 |
| インストール方法 | 80 |
| IPアドレスを設定する | 82 |
| 設定画面を起動する | 85 |
| 再起動を行う | 86 |
| 動作ログを取得する | 87 |
| 設定データを保存する | 89 |
| 保存した設定データを反映する | 92 |
| ファームウェアのバージョンアップを行う | 96 |
| 自動登録モードを起動する | 98 |
| ACL自動追加 | 100 |
| 接続図を表示する | 101 |
| IPコードレス電話機のメールアドレス帳を設定する | 103 |
| IPコードレス電話機の無線関連設定を設定する | 106 |
| アクセスポイント設定連携 | 109 |
| IPコードレス電話機の詳細動作設定を設定する | 110 |
| 着信メロディ設定 | 112 |
| IPコードレス電話機のメール設定を設定する | 114 |
| IPコードレス電話機の設定内容の保存・反映を行う | 116 |
| IPコードレス電話機のバージョンアップを行う | 118 |
| 設定ソフトウェアの環境設定を行う | 119 |

5 ご参考に

| | |
|---------------------|-----|
| 設定ソフトウェアのバージョンを確認する | 121 |
| 着信メロディー一覧 | 122 |
| エラーコード一覧 | 123 |
| 故障かな？と思ったら | 124 |
| 用語の説明 | 129 |
| 索引 | 131 |
| 仕様 | 132 |
| 設定確認シート | 133 |
| 保守サービスのご案内 | 135 |
| 著作権と使用許諾 | 137 |

デュアルバンド高速無線LAN対応

IEEE802.11a/n (5GHz帯)、IEEE802.11b/g/n (2.4GHz帯)それぞれの方式を利用して、音声通話とデータ通信を同時に行えます。さらにアクセスポイントモードの場合、各バンドを同時に利用できるデュアルバンドアクセスポイントとして動作します。



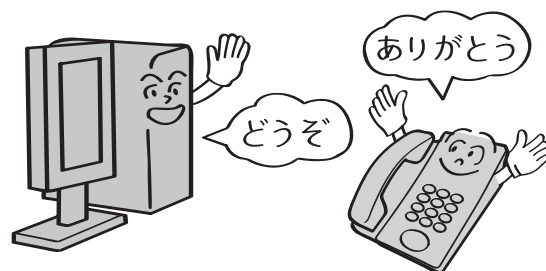
多彩なセキュリティ機能

IEEE802.11iに準拠したWPA2など、多彩で強力なセキュリティを搭載しています。また、SSID隠蔽の利用や接続する無線LANカードなどを指定することにより、不正アクセスを防ぎます。



音声優先機能

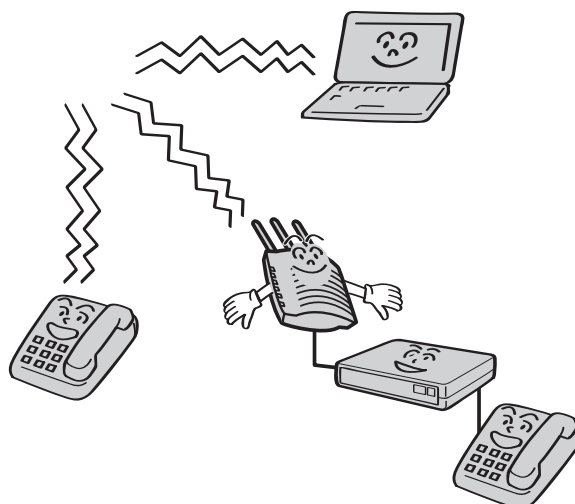
IEEE802.11eに準拠するWMM機能に対応したVoIP優先QoS制御により、安定した音声通話をご利用になれます。



用途に合わせた接続形態

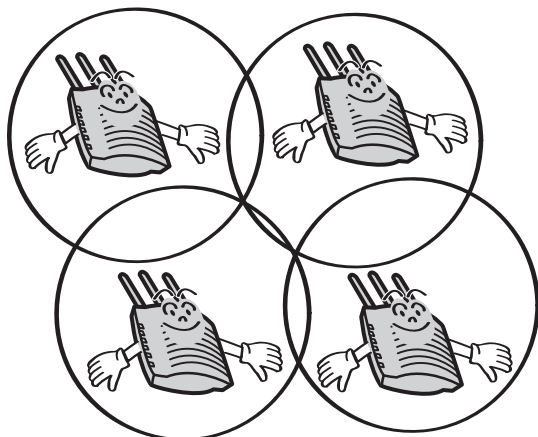
データ設定により無線ステーションとして使用することができます。IP多機能電話機と接続することによって、無線IP多機能電話機としてご利用になれます。

また、複数のIP多機能電話機がある場所で無線で接続する場合は、給電HUBと接続することによって、無線給電HUBとしてご利用になれます。パソコンを接続する場合は、無線LANカードをご利用になることもできます。



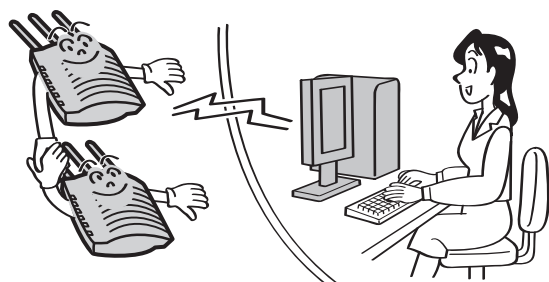
無線エリアに最大4台の無線アクセスポイントを設置可能

無線エリアを同一方式で最大4つまで設置可能です。電波が届く範囲に最大4台まで無線アクセスポイントを設置し、干渉しない無線LAN環境を構築することができます。(IEEE802.11g/nの場合は3つまで)



多彩な設定方法

Webブラウザを利用して無線アクセスポイントを設定することができます。複数の無線アクセスポイントを一度に設定する場合には、専用の設定ソフトウェアをご利用ください。



PoE (LANケーブルからの電源給電) に対応

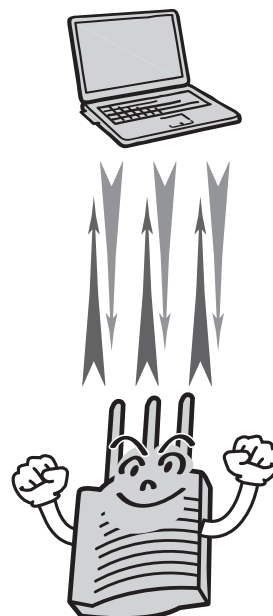
無線アクセスポイントはPoE (Power over Ethernet)の受電機能を持っています。給電HUBに無線アクセスポイントを接続することによって、電源アダプタが不要になります。



高速通信機能

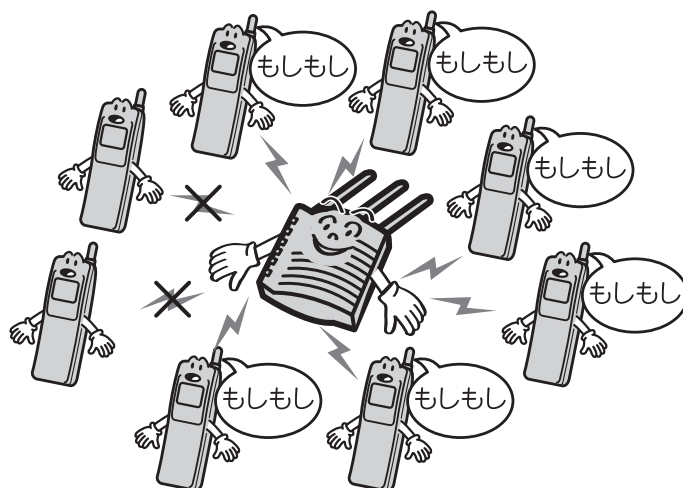
IEEE802.11nドラフト2.0に準拠し、高速で品質の高い通信を実現しています。(セキュリティ方式がWEPまたはTKIPのときは、IEEE802.11nの機能は動作しません)

アンテナはMIMOに対応しており、また、拡張無線帯域を40MHzに設定することにより、より高速な通信が可能になります。



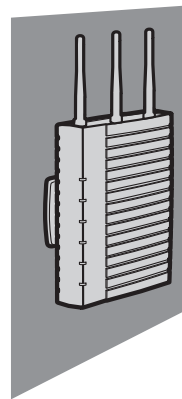
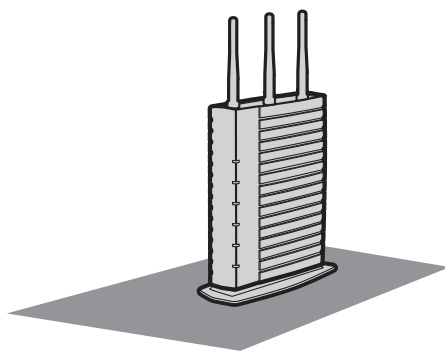
通話チャネル数制御

無線アクセスポイントで通話数をカウントし、IPコードレス電話機、無線LAN/ハンディホンの通話を設定通話本数以上の通話に対して制御することができます。



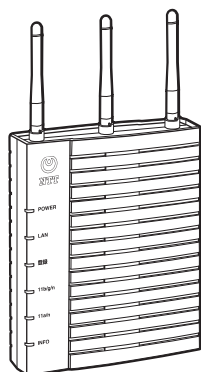
設置方式

縦置きで設置するほか、壁に取り付けることができます。

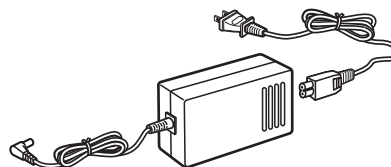


各部の名前とはたらき/付属品

■無線アクセスポイント

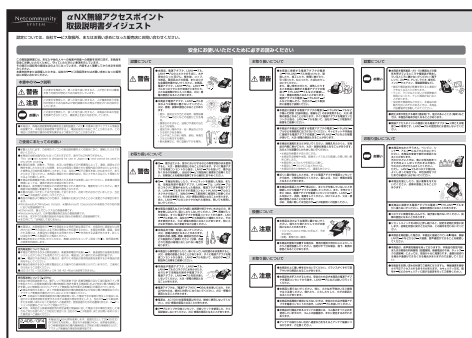


無線アクセスポイント

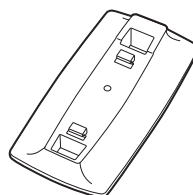


電源アダプタ(K)-094
※別売

無線アクセスポイントの付属品



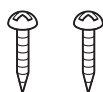
αNX無線アクセスポイント
取扱説明書ダイジェスト(1部)



スタンド



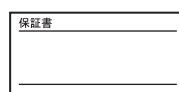
CD-ROM



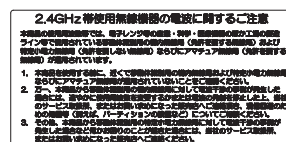
壁掛け用木ねじ
(2本)



ワッシャ
(2個)



保証書



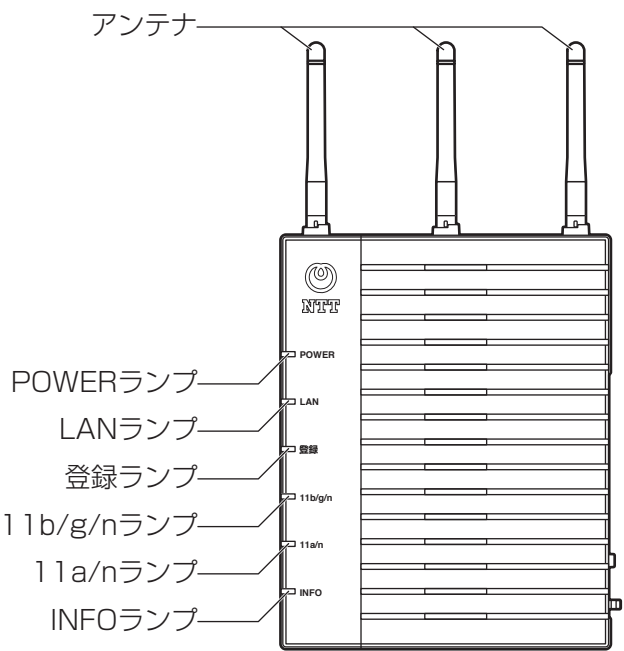
使用上の注意シール

●無線アクセスポイント付属品一覧

| 名称 | 個数 | 説明 |
|--------------------------|----|------------------------|
| αNX無線アクセスポイント取扱説明書ダイジェスト | 1 | 概要を説明しています。 |
| スタンド | 1 | 縦置きや壁掛けで設置するさいに使用します。 |
| CD-ROM | 1 | 取扱説明書と設定ソフトウェアが入っています。 |
| 壁掛け用木ねじ | 2 | 壁掛け用の木ねじです。 |
| ワッシャ | 2 | 壁掛け用の木ねじと一緒に使用します。 |
| 保証書 | 1 | 保証書です。大切に保管してください。 |
| 使用上の注意シール | 1 | 電波使用上の注意を記載したシールです。 |

無線アクセスポイントの各部の名前とはたらき

【正面】



●ランプ表示

| 名称 | 表示 | 状態 | 説明 | | | | | | | | | | |
|----------|---------|------------------------|---|------|----|-----|----|----|-------|-----|-----|-----|-----|
| POWERランプ | POWER | 無線アクセスポイントの起動状態を表示します。 | 消灯：電源オフ 点灯：正常動作中 | | | | | | | | | | |
| LANランプ | LAN | 有線LANの状態を表示します。 | 消灯：有線リンクできない状態 点灯：有線リンク中 データ送受信なし 緑点灯：100Mbps/1000Mbps接続時 オレンジ点灯：10Mbps 接続時 点滅：有線リンク中 データ送受信あり(点滅速度はデータ量に比例) | | | | | | | | | | |
| 登録ランプ | 登録 | 自動登録またはWPSの状態を表示します。 | 消灯：登録終了または通常動作中 点灯・点滅：自動登録またはWPS動作中 | | | | | | | | | | |
| WLANランプ | 11b/g/n | 無線LANの状態を表示します。 | 消灯：装置起動中または無線機能無効 点灯・点滅：IEEE802.11b/g/n無線リンク中 (点滅速度はデータ量による) | | | | | | | | | | |
| | 11a/n | | 消灯：装置起動中または無線機能無効 点灯・点滅：IEEE802.11a/n無線リンク中 (点滅速度はデータ量による) | | | | | | | | | | |
| INFOランプ | INFO | 無線アクセスポイントの動作状態を表示します。 | ステーションモードで動作中に電波状態を表示します。 電波状態： <table><tr><td>電波状態</td><td>強い</td><td>――→</td><td>弱い</td><td>圏外</td></tr><tr><td>ランプ表示</td><td>緑点灯</td><td>緑点滅</td><td>赤点滅</td><td>赤点灯</td></tr></table> 登録動作中の状態： 緑点灯：自動登録動作中 赤点灯：WPS登録動作中 初期化動作中の状態： オレンジ点灯：初期化動作中 アクセスポイントモードでは、通常動作中の電波状態は表示しません。 登録動作中以外は常に消灯です。 | 電波状態 | 強い | ――→ | 弱い | 圏外 | ランプ表示 | 緑点灯 | 緑点滅 | 赤点滅 | 赤点灯 |
| 電波状態 | 強い | ――→ | 弱い | 圏外 | | | | | | | | | |
| ランプ表示 | 緑点灯 | 緑点滅 | 赤点滅 | 赤点灯 | | | | | | | | | |

1
お使いになる前に

2
事前準備

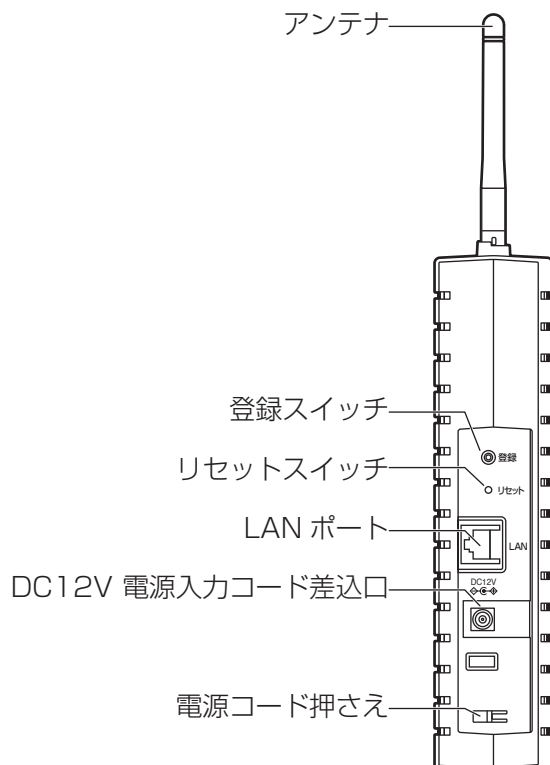
3
Webでデータ
設定を行う

4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

各部の名前とはたらき/付属品

【側面】



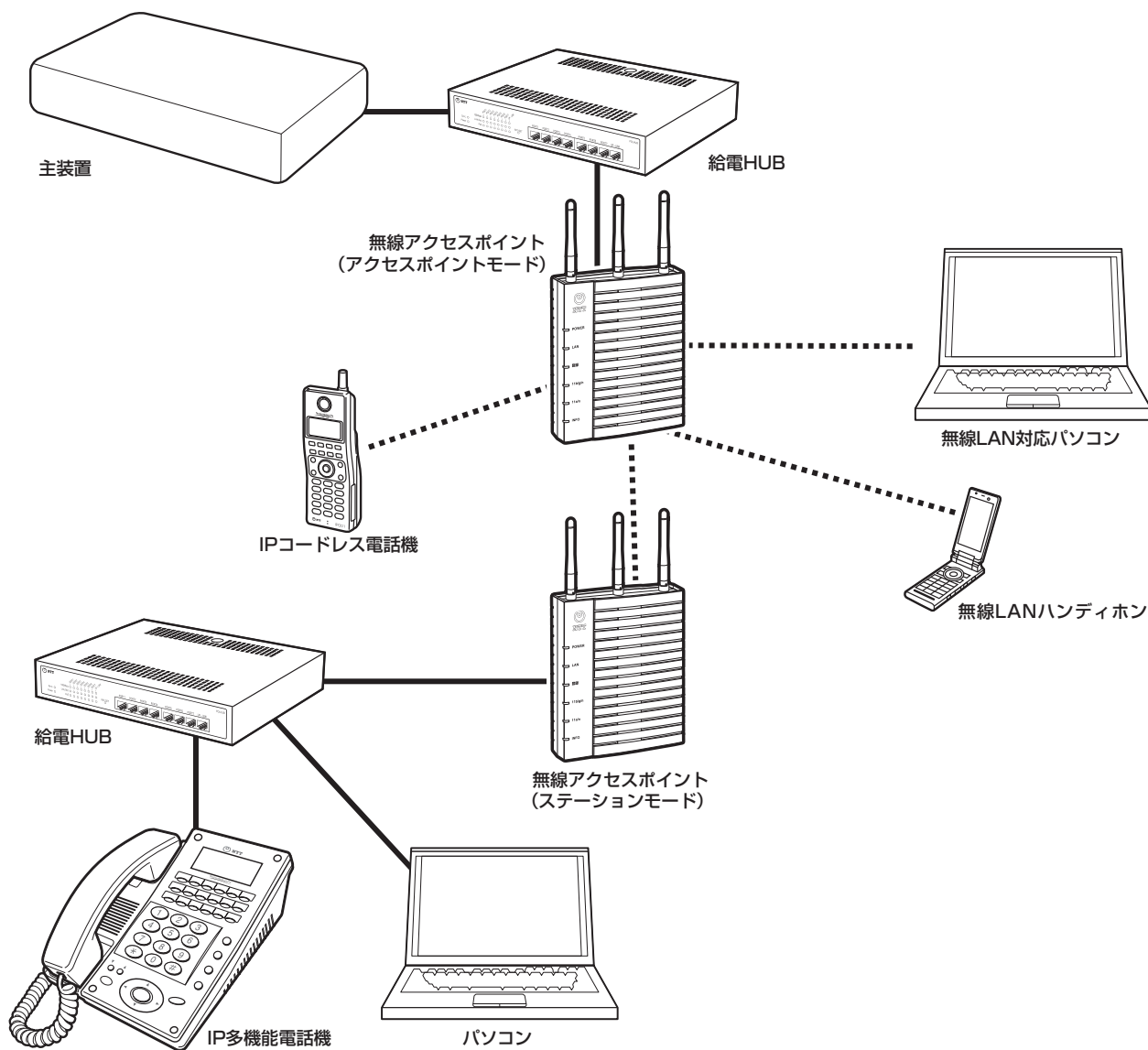
| 名称 | 表示 | 説明 |
|------------------|--------|--|
| 登録スイッチ | 登録 | 約3秒以上押し続けると自動登録モードまたはWPSモードになります。(通常は使用しないでください) |
| リセットスイッチ | リセット | 装置を再起動します。約4秒 (INFOランプがオレンジ点灯するまで) 押し続けると設定を初期状態に戻します。 |
| LANポート | LAN | 主装置やHUB、ルータなどのLANポートと接続します。 |
| DC12V 電源入力コード差込口 | DC 12V | 電源アダプタ(K) -094電源アダプタを接続します。 |
| 電源コード押さえ | — | 電源コードを固定するために使用します。 |



お知らせ

- 登録スイッチとリセットスイッチは、起動中を除いてPOWERランプが点灯しているときに使用できます。
- 電源立ち上げ時、データ設定およびファームウェア更新などによる再起動時は、POWERと登録ランプは点灯および消灯します。WLANランプの点灯で通常動作の開始が確認できます。
- アンテナは通常垂直に立てて使用してください。アンテナ同士を近づけすぎると通信品質が劣化することがあります。

無線アクセスポイントの構成例



お知らせ

- 無線アクセスポイントは、IEEE802.11a/b/g/n方式の無線LAN端末と接続できます。ただし、一部の無線LAN端末によっては、利用できない機能や、接続できないことがあります。
- 無線アクセスポイントは、音声優先機能を持っていますが、本商品の設定内容、またはお客様の利用環境（設置環境、無線電波の干渉、ネットワークの混雑等）によっては、性能が十分に発揮されず、音声通話が途切れる場合や音声通話ができなくなる場合がありますのでご注意ください。
- X7000の無線アクセスポイント専用接続ポートに接続する場合、X7000の給電機能は使用できません。電源アダプタ(K)-094を接続してください。
- 無線アクセスポイントは他の無線LAN端末とは2m以上離して使用してください。

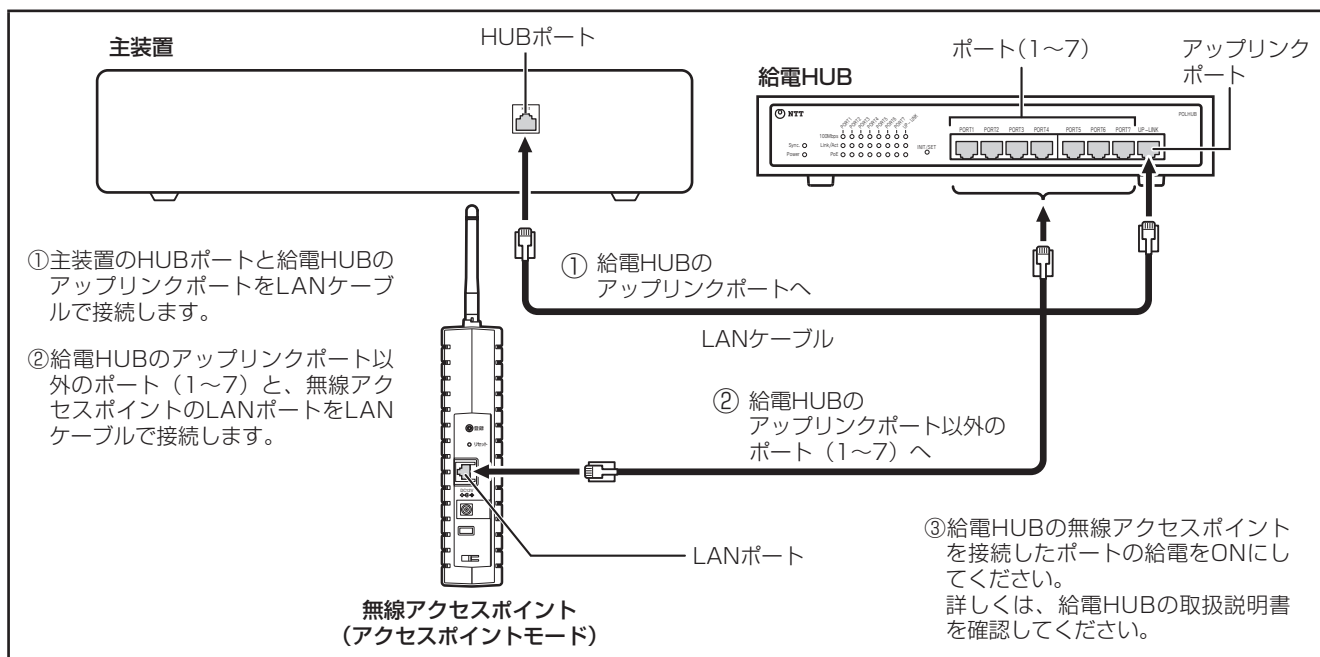
アクセスポイントモードと主装置を接続する

LANケーブルは、カテゴリ 5e以上のストレートケーブルを使用してください。

無線アクセスポイントをデータ設定でアクセスポイントモードに設定してください。(P23)

■ 給電HUBに無線アクセスポイントを接続する

αNX給電HUBの接続例





ワンポイント

●給電方式によるアンテナの送信方式の違いについて

本装置がデュアルバンドアクセスポイントモードの時、LANポートからの給電で動作させた場合にアンテナの送信方式が以下のように制限されます。

| 動作モード | 電源アダプタ給電の場合 | LANポート給電の場合 |
|--|-------------|-------------|
| デュアルバンドアクセスポイントモード (5GHz帯／2.4GHz帯どちらも有効) | 3本のアンテナを使用 | 2本のアンテナを使用 |
| シングルバンドアクセスポイントモード (5GHz帯または2.4GHz帯どちらかを無効) | 3本のアンテナを使用 | |
| ステーションモード | 3本のアンテナを使用 | |

IEEE802.11nの合成ダイバシティによる高品質特性を最大限利用される場合は、オプションの電源アダプタ(K)－094を接続してください。

なお、3本目のアンテナは補助的な役割を果たすものですので、どちらの場合も理論上の最大スループットは変わりません。



お知らせ

- 主装置側ネットワークに接続できるのはアクセスポイントモードに設定したときです。ステーションモードに設定して接続しないでください。データ通信ができなくなる場合があります。
- 無線アクセスポイントは見通しのよい高い場所に設置してください。
- 給電HUBなどに正しく接続し、電源が供給されている場合は、POWERランプが緑色に点灯します。
- 給電HUBに接続する場合は、無線アクセスポイントに電源を接続する必要はありません。給電機能のないHUBや主装置に接続する場合は、別売の電源アダプタ(K)－094を接続してください。
- 電源アダプタと給電HUBを接続している場合は、電源アダプタから電源が供給されます。また、電源アダプタを抜くと給電HUBからの電源供給に切り替わりますが、そのときに無線アクセスポイントが再起動しますのでご注意ください。
- 壁掛けにする場合は、添付のスタンド、木ねじ、ワッシャを利用して取り付けます。木ねじは、壁面から約7mm残して取り付けます。スタンドは、無線アクセスポイントの背面に取り付け、木ねじに掛けます。
- 無線アクセスポイントを複数台設置する場合、お互いの電波が届く範囲に最大3台まで設置可能です。(2.4GHz帯で1台以上IEEE802.11bのみを使用するように設定したときのみ最大4台まで設置可能です。)ただし、1台の無線アクセスポイントで、使用するバンド幅を1つに限定(IEEE802.11a/nを無効、またはIEEE802.11b/g/nを無効)した場合は
 - ・最大7台(IEEE802.11a/n使用を4台、IEEE802.11b/g/n使用を3台)
 - ・最大8台(IEEE802.11a/n使用を4台、IEEE802.11bのみ使用を4台)
 設置可能です。拡張無線帯域を使用する場合は、設置台数はさらに制限されます。

「さらに高速通信するには」
P30)
- W53 (52ch～64ch) を使用すると、無線アクセスポイントを増やすことができますが、設定地域や環境により自動的にW52 (36ch～48ch)に変更される場合がありますのでご注意ください。
- 1台の無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)に多数の無線アクセスポイント(ステーションモード)や無線LANカード等を収容した場合、極端にスループットが低下したり、データ通信ができなくなる場合がありますのでご注意ください。
- 5GHz帯周波数を利用する場合は、屋外では使用できません。屋外で使用する場合は、データ設定で「無線機能：802.11a/n」を無効にしてください。

ステーションモードと給電HUBを接続する

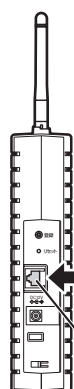
LANケーブルは、カテゴリ 5e以上のストレートケーブルを使用してください。

無線アクセスポイントをデータ設定でステーションモードに設定してください。(●P26)

αNX給電HUBの接続例

無線アクセスポイント（ステーションモード）のLANポートと給電HUBのアップリンクポートをLANケーブルで接続します。

無線アクセスポイント
(ステーションモード)



LANポート

LANケーブル

給電HUB

給電HUBのアップリンクポートの給電をONにしてください。
詳しくは、給電HUBの取扱説明書を確認してください。

アップリンクポート

ポート(1~7)



PC



IP多機能電話機



お知らせ

- ステーションモードに設定したときは、主装置側のネットワークには接続しないでください。データ通信ができなくなる場合があります。
- 無線アクセスポイント（ステーションモード）と無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）を同一ネットワーク上に接続しないでください。データ通信ができなくなる場合があります。
- ステーションモードに設定した無線アクセスポイントのLANポート側に、各種サーバ類を設置しないでください。データ通信ができなくなる場合があります。
- 給電HUBに接続する場合は、無線アクセスポイントに電源を接続する必要はありません。給電機能のないHUBに接続する場合は、別売の電源アダプタ(K)-094を接続してください。
- 壁掛けにする場合は、添付のスタンド、木ねじ、ワッシャを利用して取り付けます。木ねじは、壁面から約7mm残して取り付けます。スタンドは、無線アクセスポイントの背面に取り付け、木ねじに掛けます。

主な機能 (アクセスポイントとして使用するには)

アクセスポイントとして使用するには、データ設定でアクセスポイントモードに設定する必要があります。また、必要に応じて無線設定などを行います。

設定するには

- 1 無線アクセスポイントと設定に利用するパソコンとDHCPサーバまたは主装置を同一ネットワーク上に接続します。(●P41 ~ 43)
- 2 設定ソフトウェアを用いて、ネットワーク上の無線アクセスポイントを検索し、設定画面を起動します。また、使用するネットワークに合わせて、必要に応じIPアドレスを設定します。(●P82 ~ 84)
- 3 動作モードをAPモードに設定します。(●P52)
- 4 SSIDやセキュリティ、使用するチャンネル周波数などの無線設定を行います。(●P54、57)



ワンポイント

- お買い求め時のIPアドレス
無線アクセスポイントをお買い求めの状態では「DHCP有効」の設定になっています。固定IPアドレス環境でご利用になる場合は、まず設定ソフトウェアでIPアドレスの設定をする必要があります。(●P82 ~ 84)
- お買い求め時の動作モード
無線アクセスポイントをお買い求めの状態では「APモード」の設定になっています。
- セキュリティを強化するには
セキュリティを強化する場合は、「セキュリティを強化するには」をご参照ください。(●P31)

無線LAN端末を無線アクセスポイントに登録するには

- 1 無線LAN端末のSSIDやセキュリティを無線アクセスポイントに合わせて設定します。
- 2 設定後、無線アクセスポイントのWeb画面にて登録されていることを確認します。
(「統計情報を表示する」▶P72)



ワンポイント

- ステーションモードに設定した無線アクセスポイントおよびIPコードレス電話機は、自動登録モードを利用すると簡単に設定できます。
 - ・「自動登録モードで無線アクセスポイントに登録するには」(▶P27 ~ 29)
 - ・「IPコードレス電話機を自動登録するには」(▶P36 ~ 38)



お知らせ

- 無線LANカードの設定については、ご利用の無線LANカードの取扱説明書を参照してください。
- 無線LANカードの設定は、設定ソフトウェア、自動登録モードによる設定はご利用になれません。
- 無線アクセスポイントでSSID隠蔽(「セキュリティを設定する」▶P57)を行っている場合には、無線LANカードの機能で無線アクセスポイントを検索できないことがあります。このような場合は、SSID隠蔽を無効にしてご利用ください。
- セキュリティ方式でWEP152bitを選択した場合には、無線LANカードなどを接続できないことがあります。
- IEEE802.11a/nの周波数は、W52およびW53対応になっています。J52対応の無線LANカードでは接続できないことがあります。詳しくは無線LANカードの取扱説明書を参照してください。
- 無線LANカードのWEP暗号キーの設定は「キー番号1※」に設定してください。それ以外のキー番号には対応していません。
※：装置によって名称が異なることがあります。無線LANカードのメーカーなどへお問い合わせください。
- 無線設定のSSIDが一致していても、セキュリティ方式および暗号キーが一致していない場合は、統計情報に登録されていても通信できない場合があります。通信できない場合は、設定を再確認してください。(「セキュリティを設定する」▶P57)

複数の無線アクセスポイントでご利用になる場合(ローミング機能)

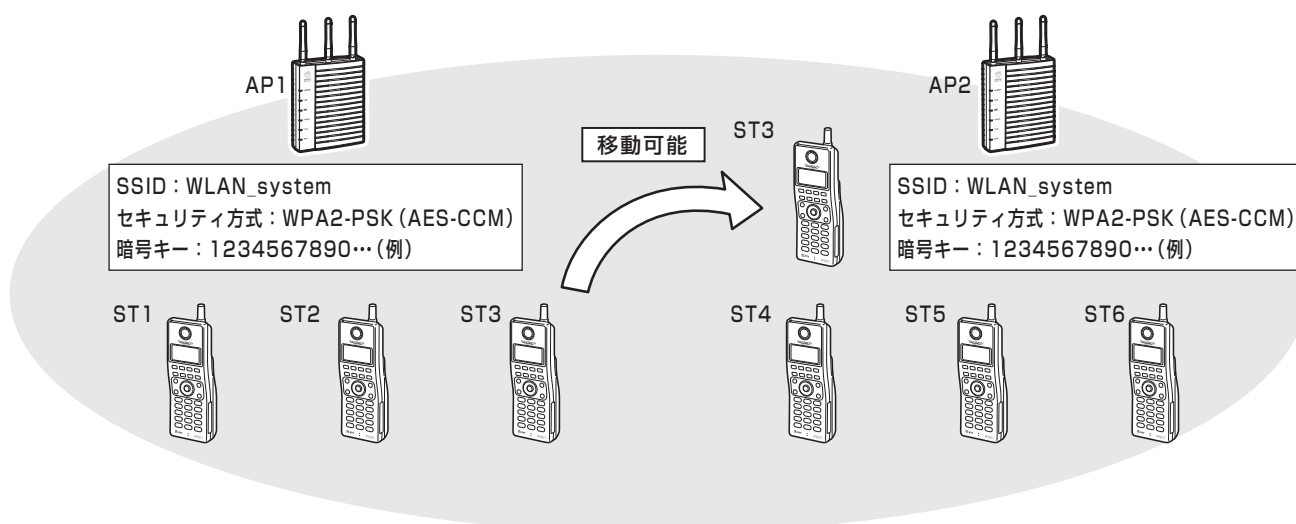
複数の無線アクセスポイントに接続できるようにするには、次の設定を各無線アクセスポイント、IPコードレス電話機などの無線アクセスポイントに接続される無線LAN端末で同一にしておく必要があります。

- SSIDを一致させる(「無線機能を設定する」●P54)
- セキュリティ設定を一致させる(「セキュリティを設定する」●P57)
- ACL制御を使用している場合は、無線アクセスポイント(ステーションモード)、無線LANカードなどをすべての無線アクセスポイントに登録する(「ACLを設定する」●P59)
- 無線アクセスポイントの周波数を固定で設定する(「無線機能を設定する」●P54)

■ ローミング機能

ローミング範囲の無線アクセスポイントとIPコードレス電話機などの無線アクセスポイントに接続される無線LAN端末の設定を同一にしておくことで、接続している無線アクセスポイントとの通信が途切れたときにも、接続を切り替えて、自動的に接続可能な無線アクセスポイントを検出し、利用できます。これをローミング機能といいます。

<ローミングが可能な場合の例>



STnはIPコードレス電話機などの無線LAN端末を指す



ワンポイント

- セキュリティを強化する場合には、「セキュリティを強化するには」(●P31)をご参照ください。



お知らせ

- 複数の無線アクセスポイントを使用している環境で、それぞれの無線アクセスポイント、IPコードレス電話機などの無線アクセスポイントに接続される無線LAN端末の設定が異なる場合には、その無線アクセスポイントの電波領域外に出ると接続できません。
- ローミングして無線アクセスポイントとの接続を切り替えるとき、通話やデータ通信が一時的に途切れたり切断されることがあります。
- RACSIAに無線アクセスポイントを増設して使用する場合も、複数の無線アクセスポイントを使用している環境になります。上記例のAP1をRACSIAに置き換え設定する必要があります。
- 複数の無線アクセスポイントを使用する場合は、チャンネル周波数を固定に設定し、使用する周波数は重ならないようにする必要があります。

主な機能 (ステーションとして使用するには)

ステーションとして使用するには、データ設定でステーションモードに設定する必要があります。また、必要に応じて無線設定などを行います。

設定するには

- 1 無線アクセスポイントと設定に利用するパソコンを同一ネットワーク上に接続します。(●P41 ~ 43)
- 2 設定ソフトウェアを用いて、ネットワーク上の無線アクセスポイントを検索し、設定画面を起動します。また、使用するネットワークに合わせて、必要に応じIPアドレスを設定します。(●P82 ~ 84)
- 3 動作モードをSTA (5GHz)モードに設定します。(●P52)
- 4 接続する無線アクセスポイントに合わせて、SSIDやセキュリティなどの無線設定を行います。(●P54、57)
- 5 設定後、無線アクセスポイントのWeb画面にて登録されていることを確認します。
(「統計情報を表示する」 ●P72)



お知らせ

- 無線設定のSSIDが一致していても、セキュリティ方式および暗号キーが一致していない場合は、統計情報に登録されていても通信できない場合があります。通信できない場合は、設定を再確認してください。

自動登録モードで無線アクセスポイントに登録するには

自動登録を行うことにより、簡単な操作で無線アクセスポイントに接続することができます。

無線アクセスポイントのWebブラウザにて登録スイッチを自動登録動作に設定する

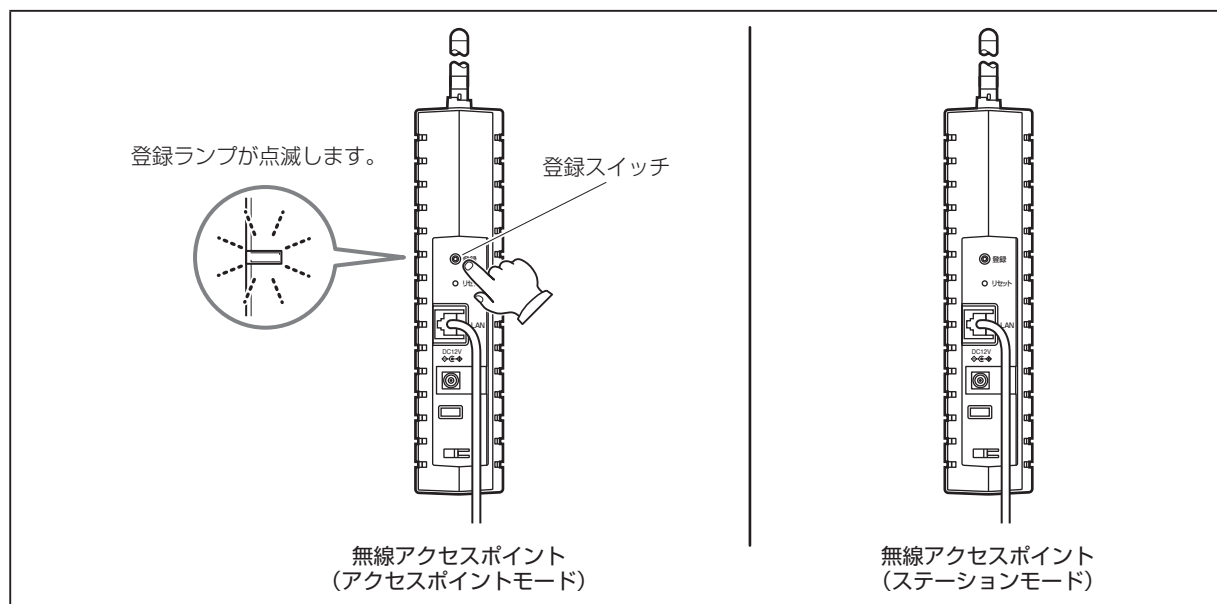
- ①メインメニューの[登録モード]をクリックする。
- ②登録スイッチを自動登録に設定して、[設定保存]をクリックする。

The screenshot shows the '登録モード' (Registration Mode) page. On the left is a sidebar menu with options like 'データ設定', 'セキュリティ設定', '保守', and '再起動'. The main content area is titled '登録モード' and contains three sections: '登録スイッチ設定', '自動登録', and 'WPS'. The '登録スイッチ設定' section has a table with columns '設定項目', '動作モード', and '備考'. The '動作モード' dropdown is set to '自動登録'. Below this is a '設定保存' button. The '自動登録' section has a table with columns '設定項目', '設定値', and '備考'. The 'WPS' section has a table with columns '設定項目', '設定値', and '備考'. At the bottom, there are instructions for WPS PBC and Push Button methods.

- ③メインメニューの[再起動]にて無線アクセスポイントの再起動操作を行う。

通常運用中に、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)側面の登録スイッチを登録ランプが赤点灯するまで押す

しばらくしてから無線アクセスポイントが再起動し、登録ランプがゆっくり赤点滅します。

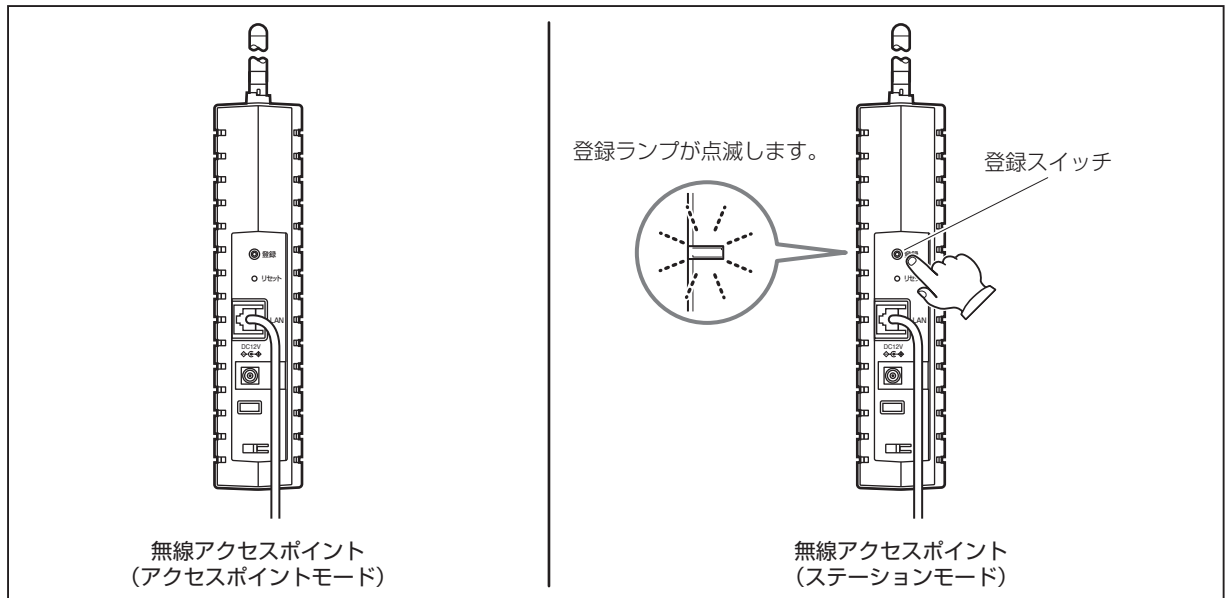


(前ページのつづき)

3

無線アクセスポイント(ステーションモード)側面の登録スイッチを登録ランプが赤点灯するまで押す

しばらくしてから無線アクセスポイントが再起動し、登録ランプがゆっくり赤点滅します。



4

無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)・無線アクセスポイント(ステーションモード)の登録ランプがともに消灯し、再起動して完了



ワンポイント

- 無線アクセスポイントは登録スイッチの代わりに、Webブラウザの[自動登録開始] ボタンをクリックすることで自動登録を開始することができます。
- お買い求め時、登録スイッチは自動登録に設定されています。
- 自動登録を実施した無線アクセスポイント（ステーションモード）またはIPコードレス電話機は、ACLに自動的に登録されます。
- 自動登録を実施した無線アクセスポイント（ステーションモード）のDHCP設定は、自動的に無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）と同じ設定になります。
- IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイは変更されません。無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）が「DHCP無効」の場合、設定内容更新前の値になります。また、お買い求め後または初期化後一度も設定変更せずに設定内容更新した場合は、それぞれ以下の値になります。正しい値を設定してください。

IPアドレス：192.168.1.20

サブネットマスク：255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ：設定なし



お知らせ

- 自動登録中は、その無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）に接続していた無線アクセスポイント（ステーションモード）、無線LANカードとは通信できません。
- 無線アクセスポイントのACLアドレステーブルが100件登録されていると自動登録モードを起動できません。不要なACLアドレステーブルを削除してください。
- 自動登録が失敗した場合は、無線アクセスポイント（ステーションモード）の登録ランプが赤点灯（約10秒間）になり、その後自動的に再起動します。もう一度自動登録を行ってください。
- 自動登録モードは、最大5分間継続します。自動登録モードを解除するには、装置のリセットスイッチを押して再起動してください。
- 固定IPアドレスで使用する場合は、自動登録を行った後に増設した無線アクセスポイント（ステーションモード）のIPアドレスの設定を行ってください。
- 無線アクセスポイント（ステーションモード）を給電HUBに接続して使用する場合は、給電HUBには無線アクセスポイント（ステーションモード）以外接続しないで自動登録を行ってください。また、別売の電源アダプタ（K）-094をご利用の場合には、無線アクセスポイント（ステーションモード）のLANポートは未接続の状態です。
- 一度に自動登録できるのは、無線アクセスポイント（ステーションモード）またはIPコードレス電話機の一台中だけです。同時に複数操作すると全ての自動登録が失敗する可能性があります。
- セキュリティ方式が802.1X/WPA/WPA2の場合は、自動登録できません。
- 自動登録は無線アクセスポイントが自動登録モードになったのを確認した後に、端末（無線ステーション等）を自動登録モードにしてください。
- 無線アクセスポイント（ステーションモード）の操作は、無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）の登録スイッチを押してから5分以内に行ってください。

より便利に使用するには

さらに高速通信するには

拡張無線帯域機能を用いることで、無線上の通信速度をさらに高速にできます。

(「無線機能を設定する」▶P54)



お知らせ

- 拡張無線帯域機能を用いると、通常の倍の無線周波数帯を使用するため、設置台数が半分にになります。
- 拡張無線帯域を40MHzに設定した場合、チャンネル周波数を自動、チャンネル指定どちらで設定した場合も選択した基本周波数と拡張周波数を「拡張無線帯域の組み合わせ表」の組み合わせで使用します。

拡張無線帯域の組み合わせ表

| | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 5GHz | 基本周波数 | 5180 36ch | 5200 40ch | 5220 44ch | 5240 48ch | 5260 52ch | 5280 56ch | 5300 60ch | 5230 64ch | | | |
| | 拡張周波数 | 5200 40ch | 5180 36ch | 5240 48ch | 5220 44ch | 5280 56ch | 5260 52ch | 5230 64ch | 5300 60ch | | | |
| 2.4GHz | 基本周波数 | 2412 1ch | 2417 2ch | 2422 3ch | 2427 4ch | 2432 5ch | 2437 6ch | 2442 7ch | 2447 8ch | 2452 9ch | 2457 10ch | 2462 11ch |
| | 拡張周波数 | 2432 5ch | 2437 6ch | 2442 7ch | 2447 8ch | 2452 9ch | 2457 10ch | 2462 11ch | 2427 4ch | 2432 5ch | 2437 6ch | 2442 7ch |

単位：MHz

- チャンネル周波数が2467MHz（12ch）または2472MHz（13ch）の場合は、拡張無線帯域40MHzは対応していません。
- 802.11bモードでの拡張無線帯域40MHzは対応していません。
- 無線アクセスポイントに接続する有線側ネットワークの通信速度によっては、通信速度が抑えられることがあります。有線側ネットワークの高速化が必要です。
- 接続する無線LAN端末によっては、拡張無線帯域の機能が動作しない場合があります。

セキュリティを強化するには

本商品のセキュリティは大きく以下の項目にて実現します。

● 暗号化

- ・ WEP (64/128/152bit)
…IEEE 802.11のセキュリティシステムであり送信されるパケットを暗号化して傍受者からのアクセスを防ぎます。
- ・ AES-CCM
…AES (Advanced Encryption Standard)は、現時点において最高水準の暗号化方式です。
- ・ TKIP
…従来採用されてきたWEPの弱点を補強し、暗号キーを一定時間ごとに自動的に更新することで、セキュリティ強度を向上します。

● 認証方式

- ・ WPA/WPA2/IEEE 802.1X
…ネットワーク内でユーザー認証を行うための規格です。
EAP認証という認証方式を採用し、「ユーザー ID・パスワード」による認証方式に対応しています。認証は認証サーバ(RADIUS)で行います。
- ・ WPA-PSK/WPA2-PSK
…共通キーの一致する端末が接続でき、認証は無線アクセスポイントで行います。暗号化にはTKIPまたはAES-CCMが使用されます。

● ACL

…ACL (アクセスコントロールリスト) は、リストに設定がある無線アクセスポイント (ステーションモード)、無線LANカードなどからのアクセスを許可し、ほかの無線アクセスポイント (ステーションモード)、無線LANカードなどからのアクセスを遮断できます。

● SSID隠蔽

…無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)は、定期的にBeaconという情報を無線LAN端末に対して送出しています。その中にSSIDを入れることにより、無線LAN端末は無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)を検索して接続しやすくなります。
SSIDを隠蔽すると、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)を検索できなくなりますので、意図しない侵入を防ぎます。

● 送信強度

…無線アクセスポイントの無線送信出力を調節し、意図しないユーザーからのアクセスを防ぎます。



ワンポイント

- お買い求めの状態では、セキュリティ方式はWEPに設定され、SSID隠蔽が設定されています。
さらにセキュリティを強化させるには、セキュリティ方式をWEP以外に設定し、ACL、送信強度と組み合わせて使用されることをお勧めします。
- ・ セキュリティ方式をAESに設定する(「セキュリティを設定する」 ●P57)
- ・ ACL制御を行う(「ACLを設定する」 ●P59)
- ・ 定期的に暗号キーを変更する(「セキュリティを設定する」 ●P57)
- ・ SSIDの隠蔽を行う(「セキュリティを設定する」 ●P57)
- ・ 送信強度を調整する(「無線機能を設定する」 ●P54)



お知らせ

- セキュリティを強化していない環境で使用しますと、無線通信を傍受され不正アクセスされるおそれがありますので必ず行ってください。
- 無線LANカード等をご利用の場合には、SSIDの隠蔽を利用した場合や、セキュリティ方式によっては、無線アクセスポイントに接続できないことがあります。無線LANカード等の取扱説明書を参照してください。
- VP-無線ステーションを本商品に接続して使用する場合、暗号化タイプをAESで使用することはできません。
- IPコードレス電話機をご利用になる場合は、設定できる暗号に制約があります。詳しくは、接続する主装置に対応したIPコードレス電話機の取扱説明書を参照してください。

音声優先を行うには

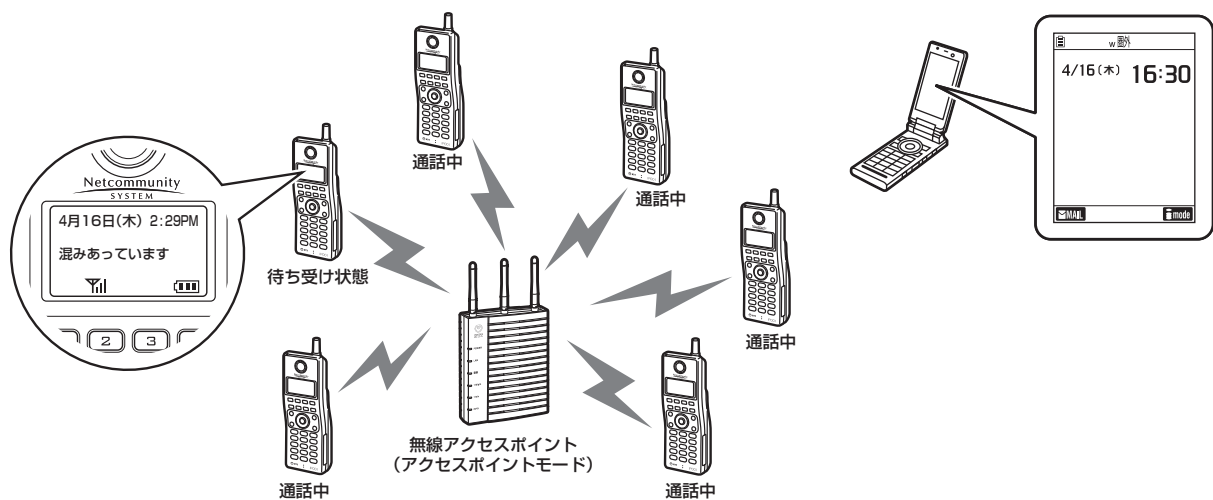
■ 優先パケット対応

音声優先は優先度の高いパケットを先に処理することで、音声通信などのリアルタイムなパケットを優先して送信する機能です。音声優先を行う場合は、QoSの設定を有効にしてください。（「無線機能を設定する」▶P54）

■ 通話台数制限

無線アクセスポイントで通話できる台数を設定します。

IPコードレス電話機や、無線LANハンディホンを使用する場合に設定します。（「無線機能を設定する」▶P54）



■ 接続台数制限

無線アクセスポイントに接続される無線LAN端末の数を制限することで、接続されている無線LAN端末の通話品質を維持させます。

・最大接続数を設定する（「無線機能を設定する」▶P54）

■ 不要なパケットを破棄するには

フィルタリングを設定することで、無線側ネットワークに不要なパケットを送信しないようにできます。（「フィルタリングを設定する」▶P64）



お知らせ

- IEEE802.11a/n（5GHz帯）では最大通話数の機能は使用できません。
- 通話台数制限を利用するには、QoSの設定を有効にし、対象のIPコードレス電話機や無線LANハンディホンなどの通話端末の音声パケットを優先パケットにする必要があります。端末の仕様をご確認願います。
- 最大通話数の測定は目安です。場合によっては最大通話数を超えて通話ができたり、最大通話数に満たない状態で通話ができなくなる場合があります。
- 設定された最大通話数になると、通話していないIPコードレス電話機は発信、着信ができなくなります。
- 設定された最大通話数になると、通話していない無線LANハンディホンは無線アクセスポイントとの無線接続を切断されます。無線アクセスポイントが複数台設置されている場合は、別の無線アクセスポイントにローミングします。
- 接続台数制限数は、同時に登録した場合などタイミングによっては制限を超えて登録できることがあります。

1 お使いになる前に

2 事前準備

3 V-E比でターゲット設定を行う

4でデータ設定を

5
ご参考に

- 1



2



4

33

■ PINコード方式を使用する場合

1

無線アクセスポイントのWebブラウザにてWPSを有効にする

- ①メインメニューの[登録モード]をクリックする。
- ②WPS機能を使用する無線帯域に設定して、[設定保存]をクリックする。
- ③メインメニューの[再起動]にて無線アクセスポイントの再起動操作を行う。

2

接続する端末のWPS機能をPINコード方式で動作させる

3

PINコードを入力する

- ①メインメニューの[登録モード]をクリックする。
- ②無線子機PINコードにPINコードを入力する。
接続する端末に入力したPINコードと同じコードを入力する必要があります。
- ③[開始]をクリックして、[OK]をクリックする。

The screenshot shows the '登録モード' (Registration Mode) page. On the left is a sidebar menu with options like 'データ設定', 'セキュリティ設定', '保守', and '再起動'. The main content area is titled '登録モード' and contains several sections: '登録スイッチ設定', '自動登録', 'WPS', and 'WPS開始'. The 'WPS' section is currently active, showing a table with '設定項目' (Setting Item), '設定値' (Setting Value), and '備考' (Remarks). The 'WPS' section has a dropdown menu set to 'WPS' and a '設定保存' (Save Setting) button. Below it, the 'WPS開始' (Start WPS) section is visible, showing a table with '無線子機 PINコード' (Wireless Device PIN Code) and 'ブッシュボタン方式' (Push Button Method). The '無線子機 PINコード' field has a text input box and a '開始' (Start) button. The 'ブッシュボタン方式' field has a '開始' (Start) button. At the bottom, there are three bullet points providing instructions on how to use the PIN code and the push button method.

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|--------|--------------|--|
| 登録スイッチ | WPS | 登録スイッチの動作モードを設定します。 自動登録: 登録スイッチより、自動登録を開始する事ができます。 WPS: 登録スイッチより、WPSプッシュボタン方式を開始する事ができます。 |
| 自動登録 | 自動登録開始 | 自動登録モードを開始します。 |
| WPS | WPS機能(有効/無効) | WPS機能の有効/無効を設定します。 |
| WPS開始 | 無線子機 PINコード | 無線子機 PINコードを入力します。 |
| | ブッシュボタン方式 | WPSプッシュボタン方式を開始します。 |

- 各設定項目において、データの登録/変更を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックしてください。
- 「設定保存」をクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

4

端末側がWPSを開始すると、無線アクセスポイントの登録ランプが点滅する

5

無線アクセスポイントの登録ランプが消灯して、登録完了



ワンポイント

- 無線アクセスポイントは登録スイッチの代わりに、Webブラウザのプッシュボタン方式の「開始」ボタンをクリックすることでWPS登録を行うことができます。
- 端末の操作方法是ご使用されている端末の取扱説明書を参照願います。
- WPS登録が成功すると、登録ランプが約5分緑点灯します。



お知らせ

- SSID隠蔽有効時は、WPSによる登録はできません。
- ACL有効時は、WPSによる登録はできません。ACL無効にしてください。
- WPS機能を使用する場合は、セキュリティ方式をWPA-PSK (AES-CCM)、WPA-PSK (TKIP)、WPA2-PSK (AES-CCM) またはWPA2-PSK (TKIP) に設定してください。それ以外のセキュリティ方式では、WPS機能は動作しません。
- 使用チャンネルが14chに設定されている場合、端末によっては14chに対応されていないためWPSによる登録はできない場合があります。端末の仕様をご確認願います。
- 無線アクセスポイントをステーションモードで使用する場合、WPS機能は動作しません。自動登録操作で登録してください。(P27)
- 登録に失敗した場合は、登録ランプが早い赤点滅になります。その場合、設定を見直して、再度登録を行ってください。
- PINコードはWPS規格にて規定されたコードを入力する必要があります。接続する端末のPINコードと同じコード入力してください。

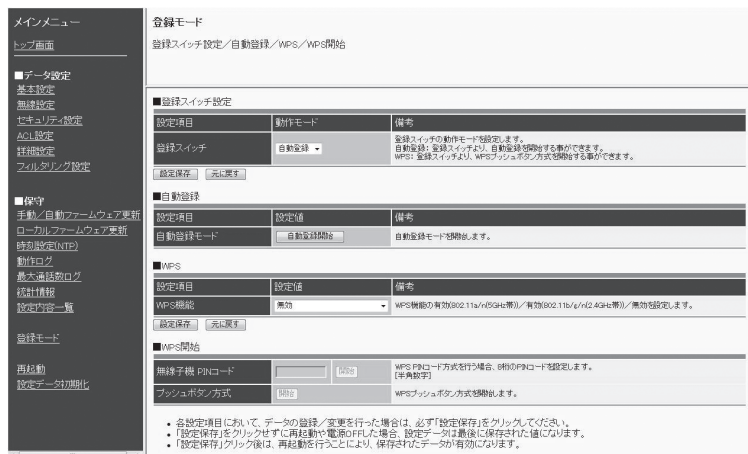
IPコードレス電話機を自動登録するには

IPコードレス電話機を簡単な操作で無線アクセスポイントに接続できます。

■ 無線アクセスポイントを自動登録モードにする

無線アクセスポイントのWebブラウザにて登録スイッチを自動登録動作に設定する

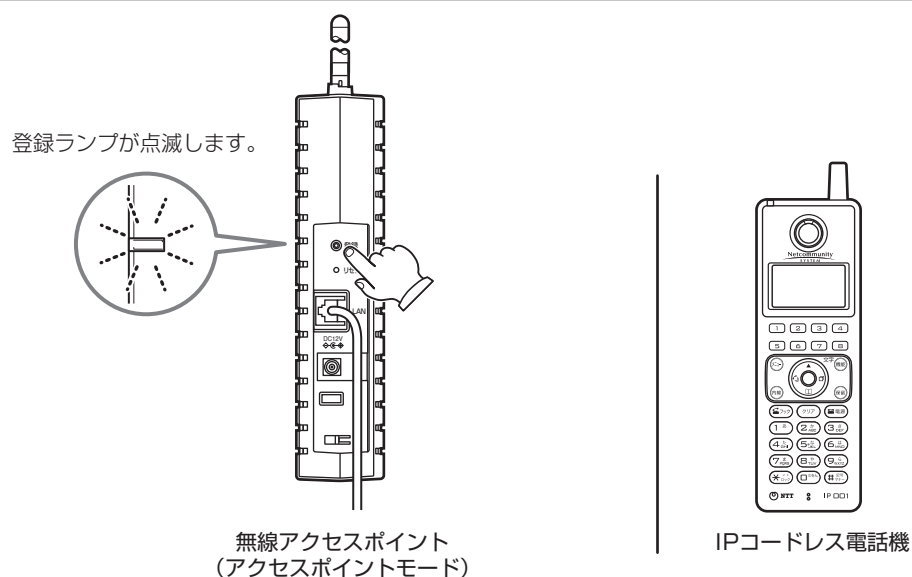
- ①メインメニューの[登録モード]をクリックする。
- ②登録スイッチを自動登録に設定して、[設定保存]をクリックする。



- ③メインメニューの[再起動]にて無線アクセスポイントの再起動操作を行う。

通常運用中に、無線アクセスポイント側面の登録スイッチを登録ランプが赤点灯するまで押す

しばらくしてから無線アクセスポイントが再起動し、登録ランプがゆっくり赤点滅します。

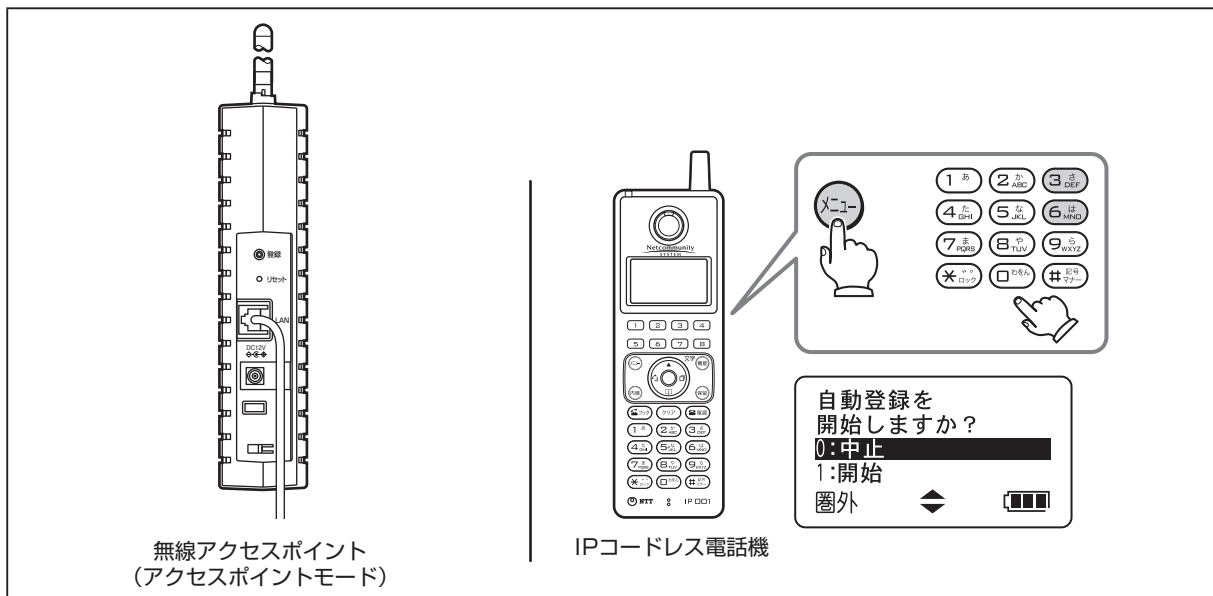


■ IPコードレス電話機を自動登録モードにする

待ち受け状態で、**メニュー** ボタンを2秒以上押し、**3** さ DEF **6** は MNO の順に押す

「自動登録を開始しますか？」と表示されます。

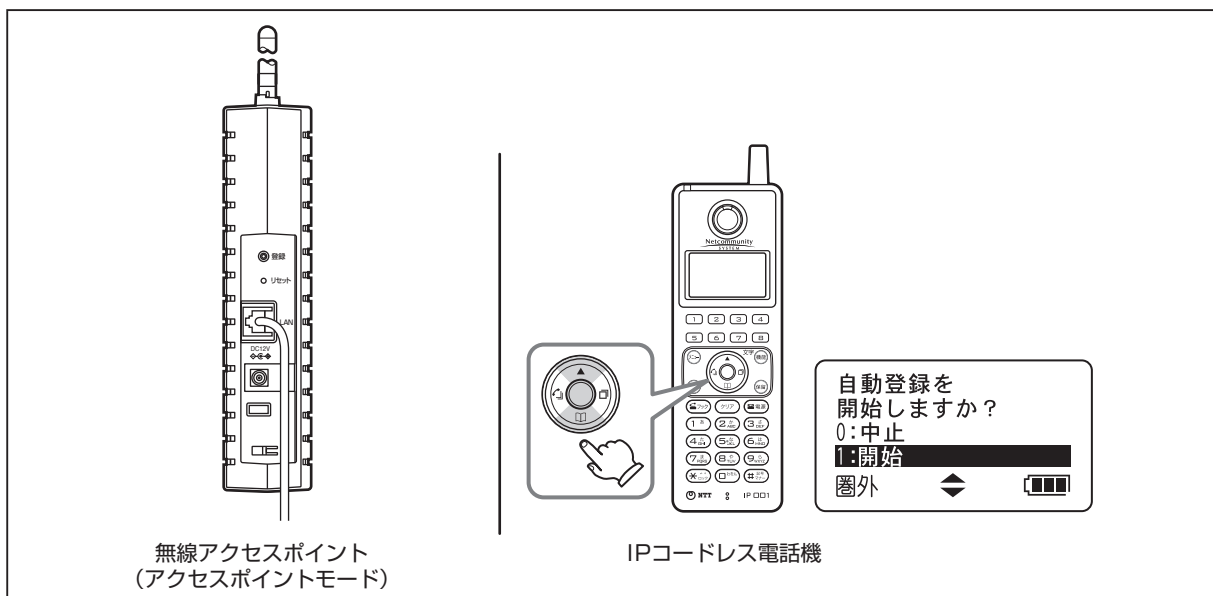
3



上下ボタンで「開始」を選択し、決定ボタンを押す

自動登録が開始されます。

4



5

無線アクセスポイントの登録ランプが消灯し、無線アクセスポイント・IPコードレス電話機が再起動して完了



ワンポイント

- 設定ソフトウェアを使用して設定することも可能です。（「アクセスポイント設定連携」▶P109）
- お買い求め時、登録スイッチは自動登録に設定されています。



お知らせ

- IPコードレス電話機で表示できる半角記号は -.@_()*# のみです。その他の半角記号が設定された場合には表示されません。
- 5GHz帯または2.4GHz帯のどちらか一方でもセキュリティ方式が802.1X/WPA/WPA2の場合は、自動登録できません。
- IPコードレス電話機はチャンネル周波数の14チャンネルは使用できません。
- 自動登録が失敗した場合、IPコードレス電話機は再起動を行います。
- IPコードレス電話機の操作手順はNetcommunity SYSTEM αNX IPコードレス電話機の場合の例です。
- 自動登録以外の方法で無線アクセスポイントとの接続の設定を行った場合には無線アクセスポイントのACL設定は追加されません。ACL設定を有効にする場合はWeb設定で追加してください。
- 自動登録ではIPコードレス電話機のIPアドレスはDHCPが有効に設定されます。固定IPアドレスを利用する場合は、IPコードレス電話機のIPアドレスの設定を行ってください。
- 自動登録は無線アクセスポイントが自動登録モードになったのを確認した後に、端末（IPコードレス電話機等）を自動登録モードにしてください。

RACSLAに接続する場合

RACSLAには、主装置の設定画面に無線アクセスポイントのWeb設定画面を表示する機能があります。その機能を利用することで簡単に無線アクセスポイントのWeb設定画面を表示することができます。

1

設定に利用するパソコンと無線アクセスポイントをRACSLAに接続する

接続方法については「給電HUBを経由して主装置またはDHCPサーバと接続する場合」(●P42)を参照してください。

2

無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)の電波が届くところで、無線アクセスポイント(ステーションモード)の電源を入れる(無線アクセスポイント(ステーションモード)もご利用になる場合)

3

設定に利用するパソコンを設定する

「パソコンのネットワーク設定」(●P44)を参照してください。

4

RACSLAの管理者画面から、設定する無線アクセスポイントのWeb設定画面を表示する

Netcommunity SYSTEM RACSLA取扱説明書(応用編)を参照してください。

5

設定を行う

「Webでデータ設定を行うには」(●P48)を参照してください。




お知らせ

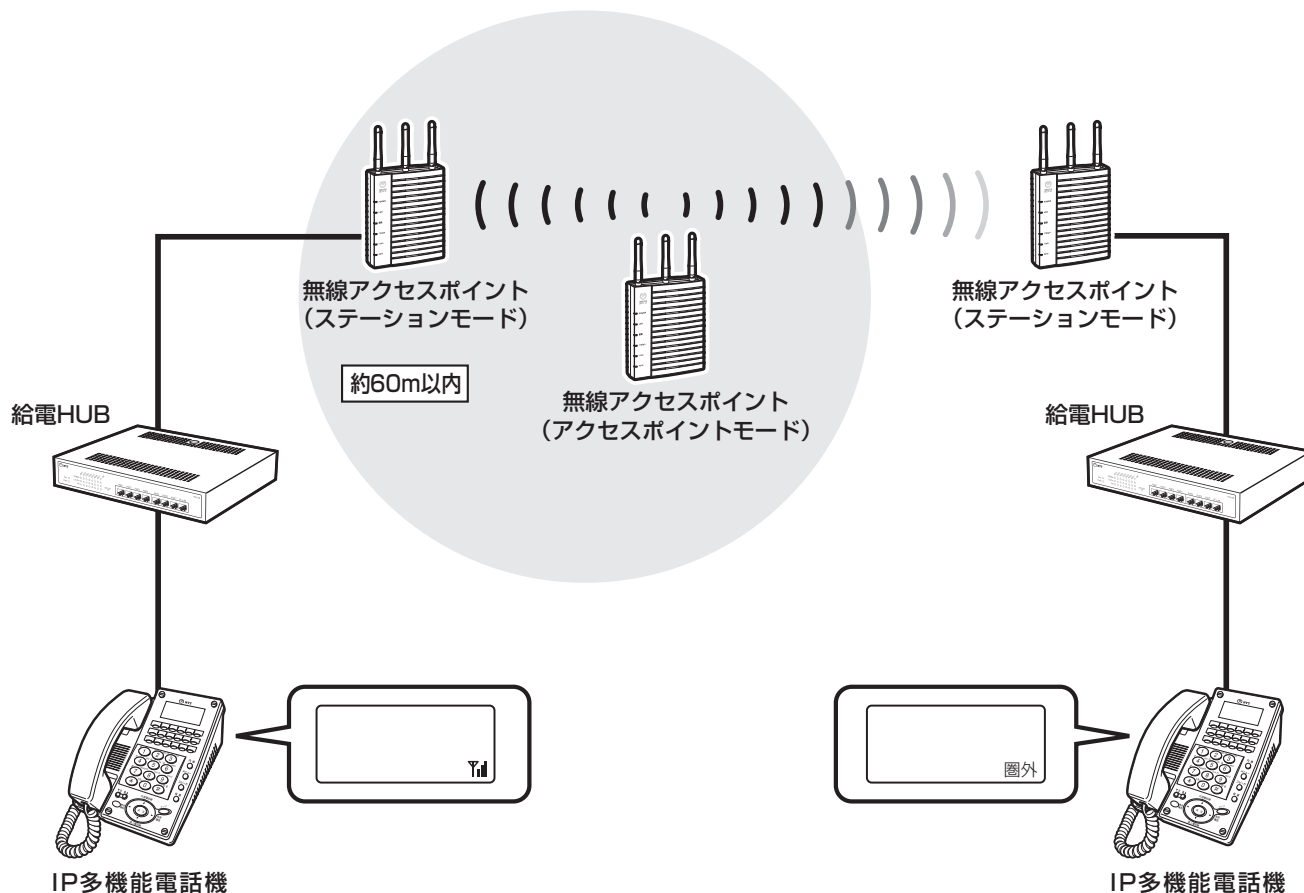
- 無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)と無線アクセスポイント(ステーションモード)を設定する場合、必ずすべての無線アクセスポイント(ステーションモード)を設定してから無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)の設定を行ってください。
- 無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)と無線アクセスポイント(ステーションモード)が通信できる距離は見通し約60mです。
- 無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)・無線アクセスポイント(ステーションモード)のWeb設定画面を表示できる主装置は、Netcommunity SYSTEM RACSLAのみです。なお、RACSLAのバージョンによっては機能しない場合があります。

より便利に使用するには

■ 電波の状態を確認する(ステーションモードでIP多機能電話機を接続した場合)








通信範囲(電波の届く範囲)は、無線アクセスポイントから見通し距離で約60m以内です。電話をかけたり受けたりできる状態になるとIP多機能電話機のディスプレイに無線状態のピクトグラム( など)が表示されます。

無線アクセスポイントからの電波の強さの目安を確認できます。





お知らせ

-  、  では電波が弱いため、通信ができにくくなります。  で使用することをお勧めします。

| | | | | | | |
|------------|---|--|---|---|---|--|
| | 強 |  | | | | 弱 |
| 無線IP多機能電話機 |  |  |  |  |  |  |

- 圏外が表示されているときは電波がまったく届いていないため、通話や通信はできません。

圏外

- 電波状態によっては、  や  と表示されていても、IP多機能電話機による音声通話が途切れることがあります。
- IP多機能電話機では、電波強度を表示させないこともできます。(「詳細設定を設定する」▶P62)
- IP多機能電話機では、電波強度の表示は、無線アクセスポイント(ステーションモード)と給電HUBを接続してご使用の場合、給電HUBに接続されたIP多機能電話機すべてに表示されます。
- IP多機能電話機以外では電波強度を表示することはできません。設定ソフトウェアで確認してください。(「IPアドレスを設定する」▶P82)
- ステーションモードは5GHz帯周波数を利用するため、屋外では使用できません。

無線アクセスポイントを「3 Webでデータ設定を行う」(●P48)、「4 設定ソフトウェアでデータ設定を行う」(●P77)で設定する場合、パソコンを準備し、パソコン側でネットワークの設定を行う必要があります。この設定方法は、ご使用になるOS (オペレーティング・システム)により異なります。

必要な準備

パソコン側で以下の準備が必要です。以下にWindows Vistaの例を示します。

| 項 目 | Windows Vista の場合 |
|------------|---|
| LANカード／ボード | パソコンに装着されている必要があります。お使いのパソコンに適するLANカード／ボードをご用意ください。 |
| Webブラウザ | 無線アクセスポイントの設定を行う場合には、次のWebブラウザを推奨します。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows Internet Explorer 7.0 • Windows XPであればMicrosoft Internet Explorer 6.0またはWindows Internet Explorer 7.0 |
| LANケーブル | 無線アクセスポイントとパソコン、またはHUBを接続するときが必要です。 |



ワンポイント

- Windows XPの設定を行うには
対応するOSの取扱説明書を参照してください。

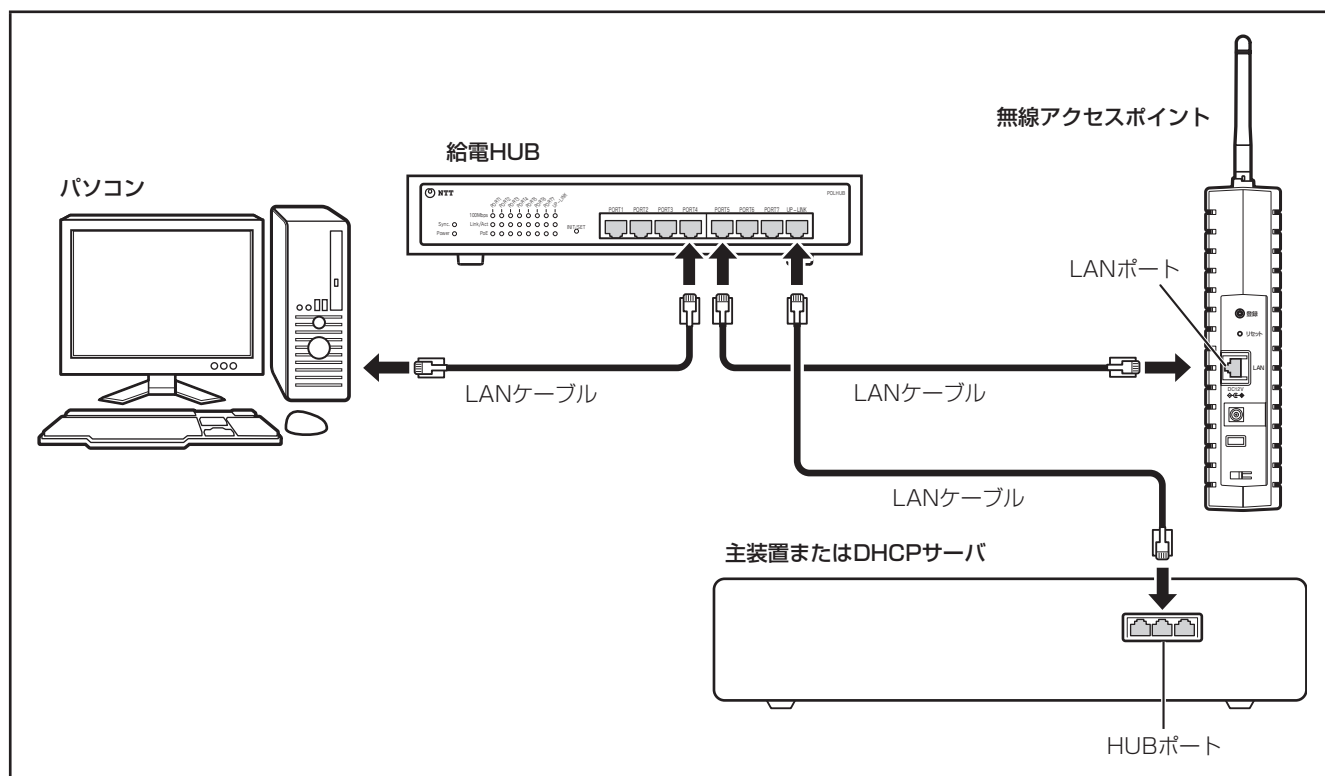


お知らせ

- ここでの説明は、一例を示しています。詳細は、ソフトウェアメーカー、パソコンメーカー、LANカード／ボードメーカー、インターネットサービスプロバイダなどにお問い合わせください。
- TCP/IPプロトコルおよびLANカード／ボードのソフトウェア（ネットワークドライバ）のインストールには、Windows VistaのDVDまたは、LANカード／ボードメーカーから提供されたフロッピーディスクなどが必要になる場合があります。

給電HUBを経由して主装置またはDHCPサーバと接続する場合

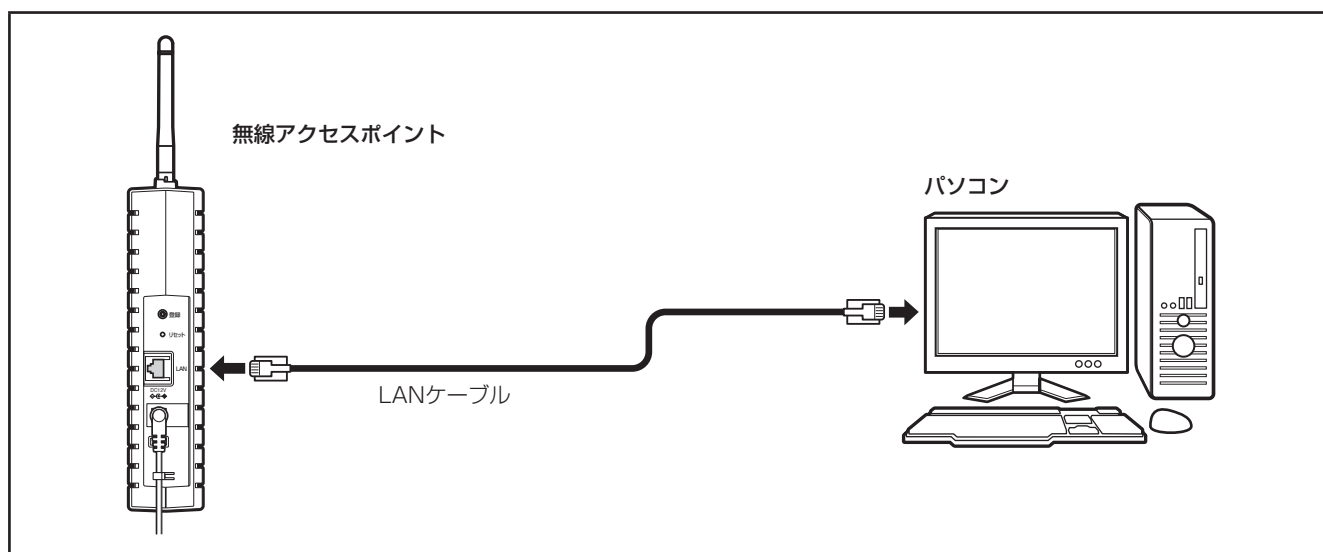
給電HUBのポートにカテゴリ 5e以上のLANケーブルを使用して、パソコンのLANポート、無線アクセスポイントのLANポート、主装置またはDHCPサーバのLANポートを接続します。



直接パソコンと接続する場合

パソコンのLANポートからカテゴリ 5e以上のLANケーブルを使用して、無線アクセスポイントのLANポートに接続します。

■ 無線アクセスポイントとパソコンの接続



お知らせ

- ネットワークに接続された無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）と無線アクセスポイント（ステーションモード）を設定する場合は、必ず無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）のLANポート側に設定で使用するパソコンを接続してください。

Windows Vistaの設定

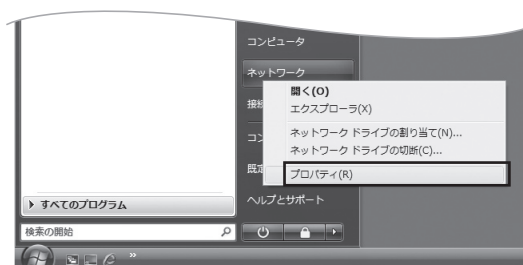
無線アクセスポイントの設定を行う前に必要に応じてお使いのパソコンで次のような操作を行ってください。

LANカードの取り付けとドライバのインストールは、ご利用機器メーカーのインストール指示に従い、あらかじめ行っておいてください。

ネットワークの設定

1 「ネットワークと共有センター」を表示する

Windows Vistaを起動し、「スタート」メニューの「ネットワーク」を右クリックして、表示されたメニューの「プロパティ」をクリックします。



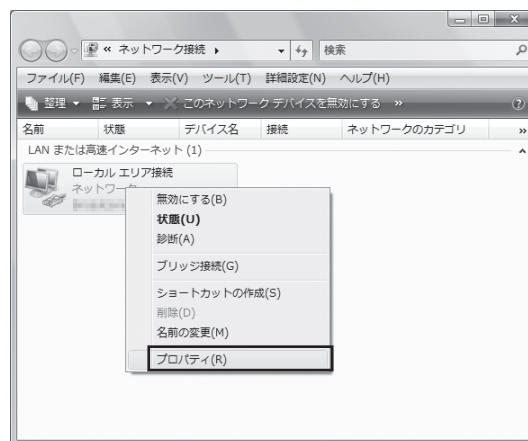
2 「ネットワーク接続」を表示する

[ネットワーク接続の管理]をクリックします。



3 「ローカルエリア接続のプロパティ」を表示する

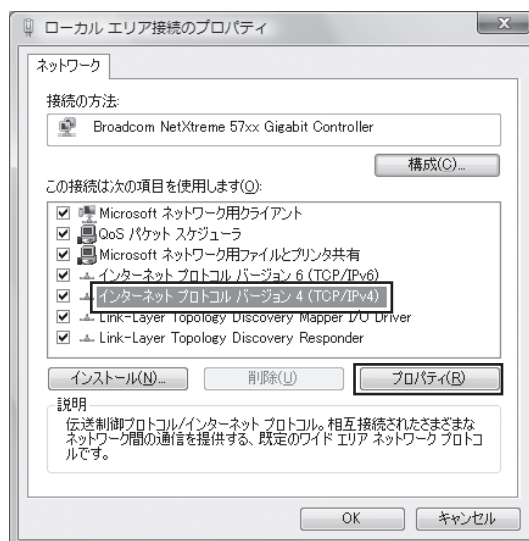
「ローカルエリア接続」内で右クリックし、表示されるサブメニューの「プロパティ」をクリックします。



※「ユーザアカウント制御」のウィンドウが表示されることがあります。そのときは、[続行]をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4 (TCP/IP)のプロパティ」を表示する

「インターネットプロトコル バージョン4 (TCP/IPv4)」を選択して[プロパティ]をクリックします。

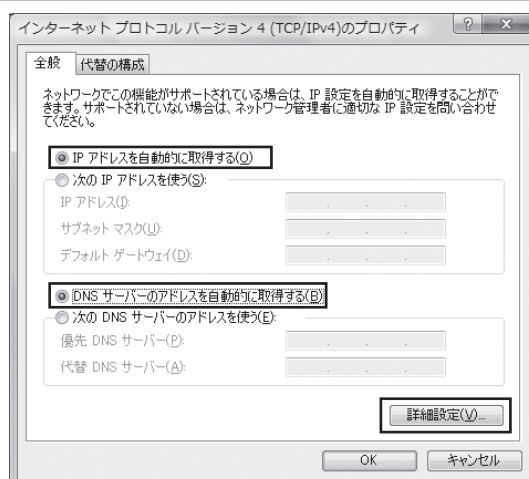


※一覧に表示されているチェックは外さないでください。

5 IPアドレスとDNSを設定する

DHCPサーバを運用している環境では、[IPアドレスを自動的に取得する]と、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]を選択してください。

IPアドレスとDNSの設定を確認したら[詳細設定]をクリックします。



ワンポイント

●固定IPアドレスで使用するには

DHCPを運用していない環境でご使用の場合は、[次のIPアドレスを使う]をチェックして、IPアドレスとサブネットマスクを設定してください。

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

6 DHCP設定を確認し、[OK]をクリックする

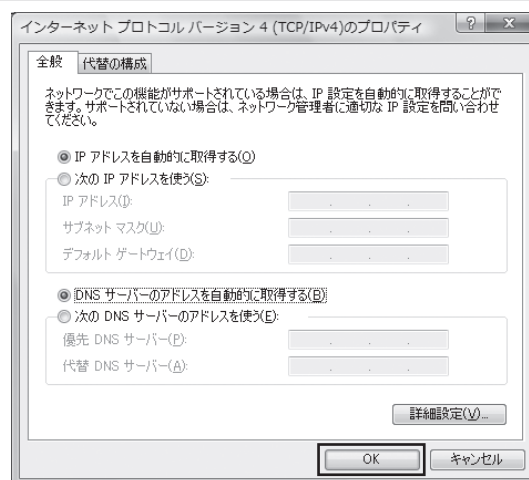
「TCP/IP詳細設定」の「IP設定」タブをクリックして、一覧に「DHCP有効」と表示されているか確認します。



ワンポイント

- 「DHCP有効」となっていない場合、手順5の画面で「IPアドレスを自動的に取得する」と、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してあるか、再度確認してください。

7 「インターネットプロトコル バージョン4 (TCP/IP)のプロパティ」の[OK]をクリックする

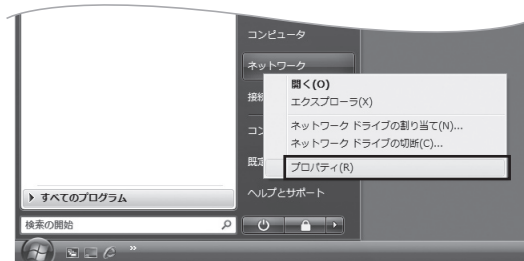


8 「ローカルエリア接続のプロパティ」の[閉じる]をクリックする

ネットワークの設定を確認する

1 「ネットワークと共有センター」を表示する

Windows Vistaを起動し、「スタート」メニューの「ネットワーク」を右クリックして、表示されたメニューの「プロパティ」をクリックします。



2 「ローカルエリア接続の状態」を表示する

「状態の表示」をクリックします。



3 [詳細]をクリックする

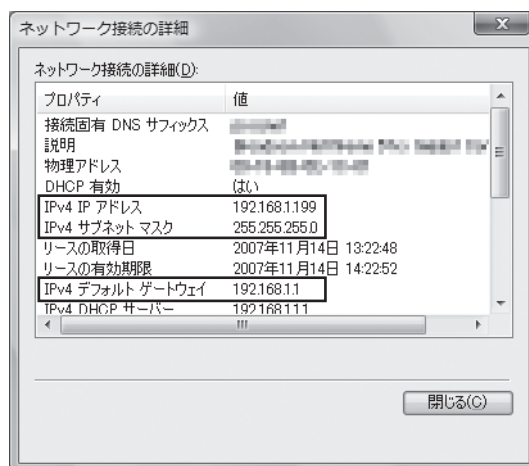
「ネットワーク接続の詳細」が表示されます。

4 IPアドレスを確認する

確認する箇所は以下のとおりです。

- ・ IPv4 IPアドレス
- ・ IPv4 サブネットマスク
- ・ IPv4 デフォルトゲートウェイ

これらのアドレスはすべて自動で設定されます。



ワンポイント

- 各情報が正常に設定されていない場合は、[診断と修復]をクリックしてください。IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの各情報が再度表示されます。
- [診断と修復]をクリックしても各情報が正常に設定されていない場合は、パソコンと本商品の電源を切ってから電源やケーブルなどの接続を確認し、本商品の電源を入れてからパソコンの電源を入れ、手順1からやり直してください。

5 [閉じる]をクリックする

1 お使いになる前に

2 事前準備

3 Webでデータ設定を行う

4 設定ソフトウェアでデータ設定を行う

5 ご参考に

Webでデータ設定を行うには

無線アクセスポイントのLANポート側に接続したパソコンから、Webブラウザですべての設定を行うことができます。

設定方法

設定する無線アクセスポイントのIPアドレスおよびユーザー名とパスワードが必要です。

データ設定は、ネットワーク上のパソコンからWebブラウザにより行います。日本語で表示されますので画面指示に従って各種データを設定していきます。

■ パスワード入力について

Webブラウザを起動して設定を行う場合、ユーザー名／パスワード入力画面が表示されます。

ユーザー名／パスワードを入力して「パスワードを記憶する」をチェックすると、Webブラウザを終了しても入力したユーザー名／パスワードは保存されます。

1 Webブラウザを起動する

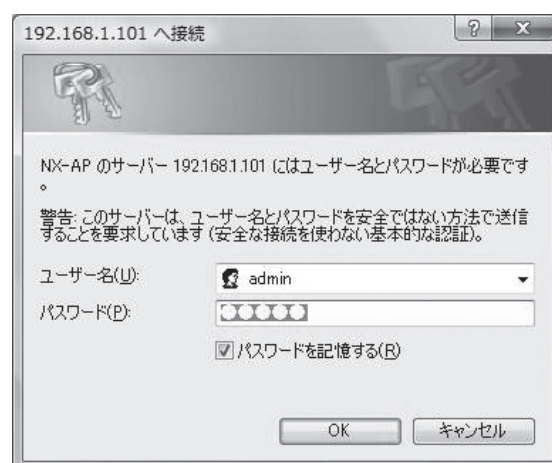
使用するWebブラウザは、以下のものを推奨します。

- Windows Internet Explorer 7.0

2 Webブラウザの「アドレス」または「場所」に無線アクセスポイントのIPアドレスを入力し、[Enter]をクリックする

パスワード入力画面が表示されます。

3 「ユーザー名」と「パスワード」を入力し、設定する(●P52)



(画面はWindows Vistaの場合の例です)

お買い求め時は、ユーザー名「admin」(半角小文字)パスワード「admin」(半角小文字)が登録されています。それぞれを入力し、[OK]をクリックします。データ設定画面が表示されます。



お知らせ

- 無線アクセスポイントのIPアドレスが不明な場合は、設定ソフトウェアで調べることができます。(「IPアドレスを設定する」●P82)

■設定方法について

- 各設定画面において設定を有効にする場合は、[設定保存]をクリックした後、メニューの[再起動]操作を行ってください。再起動を行わないと、設定した内容は有効になりません。
- 再起動には約1分かかりますので、再起動した装置の配下に接続されているIP端末は、その間ネットワークをご利用になれません。ご注意ください。
- 入力方法は以下のとおりです。
 - ・パソコンからの入力はASCII文字のみですので、シフトJIS（漢字、ひらがな、カナなど）は入力しないでください。不正なデータを設定するとエラーが表示されます。
 - ・データ設定中に[元に戻す]をクリックすると、設定値は変更前の値に戻ります。[設定保存]をクリックすると、それ以前に変更した値は元に戻りません。
 - ・データ設定中に[変更せずに戻る]または[設定保存せずに戻る]をクリックすると、設定を行わずに前の設定画面へ戻るができます。
 - ・[削除]をクリックすると、そのデータを削除することができます。
 - ・[全削除]をクリックすると、その設定項目に設定されている項目のすべてを削除できます。
 - ・削除がない設定項目(システム名など)のデータを削除する場合は、設定欄のデータをパソコンのキーボード、[Delete]キーまたは[BackSpace]キーなどでクリアし、設定を有効にしてください。
 - ・チェック欄をクリックするとチェックマークが付きます。もう一度クリックするとチェックマークをはずすことができます。
 - ・プルダウンの設定は、右側の▼矢印をクリックすると設定できるデータが表示されます。表示された設定一覧から選択してください。
 - ・データ設定中にパソコンのリターンキーを押すと、設定が保存されます。

■データ設定について

- 無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)のデータ設定画面と、無線アクセスポイント(ステーションモード)のデータ設定画面は、設定メニューが異なります。
 - ・無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)の設定メニュー ●P50
 - ・無線アクセスポイント(ステーションモード)の設定メニュー ●P51



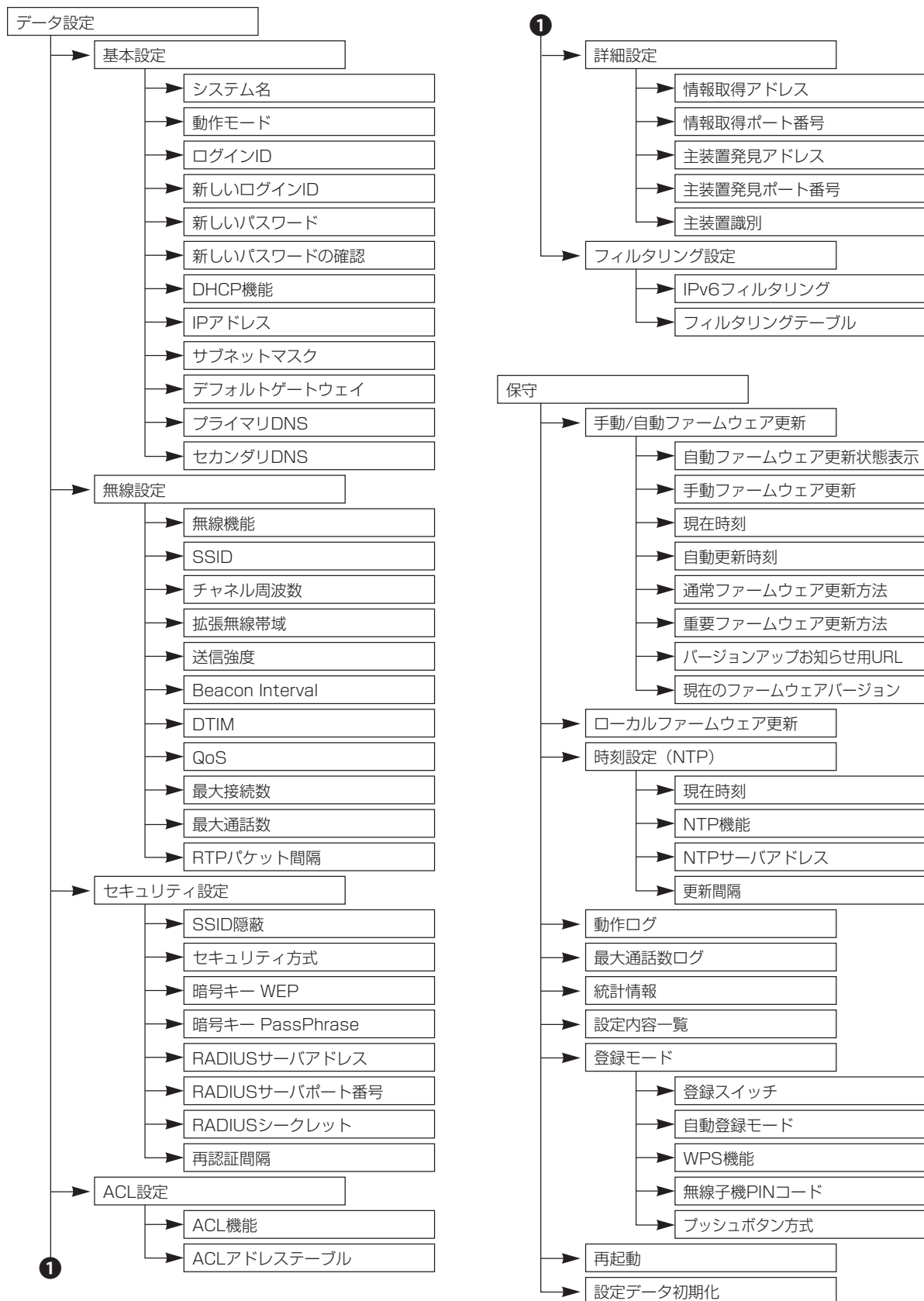
お知らせ

- ブラウザ画面が正しく表示されない場合などは、WebブラウザのJavaScriptの設定が有効になっているかをご確認ください。
- Webブラウザのキャッシュが有効になっていると、最新の設定データが表示されないことがあります。そのときは[更新]をクリックして表示し直してください。
- 表示される画面はWebブラウザにより多少異なります。
- 推奨するWebブラウザはWindows Internet Explorer 7.0です。それ以外のWebブラウザをお使いの場合は、正しく動作しない場合があります。
- 装置を再起動した場合は、無線アクセスポイント(ステーションモード)に接続されているIP端末、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)に接続されているIPコードレス電話機、無線LANカードなどからデータ通信、音声通話ができることを確認してください。
- ネットワークに接続された無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)、無線アクセスポイント(ステーションモード)の設定を行う場合は、設定を行うすべての無線アクセスポイント(ステーションモード)の設定が終了した後に、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)の設定を行ってください。
- 2台以上のパソコン、または設定ソフトウェアで同時にデータ設定を行わないでください。
- VLANを設定しているパソコンをご使用の場合は、VLANの設定をはずして使用してください。
- 画面が正しく表示されない場合は、[更新]をクリックして表示しなおしてください。

データ設定のメニューは以下のような構成になっています。

設定メニュー一覧

■無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)の設定メニュー



■無線アクセスポイント(ステーションモード)の設定メニュー



※ステーションモードでは使用できません。



お知らせ

- [ACL設定] と [最大通話数ログ] は、メインメニューに項目が表示されますが、ステーションモードでは使用できません。

基本機能を設定する

無線アクセスポイントの基本機能を設定します。(設定内容および表示は例です。)

メインメニューの[基本設定]をクリックする

基本設定画面が表示されます。

基本設定
システム名/動作モード設定/ユーザー名/アカウント設定/IPアドレス設定/DNS設定

■システム名

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|-------|-----------|---|
| システム名 | NX-AP6000 | 無線LANのシステム名を設定します。 【任意】 【ASCII文字(スペース不可)】 【最大32文字まで】 |

■動作モード設定

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|-------|-------|---|
| 動作モード | APモード | AP/STATION動作モードを設定します。 動作モード変更時は、各設定も確認してください。 |

■ユーザーアカウント設定

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|-----------|-------|--------------|
| ログインID | admin | 現在のログインIDです。 |
| 新しいログインID | | 設定値を設定します。 |

■DNS設定

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|----------|-----|---|
| プライマリDNS | | プライマリDNSサーバーアドレスを設定します。 【任意】 【半角数字(0.0.0.0～255.255.255.254)】 設定値を入力する場合は、空欄確認してください。 |
| セカンダリDNS | | セカンダリDNSサーバーアドレスを設定します。 【任意】 【半角数字(0.0.0.0～255.255.255.254)】 設定値を入力する場合は、空欄確認してください。 |

※各設定項目において、データの登録/変更を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックしてください。
 ※「設定保存」をクリックせずに再起動や電源の切った場合、設定データが最後に保存された値になります。
 ※「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存] [設定戻る]

各項目を設定する

●アクセスポイントモード/ステーションモード共通

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|-------------|---|--|-----------------|
| システム名 | 無線アクセスポイントのシステム名を設定する | 《任意》 [ASCII文字(スペース不可)] [最大32文字まで] | NX-AP**** ※1 |
| 動作モード | 無線アクセスポイントの動作モードを設定する ※動作モード変更時には、各設定を確認すること | APモード/STA (5GHz)モード | APモード |
| ログインID | 現在のログインIDが表示される | 参照のみ | admin |
| 新しいログインID | ログイン時のユーザー名を設定する | 《任意》 [ASCII文字(スペース、シャープ(#)、コロン(:)不可)] [最大32文字まで] | 無し |
| 新しいパスワード | ログイン時のパスワードを設定する | 《新しいログインID入力時、必須》 [ASCII文字(スペース、シャープ(#)、コロン(:)不可)] [最大32文字まで] | 無し |
| 新しいパスワードの確認 | ログイン時のパスワードを再度設定する | 《新しいパスワード入力時、必須》 [ASCII文字(スペース、シャープ(#)、コロン(:)不可)] [最大32文字まで] | 無し |
| DHCP機能 | DHCP機能の有効/無効を設定し、ネットワークアドレスを自動取得する | 有効/無効 DHCP有効時、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ入力不可 | 有効 |
| IPアドレス | DHCPを未使用の場合に、無線アクセスポイントのIPアドレスを設定する | 《DHCP無効時、必須》 [半角数字] [0.0.0.1 ~ 223.255.255.254] | 無し |

2

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|-------------|--|------------------------------------|-----|
| サブネットマスク | DHCPを未使用の場合に、無線アクセスポイントのサブネットマスクを設定する | 《DHCP無効時、必須》 [1 ～ 31bit] | 無し |
| デフォルトゲートウェイ | DHCPを未使用の場合に、無線アクセスポイントのデフォルトゲートウェイを設定する | [半角数字] [0.0.0.1 ～ 223.255.255.254] | 無し |
| プライマリDNS | プライマリDNSのサーバアドレスを設定する | [半角数字] [0.0.0.1 ～ 255.255.255.254] | 無し |
| セカンダリDNS | セカンダリDNSのサーバアドレスを設定する | [半角数字] [0.0.0.1 ～ 255.255.255.254] | 無し |

※1：****は5GHz帯MACアドレス下4桁

3

【設定保存】をクリックする

4

メインメニューの【再起動】をクリックする

【再起動】をクリックして、【OK】をクリックする

装置が再起動し、設定した内容が有効になります。



5



ワンポイント

- 設定変更しない場合でも【再起動】をクリックして装置を再起動することができます。
- 【設定データ初期化】をクリックすると、設定データを工場出荷状態に戻すことができます。



お知らせ

- セキュリティ方式がWPA/WPA2の場合、動作モードをAPモードからSTA（5GHz）モードに切り替えると、セキュリティ方式は無効に変更されます。
- 動作モードを変更した場合は、【設定保存】をクリック後に各設定を再確認してください。
- IPアドレスは以下の範囲は設定できません。
[127.xxx.xxx.xxx]、[1～126.0.0.0]、[1～126.255.255.255]、[128～191.xxx.0.0]、
[128～191.xxx.255.255]、[192～223.xxx.xxx.0]、[192～223.xxx.xxx.255]

無線機能を設定する

無線アクセスポイントの無線機能を設定します。(設定内容および表示は例です。)

メインメニューの[無線設定]をクリックする

無線設定画面が表示されます。

●アクセスポイントモード

●ステーションモード

各項目を設定する

●アクセスポイントモード

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | | 初期値 |
|------|--|---|--|------------------------------|
| | | 802.11a/n(5GHz 帯) | 802.11b/g/n(2.4GHz 帯) | |
| 無線機能 | 各無線帯の有効/無効を設定する ※チャンネル周波数に"2484MHz (14ch)"を選択した状態で"802.11b/g/n有効"、"802.11g/n有効"または"無効"を選択した場合、チャンネル周波数は"自動"に変更される | 802.11a/n有効/無効 | 802.11b/g/n有効/802.11g/n有効/802.11bのみ有効/無効 | 802.11a/n有効 802.11b/g/n有効 |
| SSID | SSID (無線LANグループ名)を設定する | 《必須》 [ASCII文字(スペース不可)] [最大32文字まで] | | ID**** ※1 |

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | | 初期値 |
|-----------------|--|--|---|------------------------------------|
| | | 802.11a/n (5GHz 帯) | 802.11b/g/n (2.4GHz 帯) | |
| チャンネル周波数 | 使用するチャンネル周波数を設定する ※802.11a/n (5GHz帯) "自動" の場合は、36 ~ 48chの中から選択される 52 ~ 64chに設定する場合は、レーダー等衝突防止(DFS)のため、以下の点に注意する ・アクセスポイントの起動に時間がかかる ・衝突を検出した場合は、36 ~ 48chの周波数へ移動する ・実際に使用している周波数は「設定内容一覧」を確認すること ※802.11b/g/n (2.4GHz帯) 「自動」の場合は、1,6,11chの中から選択される 2484MHz (14ch)は、無線機能が"802.11bのみ有効"時に選択可能 | 自動 /W52:5180 (36) /W52:5200 (40) /W52:5220 (44) /W52:5240 (48) /W53:5260 (52 DFS) /W53:5280 (56 DFS) /W53:5300 (60 DFS) /W53:5320 (64 DFS) MHz (ch) | 自動 /2412 (1) /2417 (2) /2422 (3) /2427 (4) /2432 (5) /2437 (6) /2442 (7) /2447 (8) /2452 (9) /2457 (10) /2462 (11) /2467 (12) /2472 (13) /2484 (14) MHz (ch) | 自動 |
| 拡張無線帯域 | 使用する周波数帯域を設定する ※802.11b/g/n (2.4GHz帯) チャンネル周波数が"2467MHz (12ch)、2472MHz (13ch)"の場合は、20MHz固定となる | 20MHz/40MHz | 20MHz/40MHz | 20MHz |
| 送信強度 | 無線電波の送信強度を設定し、アクセスポイントからの通信距離を制限する | Full/Half (1/2) /Quarter (1/4) / Eighth (1/8) /Minimum | | Full |
| Beacon Interval | Beacon送信間隔を設定する | [半角数字] [20 ~ 1000] ※通常は設定変更しないでください | | 100ミリ秒 |
| DTIM | DTIM (Delivery Traffic Indication Message) を設定する | [半角数字] [1 ~ 255] ※通常は設定変更しないでください | | 802.11a/n ...1 802.11b/g/n...10 |
| QoS | QoSの有効/無効を設定する | 有効/無効 | | 有効 |
| 最大接続数 | 同時に接続できる無線装置数を設定する | [半角数字] [1 ~ 63] 空欄の場合、制限がかかりません | | 無し |
| 最大通話数 | 同時に通話できる通話数を設定する | | [半角数字] [1 ~ 12] 空欄の場合、制限がかかりません | 無し |
| RTPパケット間隔 | 通話データのデータ間隔を設定する | 20/40/60/120ミリ秒 ※主装置や接続する電話機の設定と合わせてください | | 20ミリ秒 |

※1: ****は各無線帯域のMACアドレス下4桁

●ステーションモード

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|------|------------------------------------|--|--------------|
| | | 802.11a/n (5GHz帯) | |
| 無線機能 | 各無線帯域の有効/無効を設定する | 802.11a/n有効/無効 | 802.11a/n有効 |
| SSID | SSID (無線LANグループ名)を設定する | 《必須》 [ASCII文字(スペース不可)] [最大32文字まで] | ID**** ※2 |
| 送信強度 | 無線電波の送信強度を設定し、アクセスポイントからの通信距離を制限する | Full/Half (1/2) /Quarter (1/4) / Eighth (1/8) /Minimum | Full |
| QoS | QoSの有効/無効を設定する | 有効/無効 | 有効 |

※2: ****は5GHz帯のMACアドレス下4桁

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

3

[設定保存]をクリックする

4

メインメニューの[再起動]をクリックする

5

[再起動]をクリックして、[OK]をクリックする

装置が再起動し、設定した内容が有効になります。



ワンポイント

●設定の確認について

- ・チャンネル周波数を自動と設定した場合、使用しているチャンネル周波数は設定内容一覧で確認できます。(P74)



お知らせ

- チャンネル周波数を自動と設定した場合、複数台の無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）を使用すると、同一のチャンネルが選択されることがありますので、各無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）のチャンネル周波数が同じにならないよう、個別に設定してください。
- 5GHz帯でレーダー等衝突防止(DFS)によりチャンネル周波数が52ch～64chから36ch～48chに移動する場合、装置は一度再起動します。
- 2.4GHz帯でチャンネル周波数を設定する場合、少なくとも5chの間隔をとってチャンネルを選択してください。
例 1ch、6ch、11ch、14ch（14chは、13chと2ch以上の間隔があります。）
- IEEE802.11bで14chに設定する場合は、無線機能の設定でIEEE802.11bのみを有効に設定した後で、14chに設定してください。
- IPコードレス電話機を使用する場合は、14chは設定しないでください。
- IPコードレス電話機を使用する場合は、DTIMを10に設定してください。
- 1台の無線アクセスポイントで使用する推奨台数は、最大接続数20台、5GHz帯の最大通話数12台／2.4GHz帯の最大通話数6台です。ただし、設置環境や電波状況によっては、台数が少なくなる場合があります。

セキュリティを設定する

無線アクセスポイントのセキュリティ機能を設定します。(設定内容および表示は例です。)

メインメニューの[セキュリティ設定]をクリックする

セキュリティ設定画面が表示されます。

●アクセスポイントモード

●ステーションモード

各項目を設定する

●アクセスポイントモード

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | | 初期値 |
|-----------------|---|--|-----------------------|---|
| | | 802.11a/n (5GHz帯) | 802.11b/g/n (2.4GHz帯) | |
| SSID隠蔽 | BeaconのSSID情報を隠蔽し、無線LAN端末からのSSID検索を防止する | 有効/無効 | | 有効 |
| セキュリティ方式 | データ通信時のセキュリティ方式を設定する | 無効/WEP/WPA-PSK (AES-CCM) / WPA-PSK (TKIP) / WPA2-PSK (AES-CCM) / WPA2-PSK (TKIP) / WPA (AES-CCM) / WPA (TKIP) / WPA2 (AES-CCM) / WPA2 (TKIP) / 802.1X | | WEP |
| 暗号キー WEP | WEP暗号キーを設定する | 《"WEP (16進数)"選択時、必須》 [半角英数字小文字0～9、a,b,c,d,e,f] [64bit (16進数10文字) / 128bit (16進数26文字) / 152bit (16進数32文字)] 《"WEP (ASCII)"選択時、必須》 [ASCII文字(スペース不可)] [64bit (ASCII 5文字) / 128bit (ASCII 13文字) / 152bit (ASCII 16文字)] | | 802.11a/n...152bit (ASCII 16文字) 1234567890123456 802.11b/g/n...128bit (ASCII 13文字) 1234567890123 |
| 暗号キー PassPhrase | PSKキーを設定する | 《"WPA-PSK (AES-CCM) / WPA-PSK (TKIP) / WPA2-PSK (AES-CCM) / WPA2-PSK (TKIP)"選択時、必須》 [ASCII文字(スペース不可)] [8～63文字まで] | | 無し |

(前ページのつづき)

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | | 初期値 |
|----------------|--------------------------|--|----------------------|------|
| | | 802.11a/n(5GHz帯) | 802.11b/g/n(2.4GHz帯) | |
| RADIUSサーバ設定 | RADIUSサーバを設定する | 《"WPA (AES-CCM) / WPA (TKIP) / WPA2 (AES-CCM) / WPA2 (TKIP) / 802.1X"選択時、必須》 | | |
| RADIUSサーバアドレス | RADIUSサーバのIPアドレスを設定する | [半角数字] [0.0.0.0 ~ 255.255.255.255] | | 無し |
| RADIUSサーバポート番号 | RADIUSサーバのポート番号を設定する | [半角数字] [1 ~ 65535] | | 1812 |
| RADIUSシークレット | RADIUSサーバとAP間のパスワードを設定する | [ASCII文字(スペース不可)] [最大128文字まで] | | 無し |
| RADIUS再認証間隔 | RADIUSサーバとの再認証時間を設定する | [半角数字] [30 ~ 1440]分 | | 30 |

●ステーションモード

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|-----------------|----------------------|--|--|
| | | 802.11a/n（5GHz帯） | |
| セキュリティ方式 | データ通信時のセキュリティ方式を設定する | 無効/WEP/WPA-PSK（AES-CCM） / WPA-PSK（TKIP） / WPA2-PSK（AES-CCM） / WPA2-PSK（TKIP） | WEP |
| 暗号キー WEP | WEP暗号キーを設定する | 《"WEP（16進数）"選択時、必須》 [半角英数字小文字0～9、a,b,c,d,e,f] [64bit（16進数10文字）/128bit（16進数26文字）/152bit（16進数32文字）] 《"WEP（ASCII）"選択時、必須》 [ASCII文字(スペース不可)] [64bit（ASCII 5文字）/128bit（ASCII 13文字）/152bit（ASCII 16文字）] | 152bit（ASCII 16文字） 1234567890123456 |
| 暗号キー PassPhrase | PSKキーを設定する | 《"WPA-PSK（AES-CCM） / WPA-PSK（TKIP） / WPA2-PSK（AES-CCM） / WPA2-PSK（TKIP）"選択時、必須》 [ASCII文字(スペース不可)] [8～63文字まで] | 無し |

3 [設定保存]をクリックする

4 メインメニューの[再起動]をクリックする

5 [再起動]をクリックして、[OK]をクリックする

装置が再起動し、設定した内容が有効になります。



お知らせ

- セキュリティ方式がWPA/WPA2の場合、動作モードをAPモードからSTA (5GHz)モードに切り替えると、セキュリティ方式は無効に変更されます。

ACLを設定する

ACL設定を有効にし、ACL設定用のMACアドレステーブルに無線LAN端末MACアドレスを設定することにより、接続できる無線LAN端末を制限できます。

メインメニューの[ACL設定]をクリックする

ACL設定画面が表示されます。

メインメニュー
トップ画面

■データ設定
基本設定
無線設定
セキュリティ設定
ACL設定
経路設定
フィルタリング設定

■保守
手動/自動ファームウェア更新
ローカルファームウェア更新
特別設定(NTP)
動作ログ
基本通信ログ
設定情報
設定内容一覧

登録モード
再起動
設定データのリセット

ACL設定
ACL設定 / ACLアドレステーブル

■ACL設定

| 設定項目 | 802.11a/n(5GHz帯) | 802.11b/g/n(2.4GHz帯) | 備考 |
|-------|--|--|---|
| ACL機能 | <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 | <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 | ACL機能の有効/無効を設定します。 MACアドレスによるフィルタリングを行います。 |

[設定保存] [元に戻す]

■ACLアドレステーブル

[アドレス新規作成] [全削除]

| No. | 無線ステーションMACアドレス (無線LANカード等MACアドレス) | IPアドレス |
|-----|---------------------------------------|--------|
| | | |

※ 本設定項目において、データの登録/変更を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックしてください。
※ 「設定保存」をクリックせずに再起動や電源のOFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
※ 「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

2 802.11a/n (5GHz帯)と802.11b/g/n (2.4GHz帯)のACL設定のACL機能で[有効]を選択する

3 [設定保存]をクリックする

4 メインメニューの[ACL設定]をクリックして、ACLアドレステーブルの[アドレス新規作成]をクリックする

アドレス新規作成画面が表示されます。

(前ページのつづき)

各項目を入力する

ACL設定
ACL設定／ACLアドレステーブル

■ACLアドレステーブル新規作成

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|---------------------------------------|----------------------|--|
| 無線ステーションMACアドレス (無線LANカード等MACアドレス) | <input type="text"/> | 接続許可するMACアドレスを設定します。 【必須】 [aa:bb:cc:dd:ee:ff形式] MACアドレスについての説明を設定します。 |
| 説明 | <input type="text"/> | 【任意】 [ASCII文字(スペース不可)] [最大32文字まで] |

・各設定項目において、データの登録／変更を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックしてください。
 ・「設定保存」をクリックせずに再起動や電源が切れた場合、設定データは最後に保存された値になります。
 ・「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことで、保存されたデータが有効になります。

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|
| 無線ステーションMACアドレス (無線LANカード等MACアドレス) | 接続を許可するMACアドレスを設定する | 《必須》 [aa:bb:cc:dd:ee:ff (MACアドレス形式)] | 無し |
| 説明 | MACアドレスについての説明を設定する | 《任意》 [ASCII文字(スペース不可)] [最大32文字まで] | 無し |

5

【設定保存】をクリックする

ACL制御MACアドレスが設定されます。ACL制御MACアドレスを追加設定する場合は、手順4～6を繰り返します。

7

メインメニューの【再起動】をクリックする

8

【再起動】をクリックして、【OK】をクリックする

装置が再起動し、設定した内容が有効になります。

■ ACL設定を削除する場合

ACL設定MACアドレスを削除する場合は、削除したいACLアドレステーブルの「No.」の数字をクリックして、[削除]をクリックすると、選択したACL設定MACアドレスが削除されます。すべてのACL設定MACアドレスを削除する場合は[全削除]をクリックします。

■ ACL設定を変更する場合

無線ステーションMACアドレスを変更する場合は、一度削除してから再度設定し直してください。
説明を変更する場合は、ACLアドレステーブルの「No.」の数字をクリックして、変更用の画面で変更してください。



ワンポイント

- ACLを使用するためには、ACL設定を有効にする必要があります。ACL設定を有効にするためには、ACL設定を有効に設定したあとに[設定保存]をクリックしてください。
- 無線アクセスポイント(ステーションモード)をACLに登録する場合、5GHz帯無線MACアドレスを設定してください。
- 無線アクセスポイント(ステーションモード)の無線MACアドレスは、無線アクセスポイントの背面の品名紙に印字されています。



お知らせ

- ACL設定が無効でも、ACL設定MACアドレスの設定は行えます。
- MACアドレスを入力する場合は「:」を入れなくても入力できます。
- ACL設定はアクセスポイントモードだけの機能です。ステーションモードでは設定できません。

詳細設定を設定する

無線アクセスポイントの詳細設定を行います。

メインメニューの[詳細設定]をクリックする

詳細設定画面が表示されます。

●アクセスポイントモード

●ステーションモード

各項目を設定する

●アクセスポイントモード/ステーションモード共通

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|------------|---|--|-------------|
| 情報取得アドレス | 情報取得アドレスを設定する | 《必須》 [半角数字] [224.0.0.0 ~ 239.255.255.255] | 224.0.0.205 |
| 情報取得ポート番号 | 情報取得ポート番号を設定する | 《必須》 [半角数字] [1 ~ 65535] | 60060 |
| 主装置発見アドレス | 主装置発見用のマルチキャストアドレスを設定する RACSIAで使用する場合は、主装置の設定に合わせる その他のシステムで使用する場合は、空欄にする | [半角数字] [224.0.0.0 ~ 239.255.255.255] | 224.0.0.200 |
| 主装置発見ポート番号 | 主装置発見用のポート番号を設定する RACSIAで使用する場合は、主装置の設定に合わせる その他のシステムで使用する場合は、空欄にする | [半角数字] [1 ~ 65535] | 60030 |
| 主装置識別 | 主装置が複数存在する場合、接続する主装置を指定する RACSIAで使用する場合は、主装置の設定に合わせる その他のシステムで使用する場合は、空欄にする | [半角英数字 a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9] [最大8文字まで] | 無し |

2

●ステーションモード

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|----------|---------------------|-------|-----|
| 電波強度表示設定 | 配下の機器に電波強度表示情報を通知する | 有効/無効 | 有効 |

3

[設定保存]をクリックする

4

メインメニューの[再起動]をクリックする

5

[再起動]をクリックして、[OK]をクリックする

装置が自動的に再起動し、設定した内容が有効になります。



ワンポイント

- RACSIA以外に接続するときは、[連携設定クリア]をクリックして、連携の設定を全てクリアしてください。



お知らせ

- 詳細設定を間違えて設定すると、無線アクセスポイント（ステーションモード）に接続されるIP多機能電話機が正常に動作しなくなります。設定についてはご使用のRACSIA主装置の取扱説明書を参照願います。
- 情報取得アドレス、情報取得ポート番号を間違えて設定すると、設定ソフトウェアが正常に動作しません。注意願います。
- 電波強度表示できるのは、IP多機能電話機のみです。
- ステーションモードでRACSIA以外に接続するときは、ステーションモードに設定した後で、[連携設定クリア]をクリックしてください。

フィルタリングを設定する

フィルタリングを設定することで、無線側ネットワークに不要なパケットを送信しないようにできます。

メインメニューの[フィルタリング設定]をクリックする

●アクセスポイントモード

メインメニュー
トップ画面

■データ設定
基本設定
無線設定
セキュリティ設定
LAN設定
接続設定
フィルタリング設定

■保守
手動/自動ファームウェア更新
ローカルファームウェア更新
再起動設定(NTP)
動作ログ
最大接続数ログ
統計情報
設定の一覧

監視モード
再起動
設定データのリセット

フィルタリング設定
IPv4フィルタリング/フィルタリングテーブル

■IPv4フィルタリング

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|-------------|--------------------|---|
| IPv4フィルタリング | 有効(IPv4v2v3v4v5v6) | 有効(IPv4v2v3v4v5v6)を選択すると、無線側ネットワークに送信しないパケットを送信します。 |

設定保存 設定をリセット

■フィルタリングテーブル

| No. | 送信元IPアドレス | 送信元ポート番号 | 送信元IPアドレス | 送信元ポート番号 | 接続帯域 | 説明 |
|-----|--------------------------|----------|--------------------------|----------|-------------|----|
| 1 | 239.1.1.1~239.1.1.2 | 8004 | 239.1.1.1~239.1.1.2 | 8004 | 800.11b/g/n | |
| 2 | 239.255.1.1~239.255.1.16 | 50006 | 239.255.1.1~239.255.1.16 | 50006 | 800.11b/g/n | |

※各設定項目において、データの登録/変更を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックしてください。
 ※「設定保存」をクリックせずに再起動や電源が切れた場合、設定データは最後に保存された値になります。
 ※「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

●ステーションモード

メインメニュー
トップ画面

■データ設定
基本設定
無線設定
セキュリティ設定
LAN設定
接続設定
フィルタリング設定

■保守
手動/自動ファームウェア更新
ローカルファームウェア更新
再起動設定(NTP)
動作ログ
最大接続数ログ
統計情報
設定の一覧

監視モード
再起動
設定データのリセット

フィルタリング設定
IPv4フィルタリング/フィルタリングテーブル

■IPv4フィルタリング

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|-------------|--------------------|---|
| IPv4フィルタリング | 有効(IPv4v2v3v4v5v6) | 有効(IPv4v2v3v4v5v6)を選択すると、無線側ネットワークに送信しないパケットを送信します。 |

設定保存 設定をリセット

■フィルタリングテーブル

| No. | 送信元IPアドレス | 送信元ポート番号 | 送信元IPアドレス | 送信元ポート番号 | 接続帯域 | 説明 |
|-----|--------------------------|----------|--------------------------|----------|-------------|----|
| 1 | 239.1.1.1~239.1.1.2 | 8004 | 239.1.1.1~239.1.1.2 | 8004 | 800.11b/g/n | |
| 2 | 239.255.1.1~239.255.1.16 | 50006 | 239.255.1.1~239.255.1.16 | 50006 | 800.11b/g/n | |

※各設定項目において、データの登録/変更を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックしてください。
 ※「設定保存」をクリックせずに再起動や電源が切れた場合、設定データは最後に保存された値になります。
 ※「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[フィルタリングテーブル新規作成]をクリックする

メインメニュー
トップ画面

■データ設定
基本設定
無線設定
セキュリティ設定
LAN設定
接続設定
フィルタリング設定

■保守
手動/自動ファームウェア更新
ローカルファームウェア更新
再起動設定(NTP)
動作ログ
最大接続数ログ
統計情報
設定の一覧

監視モード
再起動
設定データのリセット

フィルタリング設定
IPv4フィルタリング/フィルタリングテーブル

■フィルタリングテーブル新規作成

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|-----------|---------------------|--|
| 送信元IPアドレス | 239.1.1.1~239.1.1.2 | フィルタリングする送信元IPアドレスを設定します。 【任意】 【IPアドレス】0.0.0.0~255.255.255.255 |
| 送信元ポート番号 | 8004 | フィルタリングする送信元ポート番号を設定します。 【任意】 【ポート番号】1~65535 |
| 送信先IPアドレス | 239.1.1.1~239.1.1.2 | フィルタリングする送信先IPアドレスを設定します。 【任意】 【IPアドレス】0.0.0.0~255.255.255.255 |
| 送信先ポート番号 | 50006 | フィルタリングする送信先ポート番号を設定します。 【任意】 【ポート番号】1~65535 |
| 接続帯域 | 800.11b/g/n(5GHz帯) | フィルタリングする無線帯域を設定します。 フィルタリングを有効にするには、無線帯域を設定してください。 |
| 説明 | | フィルタリングテーブルについての説明を設定します。 【任意】 【最大文字数】255文字(半角) |

設定保存 設定保存をキャンセル

※各設定項目において、データの登録/変更を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックしてください。
 ※「設定保存」をクリックせずに再起動や電源が切れた場合、設定データは最後に保存された値になります。
 ※「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

3 無線ネットワークに送出しないパケットの条件を設定する

4 [設定保存]をクリックする

5 メインメニューの[再起動]をクリックする

6 [再起動]をクリックして、[OK]をクリックする

装置が再起動して、設定した内容が有効になります。

■ IPv6パケットをフィルタする場合

IPv6パケットをフィルタする場合は、手順1のあとにIPv6フィルタリングの802.11a/n（5GHz帯）と802.11b/g/n（2.4GHz帯）を選択する。

IPv6を送出しない場合：「IPv6フィルタリングする」を選択する。

IPv6を送出する場合：「IPv6フィルタリングしない」を選択する。

■ フィルタリングテーブルを変更する場合

フィルタリングテーブルを変更する場合は、手順1のあとにフィルタリングテーブルの修正するテーブルNo.をクリックして変更用の画面で変更してください。

■ フィルタリングテーブルを1件削除する場合

フィルタリングテーブルを削除する場合は、手順1のあとにフィルタリングテーブルの削除するテーブルNo.をクリックして変更用の画面で[削除]をクリックしてください。

■ フィルタリングテーブルを全て削除する場合

全てのフィルタリングテーブルを削除する場合は、手順1のあとに[全削除]をクリックしてください。



ワンポイント

- フィルタリングテーブルのすべての条件が一致した場合に、そのパケットの送出を停止します。また、設定していない項目は条件から除きます。
- フィルタリングは、802.11a/n（5GHz帯）と802.11b/g/n（2.4GHz帯）と別々に設定することができます。
- フィルタリングテーブルは、5個まで設定できます。



お知らせ

- フィルタリングの対象は、IPv4 TCP/UDP/ICMPのパケットです。他のパケットは対象外となりフィルタリングできません。
- フィルタリングテーブルを有効にするには、フィルタリングしたい無線帯域をチェックしてください。
- ステーションモードは、2.4GHz帯の設定は機能しません。また、変更もできません。フィルタリングテーブルの1件または全てを削除してから設定し直してください。

手動/自動ファームウェア更新を行う

自動ファームウェア更新機能とは、無線アクセスポイントが定期的にインターネット上の当社サーバとの通信を行い、最新ファームウェアを確認した場合に自動的にバージョンアップする機能です。

ファームウェアとは無線アクセスポイントを動かすプログラム(ソフトウェア)のことです。

メインメニューの[手動/自動ファームウェア更新]をクリックする

ファームウェア更新の設定画面が表示されます。

メインメニュー
トップ画面

■データ設定
基本設定
無線設定
セキュリティ設定
LAN設定
詳細設定
ファームウェア更新

■保守
手動/自動ファームウェア更新
ローカルファームウェア更新
通信設定(WiFi)
動作ログ
最大通信数ログ
統計情報
設定内容一覧
登録モード
再起動
設定データのリセット

手動/自動ファームウェア更新
自動ファームウェア更新状態表示 / 手動ファームウェア更新 / 自動ファームウェア更新詳細設定

■自動ファームウェア更新状態表示

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|------|--------------|----------------------|
| 状態 | 新しい更新がありません。 | 最新のファームウェアの有無を表示します。 |

■手動ファームウェア更新

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|-------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 手動ファームウェア更新 | <input type="button" value="手動更新"/> | [手動更新]をクリックすると、ファームウェアの更新チェックを行います。 |

■自動ファームウェア更新詳細設定

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|-----------------|------------------------|---|
| 現在時刻 | 2009年01月01日 00時00分 | 現在の時刻を表示します。 |
| 自動更新時刻 | 時 分 | 自動更新を実施する時刻を設定します。 [半角数字24時間時刻形式] 自動更新時刻が空白の場合は、午前0時から1時間以内に更新されます。 |
| 通常ファームウェア更新方法 | 無効 | 通常ファームウェアに対する動作を設定します。 |
| 重要ファームウェア更新方法 | 自動更新 | 重要ファームウェアに対する動作を設定します。 |
| バージョンアップお知らせURL | http://www.cpeinfo.jp/ | [必須] [ASCII文字(スペース不可)] [最大64文字まで] |
| 現在のファームウェアバージョン | V0.01 | ND-APのプログラムバージョンです。 |

- 各設定項目において、データの登録/変更を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックしてください。
- 「設定保存」をクリックせずに再起動や電源切った場合、設定データは最終に保存された値になります。
- 「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

各項目にバージョンアップするための設定内容を入力する

●アクセスポイントモード/ステーションモード共通

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|-----------------|--------------------------|---|------------------------|
| 状態 | 最新ファームウェアの有無を表示 | 参照のみ | |
| 手動ファームウェア更新 | 手動でファームウェアの更新チェックを行う | [手動更新] をクリックすると、更新チェックを開始する | |
| 現在時刻 | 現在の時刻を表示する | 参照のみ | |
| 自動更新時刻 | 自動更新を実施する時刻を設定する | [半角数字24時間時刻形式] | 無し |
| 通常ファームウェア更新方法 | 通常ファームウェアに対する動作を選択する | 無効/ユーザ通知/自動更新 | 無効 |
| 重要ファームウェア更新方法 | 重要ファームウェアに対する動作を選択する | 無効/ユーザ通知/自動更新 | 自動更新 |
| バージョンアップお知らせURL | バージョンアップお知らせサーバのURLを設定する | 《必須》 [ASCII文字(スペース不可)] [最大64文字まで] | http://www.cpeinfo.jp/ |
| 現在のファームウェアバージョン | 現在のファームウェアバージョンを表示する | 参照のみ | |



ワンポイント

- ファームウェアをバージョンアップする際にファイルがサーバにない場合は、無線アクセスポイントはバージョンアップファイルを取得できないため、ファームウェアのバージョンアップはできません。
- すぐにファームウェアを更新する場合、手動ファームウェア更新の[手動更新] ボタンをクリックし、[最新状態表示] ボタンで最新情報が表示されます。新しいファームウェアがある場合は、[ダウンロード] ボタンをクリックすることでファームウェアを更新します。また、装置の電源をOFF/ONすると、更新ファイルがあれば自動でファームウェアを更新します。



お知らせ

- 設定が間違っていると、正常にバージョンアップできません。
- 自動バージョンアップを行うと、装置は自動的に再起動を行います。
- バージョンアップの履歴は動作ログで確認できます。([動作ログを表示する] ▶P70)
- インターネット利用時は、必ずNTPサーバ設定を行い、時刻同期していることを確認してください。([時刻設定を行う] ▶P69)

ローカルでファームウェアのバージョンアップを行う

無線アクセスポイントをバージョンアップします。

ファームウェアとは無線アクセスポイントを動かすプログラム(ソフトウェア)のことです。

■バージョンアップする場合

メインメニューの[ローカルファームウェア更新]をクリックする

ファームウェア更新画面が表示されます。



バージョンアップ用のファイルを入力する

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|-------|---------------------------------|--|-----|
| ファイル名 | [参照] をクリックし、バージョンアップ用のファイルを選択する | ASCII文字(スペース不可) イメージファイル(拡張子: img)を指定する | 無し |

[更新開始]をクリックする

[更新開始]のボタンの色が変化し、バージョンアップが開始されます。

ファームウェアが更新されたあと、自動的に再起動します。



お知らせ

- ファームウェアのバージョンアップを行っているときに無線アクセスポイントのLANケーブル、電源ケーブルを抜いたり、電波の届きにくい場所に移動したりしないでください。失敗の原因となります。
- [更新開始] をクリック後、3分以上画面が変わらなかった場合は、ファームウェアのバージョンアップに失敗しています。装置の電源を入れなおし(電源アダプタの抜き差しまたは給電HUBとのケーブルの抜き差し)、再起動してください。
- ファイル名には、ASCII文字以外の文字を使用しないでください。バージョンアップができません。

時刻設定を行う

NTP (Network Time Protocol)サーバからの時刻設定を行います。

メインメニューの[時刻設定(NTP)]をクリックする

時刻設定画面が表示されます。

| 設定項目 | 設定値 | 備考 |
|------------|--|--|
| 現在時刻 | 2009年01月01日 00時33分 | 現在の時刻を表示します。 |
| NTP機能 | <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効 | 時刻設定(NTP機能)の有効/無効を設定します。 |
| NTPサーバアドレス | ntp.nict.jp | NTPサーバアドレスを設定します。 【必須】 【ASCII文字(スペース不可)】 【最大64文字まで】 |
| 更新間隔 | 24 時間毎 | NTP更新間隔を設定します。 【必須】 【半角数字(1～24)】 |

●各設定項目において、データの登録/変更を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックしてください。
●「設定保存」をクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
●「設定保存」クリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

各項目を設定する

●アクセスポイントモード/ステーションモード共通

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|------------|-----------------|---------------------------------|-------------|
| 現在時刻 | 現在の時刻を表示する | 参照のみ | |
| NTP機能 | 時刻設定の有効/無効を行う | 有効/無効 | 有効 |
| NTPサーバアドレス | NTPサーバアドレスを設定する | [ASCII文字(スペース不可)] [最大64文字まで] | ntp.nict.jp |
| 更新間隔 | 時刻更新間隔を設定する | 設定範囲：1 ～ 24 | 24時間毎 |

[設定保存]をクリックする

メインメニューの[再起動]をクリックする

[再起動]をクリックして、[OK]をクリックする

装置が再起動し、設定した内容が有効になります。

動作ログを表示する

無線アクセスポイントの動作ログを確認できます。

メインメニューの[動作ログ]をクリックする

ログが表示されます。



[クリア]を押すと、ログをクリアできます。



ワンポイント

- 最大200件表示できます。

最大通話数ログを表示する

最大通話数のログを確認できます。

メインメニューの[最大通話数ログ]をクリックする

最大通話数のログが表示されます。



- ①…最大通話数(●P55)設定された最大通話数になった時間
②…設定された最大通話数になったあと、最大通話数以下になった時間
[クリア]を押すと、ログをクリアできます。



ワンポイント

- 最大通話数を設定している場合に、最大通話数になったことを確認できます。
- NTPサーバまたはRACSIAに接続されていない場合は、カレンダーは正常に表示されません。2009年01月01日00時00分からの開始となります。
- 最大通話数はIEEE802.11b/g/n (2.4GHz帯)のみ利用できます。
- 最大200件表示できます。



お知らせ

- 最大通話数ログはアクセスポイントモードだけの機能です。ステーションモードでは参照できません。

統計情報を表示する

無線アクセスポイントの使用状況を表示します。

メインメニューの[統計情報]をクリックする

無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）はIEEE802.11a/n（5GHz帯）とIEEE802.11b/g/n（2.4GHz帯）に分けて表示されます。

無線アクセスポイント（ステーションモード）はIEEE802.11a/n（5GHz帯）のみ表示されます。

●アクセスポイントモード

●ステーションモード

無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)はAPを、無線アクセスポイント(ステーションモード)はSTAをクリックする

統計情報が表示されます。

●アクセスポイントモード

●ステーションモード



ワンポイント

●統計情報は約60秒ごとに自動的に更新されます。[更新]をクリックすることでも更新できます。

●統計情報について

次の項目について、無線アクセスポイントのWebデータを表示します。

| 順番 | 項目 | 意味 |
|----|------------|-------------|
| 1 | Data | データパケット数 |
| 2 | Management | マネジメントパケット数 |
| 3 | Errors | エラー発生数 |

●データパケット数に対して送信エラー発生数が多い場合は、使用チャンネル周波数の変更や無線アクセスポイントの設置場所を変更することをおすすめします。



お知らせ

●ブラウザの更新に失敗した場合は更新されません。再度設定画面を表示してください。

設定内容一覧を表示する

設定内容が表示されます。

メインメニューの[設定内容一覧]をクリックする

無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)は基本設定、無線設定、セキュリティ設定、ACL設定、詳細設定、IPv6フィルタリング、フィルタリング、手動/自動ファームウェア更新、時刻設定 (NTP)、登録モード設定の内容が表示されます。

無線アクセスポイント (ステーションモード) は基本設定、無線設定、セキュリティ設定、詳細設定、IPv6フィルタリング、フィルタリング、手動/自動ファームウェア更新、時刻設定 (NTP)、登録モード設定の内容が表示されます。

●アクセスポイントモード

メインメニュー
設定内容一覧

■データ設定

基本設定

| 設定項目 | 設定値 |
|-------------|---------------|
| システム名 | NAC-AP4000 |
| 動作モード | APモード |
| ユーザ名 | admin |
| パスワード | admin |
| IPアドレス | 192.168.1.101 |
| サブネットマスク | 255.255.255.0 |
| デフォルトゲートウェイ | |
| プライマリDNS | |
| セカンダリDNS | |

※1 DHCP取得時は取得したアドレスが表示されます。
※2 設定されていない場合はDHCPで取得したアドレスが表示されます。

■無線設定

| 設定項目 | 設定値 |
|----------|-----------------|
| 無線チャンネル | 1 (5.180 GHz) |
| 無線電力 | 300 mW (42 dBm) |
| 無線セキュリティ | WPA2-PSK (AES) |

■時刻設定(NTP)

| 設定項目 | 設定値 |
|-------------|-------------|
| NTP機能 | 使用する |
| NTPサーバーアドレス | ntp.nict.jp |
| 更新間隔 | 24時間 |

■登録モード設定

| 設定項目 | 設定値 |
|--------|------|
| 登録タイプ | 自動登録 |
| IPアドレス | 無効 |

●ステーションモード

メインメニュー
設定内容一覧

■データ設定

基本設定

| 設定項目 | 設定値 |
|-------------|---------------|
| システム名 | NAC-AP4000 |
| 動作モード | STATIONモード |
| ユーザ名 | admin |
| パスワード | admin |
| IPアドレス | 192.168.1.101 |
| サブネットマスク | 255.255.255.0 |
| デフォルトゲートウェイ | |
| プライマリDNS | |
| セカンダリDNS | |

※1 DHCP取得時は取得したアドレスが表示されます。
※2 設定されていない場合はDHCPで取得したアドレスが表示されます。

■無線設定

| 設定項目 | 設定値 |
|----------|-----------------|
| 無線チャンネル | 1 (5.180 GHz) |
| 無線電力 | 300 mW (42 dBm) |
| 無線セキュリティ | WPA2-PSK (AES) |

■時刻設定(NTP)

| 設定項目 | 設定値 |
|-------------|-------------|
| NTP機能 | 使用する |
| NTPサーバーアドレス | ntp.nict.jp |
| 更新間隔 | 24時間 |

■登録モード設定

| 設定項目 | 設定値 |
|--------|------|
| 登録タイプ | 自動登録 |
| IPアドレス | 無効 |

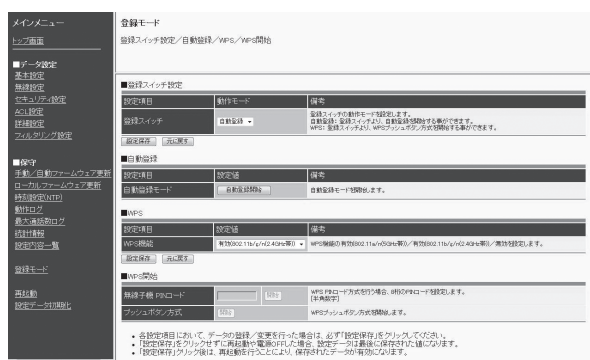
登録モードの設定を行う

自動登録やWPS機能などの登録モードの設定を行います。

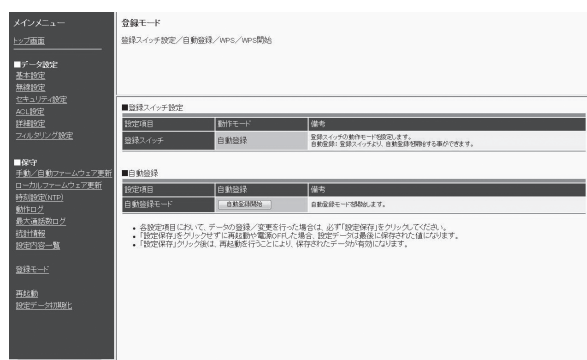
メインメニューの[登録モード]をクリックする

登録モード画面が表示されます。

●アクセスポイントモード



●ステーションモード



各項目を設定する

●アクセスポイントモード

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|------------|-------------------------------|--|------|
| 登録スイッチ | 登録スイッチの動作モードを設定する | 自動登録/WPS | 自動登録 |
| 自動登録モード | 自動登録モードを開始する | [自動登録開始] をクリックすると登録動作を開始する | |
| WPS機能 | WPS機能の有効/無効を設定する | 有効(802.11a/n (5GHz帯)) / 有効(802.11b/g/n (2.4GHz帯)) / 無効 | 無効 |
| 無線子機PINコード | WPS PIN方式を行う場合、8桁のPINコードを設定する | [半角数字8桁] [開始] をクリックすると登録動作を開始する | 無し |
| プッシュボタン方式 | WPSプッシュボタン方式を開始する | [開始] をクリックすると登録動作を開始する | |

●ステーションモード

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 | 初期値 |
|---------|---------------------------------------|----------------------------|------|
| 登録スイッチ | 登録スイッチの動作モードを設定する ステーションモードは自動登録のみ | 参照のみ | 自動登録 |
| 自動登録モード | 自動登録モードを開始する | [自動登録開始] をクリックすると登録動作を開始する | |

3

[設定保存]をクリックする

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

4 メインメニューの[再起動]をクリックする

5 [再起動]をクリックして、[OK]をクリックする

装置が再起動し、設定した内容が有効になります。

実際の登録操作については、次の項目をご覧ください。

- ・ 自動登録モードで登録を行う（「自動登録モードで無線アクセスポイントに登録するには」 ●P27、「IPコードレス電話機を自動登録するには」 ●P36）
- ・ WPS PINコード方式で登録を行う（「PINコード方式を使用する場合」 ●P34）
- ・ WPSプッシュボタン方式で登録を行う（「プッシュボタン方式を使用する場合」 ●P33）

設定ソフトウェアでデータ設定を行うには

設定ソフトウェアは、次のような設定操作を簡単に行うことができます。

- ①IPアドレスがわからない無線アクセスポイントのWeb設定画面を表示する
- ②固定IPアドレスを設定する
- ③設定データを保存し、同じ内容を別の無線アクセスポイントにコピーする
- ④IPアドレス電話機からメールの送受信を行う設定、メールアドレス帳の編集ができる
- ⑤IPアドレス電話機の着信メロディを設定する
- ⑥IPアドレス電話機のMACアドレスを、複数の無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）にコピーする

設定ソフトウェアは、以下の動作環境でご利用ください。

動作環境

| 項 目 | 条 件 |
|--------|--|
| OS | Microsoft Windows XP Professional Edition Microsoft Windows XP Home Edition Microsoft Windows Vista Home Basic (32ビット版) Microsoft Windows Vista Home Premium (32ビット版) Microsoft Windows Vista Business (32ビット版) Microsoft Windows Vista Ultimate (32ビット版) |
| PC | PC / AT互換機 |
| CPU | OSの動作条件に準拠 |
| メモリ | OSの動作条件に準拠 |
| HDD | 空き容量25MB以上 |
| ビデオ | 800×600ピクセル 以上 HighColor (16ビット) 以上 |
| USB | 1.1対応 |
| フォント | MSゴシック サイズ11 |
| ネットワーク | インターネットプロトコル(TCP / IP) |
| ブラウザ | Windows Internet Explorer 7.0 Windows XP であればMicrosoft Internet Explorer 6.0またはWindows Internet Explorer 7.0 |



お知らせ

- 無線アクセスポイントと設定ソフトウェアをインストールしたパソコンは同一のネットワークアドレスの環境に接続してください。
- 設定ソフトウェアを同一パソコンで複数起動したり、同一ネットワーク上の複数のパソコンで同時に起動している場合は、動作保証できない場合があります。
- 設定ソフトウェアは、無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）のLANポート側に接続されたパソコン上で操作してください。
- 設定ソフトウェアをインストールしたパソコンにファイアウォール機能やウィルスチェックソフトがある場合、正常に動作しない場合があります。
- [画面のプロパティ]から[大きいフォント]を選択した場合、ディスプレイのスクリーンサイズが800×600ピクセルですと画面上に表示しきれません。
- 設定ソフトウェアの表示欄のカラム幅は変更できますが、記憶されません。
- IPアドレス電話機を「無線装置(LAN接続)」で設定する場合は、FTPサーバが必要です。

1
お使いになる前に

2
事前準備

3
Webでデータ
設定を行う

4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

無線アクセスポイントの設定について

| 項 番 | 機能名称 | 概 要 | 備 考 | 参照ページ |
|-----|-----------------|--|--|-------|
| 1 | 装置検索 | ネットワーク上に接続する無線アクセスポイント、IPコードレス電話機などを検索し、IPアドレス、MACアドレス、システム名、SSID (5G、2.4G)、電波状況、装置のバージョンを一覧表示する | ●主装置、市販の無線ステーション、パソコンなどは検索できない | ➡P82 |
| 2 | 再起動要求 | 指定した無線アクセスポイントに対して、再起動を行う | ●IPコードレス電話機は再起動できない | ➡P86 |
| 3 | 設定画面起動 | 無線アクセスポイントの場合はWeb設定画面を表示する | — | ➡P85 |
| 4 | IPアドレス変更 | 検索した装置にIPアドレス・サブネットマスク・デフォルトゲートウェイ・DHCPの設定をする | ●IPコードレス電話機は設定できない | ➡P82 |
| 5 | ログ取得 | 指定した無線アクセスポイントの動作ログのデータをパソコンに保存する | — | ➡P87 |
| 6 | 設定内容保存 | 検索した装置からデータ設定の内容を収集し、バックアップデータを作成する | — | ➡P89 |
| 7 | 設定内容更新 | 検索した装置に指定したバックアップデータを実行しデータ設定を更新する | — | ➡P92 |
| 8 | ファームウェアバージョンアップ | 指定した装置に対して、FTPサーバからファームウェアをダウンロードしてバージョンアップを行う | — | ➡P96 |
| 9 | ACL自動追加 | 装置検索で見つかったIPコードレス電話機のMACアドレスを、検索済みの無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)のACLテーブルへ追加登録する | <ul style="list-style-type: none"> ●一度に選択できるのは、1台のIPコードレス電話機と複数の無線アクセスポイント(アクセスポイントモード) ●処理中にエラーが発生しても、次の処理を行う ●無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)のACLテーブルの登録数が100件の場合には登録できない ●機能実行後、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)は自動的に再起動する | ➡P100 |
| 10 | 自動登録 | 検索した装置にデータ設定の自動登録要求を実施する 装置にデータ設定を行うことなく、簡単な操作で使用可能になる | ●IPコードレス電話機は設定できない | ➡P98 |
| 11 | 接続図表示 | ネットワーク上に接続する無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)から情報を収集し、接続図を表示する | — | ➡P101 |

IPコードレス電話機の設定について

| 項 番 | 機能名称 | 概 要 | 備 考 | 参照ページ |
|-----|----------------------------|--|--|-------|
| 1 | メールアドレス帳編集 | メールアドレス帳への新規登録、編集、削除と、エクスポート・インポート(CSVファイル形式)を行う | ●最大500件の電話帳を登録 | ☛P103 |
| 2 | 無線設置データ設定 | 無線接続に関する設定を行う SSIDは複数登録可能 | ●最大20件のSSIDを登録 | ☛P106 |
| 3 | 無線アクセスポイント設定連携 | 無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）の設定データから無線関連の情報を取得して、IPコードレス電話機の設定に反映させる | ●無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）の設定データが作成されていない場合は使用できない | ☛P109 |
| 4 | メール設定 | メール送受信に関連する設定を行う | — | ☛P114 |
| 5 | IPコードレス電話機の設定 | マナーモード、ロックナンバーなどのIPコードレス電話機単独の動作パラメータ設定を行う | — | ☛P110 |
| 6 | 着信メロディ設定 | 着信設定時にIPコードレス電話機で使用する着信メロディファイルを設定、削除できる また、ファイル名の変更もできる | — | ☛P112 |
| 7 | IPコードレス電話機のファームウェアバージョンアップ | USB接続によるファームウェアダウンロードを行い、バージョンアップを行う | — | ☛P118 |
| 8 | 設定内容の保存と更新 | IPコードレス電話機の設定データをパソコンに保存する 保存しておいた設定データで、IPコードレス電話機の設定を更新できる | — | ☛P116 |
| 9 | 装置検索 | ネットワーク上に接続する無線アクセスポイント、IPコードレス電話機などを検索し、IPアドレス、MACアドレス、システム名、SSID (5G、2.4G)、電波状況、装置のバージョンを一覧表示する | ●主装置、市販の無線ステーション、パソコンなどは検索できない | ☛P82 |
| 10 | 設定画面起動 | IPコードレス電話機の場合は設定画面を表示する | — | ☛P85 |
| 11 | 設定内容保存 | 検索した装置からデータ設定の内容を収集し、バックアップデータを作成する | — | ☛P89 |
| 12 | 設定内容更新 | 検索した装置に指定したバックアップデータを実行しデータ設定を更新する | — | ☛P92 |
| 13 | ファームウェアバージョンアップ | 指定した装置に対して、FTPサーバからファームウェアをダウンロードしてバージョンアップを行う | — | ☛P96 |
| 14 | 接続図表示 | ネットワーク上に接続する無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）から接続情報を収集し、接続図を表示する | — | ☛P101 |
| 15 | ACL自動追加 | 装置検索で見つかったIPコードレス電話機のMACアドレスを、検索済みの無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）のACLテーブルへ追加登録する | ●一度に選択できるのは、1台のIPコードレス電話機と複数の無線アクセスポイント（アクセスポイントモード） ●処理中にエラーが発生しても、次の処理を行う ●無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）のACLテーブルの登録数が100件の場合には登録できない ●機能実行後、無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）は自動的に再起動する | ☛P100 |

1
お使いになる前に

2
事前準備

3
Webでデータ
設定を行う

4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

インストール方法

添付のCD-ROMから、設定ソフトウェアをパソコンにインストールします。

1 添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする

「NTT WirelessSetup for α NX 無線アクセスポイント設定ソフトウェア」のインストールボタンをクリックする

設定ソフトウェアのセットアップウィザード画面が表示されます。



3 [次へ]をクリックする

使用許諾契約が表示されます。

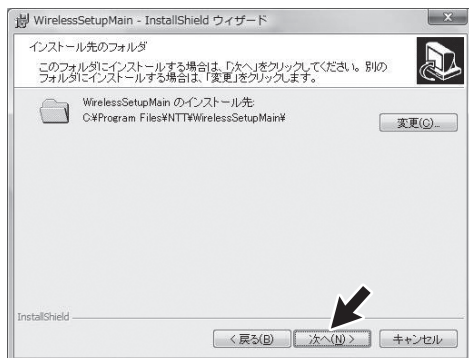
4 [使用許諾契約]を最後まで読み、内容に同意する場合は「使用許諾条項に同意します。」を選択し[次へ]をクリックする

設定ソフトウェアのインストール先が表示されます。

「使用許諾条項に同意しません。」をクリックするとインストールできません。

[次へ]をクリックする

インストール先を変更する場合は[変更]をクリックし、表示された画面でインストール先を指定してください。



6

[インストール]をクリックする

インストールを開始します。

7

[完了]をクリックする

インストールを終了すると、案内ページが表示されます。

8

[END]をクリックする

案内ページが閉じますので、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出します。

9

USBドライバをインストールする

USBケーブルをパソコンとIPコードレス電話機に接続します。

10

インストール画面に従ってインストールする

ドライバは、c: ¥Program Files ¥NTT ¥WirelessSetupMain ¥WirelessSetupNX ¥IPCLPORTS.inf を指定してください。

**ワンポイント**

- 設定ソフトウェアのアンインストールは、次の手順で行ってください。

<Windows Vistaの場合>

・[スタートメニュー]→[コントロールパネル]→[プログラムのアンインストール]→WirelessSetupMainの削除

- インストール先を変更している場合は、ドライバはインストールしたフォルダ内にあります。

**お知らせ**

- 「IPコードレス設定（USB接続）」で設定を行うためには、設定ソフトウェアをインストールしたパソコンと、USBケーブル（別売）で接続する必要があります。
- USBドライバをインストールしなければ、IPコードレス電話機の設定はできません。
- USBポートごとにドライバのインストールが必要です。
- USBドライバをインストールし、P119の「設定ソフトウェアの環境設定を行う」で、IPコードレス電話機とのUSB通信に使用するシリアル通信ポートを設定する必要があります。
- FTPサーバを利用して、「設定データを保存する」（●P89）、「保存した設定データを反映する」（●P92）、「ファームウェアのバージョンアップを行う」（●P96）場合は、「設定ソフトウェアの環境設定を行う」（●P119）で、FTPサーバの設定を行う必要があります。
- VLANを設定しているパソコンをご使用の場合は、VLANの設定をはずして使用してください。

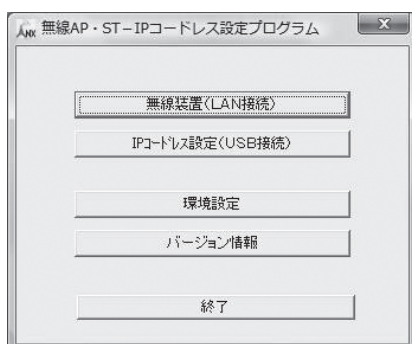
IPアドレスを設定する

無線アクセスポイントを検索して、IPアドレスなどの設定を行います。

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム
選択画面から「αNX設定」をクリックする

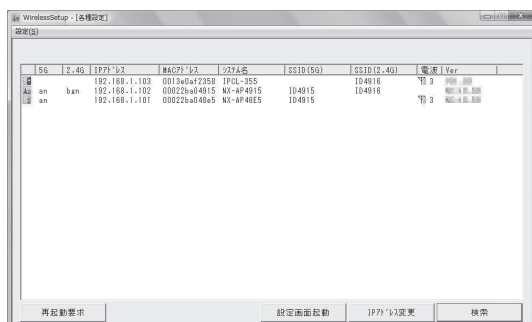
設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。



2

「無線装置(LAN接続)」をクリックする

設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。



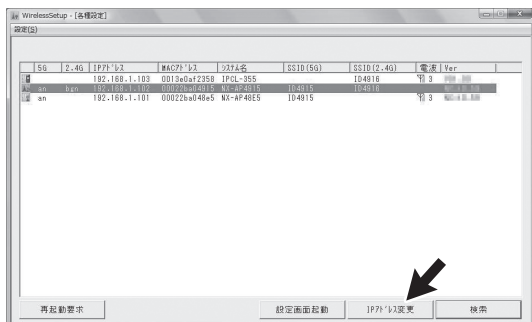
3

各項目は、見出しをクリックすることにより、並び順を替えることができる

- ・アイコンによる種別表示(無線アクセスポイント(アクセスポイントモード) ・無線アクセスポイント(ステーションモード) ・IPコードレス電話機)
- ・無線モード表示5G/2.4G
 - a: IEEE802.11aが有効
 - b: IEEE802.11bが有効
 - g: IEEE802.11gが有効
 - n: IEEE802.11nが有効
- ・IPアドレスの表示
- ・MACアドレスの表示
- ・システム名の表示
- ・SSID (5G)の表示
- ・SSID (2.4G)の表示
- ・無線アクセスポイント (ステーションモード)、IPコードレス電話機の電波強度の表示 (圏外 0 ~ 1 ~ 2 ~ 3)
- ・装置のバージョン表示

4

一覧表示から、IPアドレスを設定する無線アクセスポイントを選択して、[IPアドレス変更]をクリックする

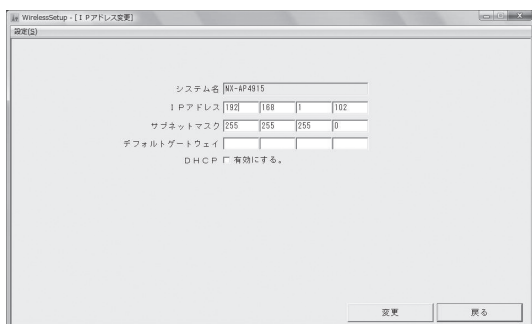


IPアドレス変更画面が表示されます。各種設定画面で選択した機器について、以下のような設定ができます。

| 設定項目 | 設定内容 |
|-------------|---------------------------------|
| システム名(表示のみ) | システム名が表示される |
| IPアドレス | IPアドレスを設定する |
| サブネットマスク | サブネットマスクを設定する |
| デフォルトゲートウェイ | デフォルトゲートウェイを設定する |
| DHCP | DHCPサーバによる自動IPアドレス設定を有効／無効に変更する |

5

IPアドレスを設定する



- IPアドレス : X.X.X.X (X : 0 ~ 255、10進数)
- サブネットマスク : X.X.X.X (X : 0 ~ 255、10進数)
- デフォルトゲートウェイ : X.X.X.X (X : 0 ~ 255、10進数)
- DHCP : チェックあり(有効) / チェックなし(無効)

6

[変更]をクリックする

IPアドレスの設定が変更されて、装置が再起動します。

IPアドレスを設定する



ワンポイント

- 設定ソフトウェアを終了するとき、[設定]メニューの「閉じる」をクリックしてメインメニューに戻り、「終了」をクリックし、システム選択画面で再度「終了」をクリックしてください。



お知らせ

- 一覧表示をする場合、ネットワークや無線の状態によっては検索できない場合があります。その場合は、接続を確認するか、再度[検索]をクリックしてください。
- 検索できるのは、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)、無線アクセスポイント(ステーションモード)、IPコードレス電話機です。IP多機能電話機、無線LANカード、パソコンなどは検索できません。
- 装置の起動中は、検索の結果が正常に表示されない場合があります。
- データ設定を行うと、設定を変更した無線アクセスポイントが再起動を行います。
- 設定ソフトウェアではシステム名は変更できません。Webのデータ設定で変更してください。設定の詳細については、各無線装置の取扱説明書をご参照ください。([基本機能を設定する] ▶P52)
- IPコードレス電話機は、Web設定できません。
- IPコードレス電話機は、無線モード表示には何も表示されません。
- IPコードレス電話機と無線アクセスポイントでIPアドレスの設定範囲は異なります。
- 無線アクセスポイントのIPアドレス設定範囲は以下の条件となります。
[0.0.0.1] ~ [223.255.255.254]
※次の範囲は除く
[127.xxx.xxx.xxx]、[1~126.0.0.0]、[1~126.255.255.255]、[128~191.xxx.0.0]、
[128~191.xxx.255.255]、[192~223.xxx.xxx.0]、[192~223.xxx.xxx.255]
- 装置の再起動が完了してもしばらくは「装置を再起動中です」表示をします。

設定画面を起動する

無線アクセスポイントの個々の設定をWebブラウザで変更できます。IPコードレス電話機を選択している場合は、IPコードレス電話機設定画面を表示します。

1
お使いになる前に

2
事前準備

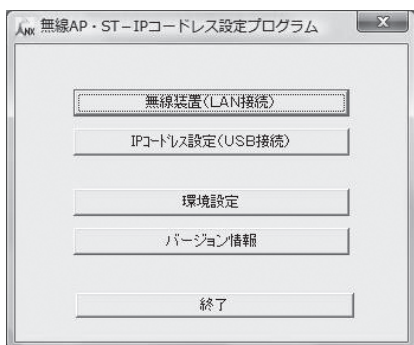
3
Webでデータ
設定を行う

4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

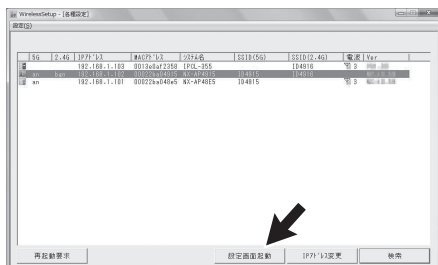


「無線装置(LAN接続)」をクリックする

設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。

一覧表示から、設定する無線アクセスポイント、IPコードレス電話機を1つ選択して、[設定画面起動]をクリックする

Webブラウザが起動して、データ設定のメインメニューが表示されます。



| 設定項目 | 起動画面 | 参照ページ |
|-----------------------------|------------------------|------------|
| 無線アクセスポイント (アクセスポイントモード) | 無線アクセスポイント Webデータ設定 | P48 ~ 76 |
| 無線アクセスポイント (ステーションモード) | | |
| IPコードレス電話機 | IPコードレス電話機設定 | P103 ~ 118 |



ワンポイント

- 一覧に表示された無線アクセスポイント、IPコードレス電話機をダブルクリックして、設定画面を起動させることができます。
- [検索]をクリックすると、最新の状態を確認できます。



お知らせ

- 一覧表示をする場合、ネットワークや無線の状態によっては検索できない場合があります。その場合は、接続を確認するか、再度[検索]をクリックしてください。
- 一覧表示でIPアドレスが表示されていない場合は、IPアドレスを設定してからご利用ください。(「IPアドレスを設定する」P82)
- IPコードレス電話機は、Web設定できません。
- IPコードレス電話機の設定は、USBケーブルを接続し、メインメニューの「IPコードレス設定 (USB接続)」からも設定できます。
- IPコードレス電話機を設定するにはFTPサーバが必要です。
- FTPサーバの設定は各パソコン、FTPサーバアプリケーションの取扱説明書をご参照ください。

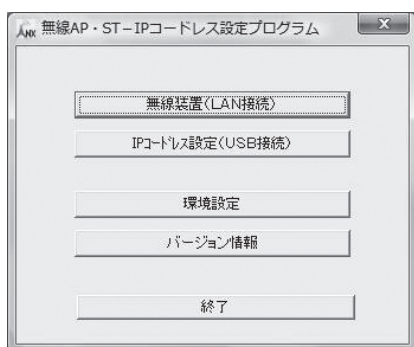
再起動を行う

無線アクセスポイントの再起動を行います。

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム
選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

1



2

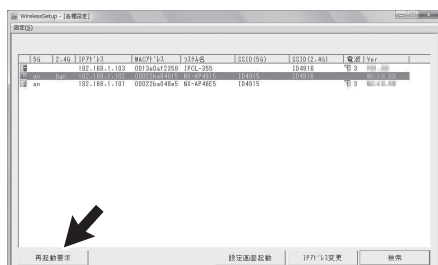
「無線装置(LAN接続)」をクリックする

設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。

一覧表示から再起動を行う無線アクセスポイントを選択して、[再起動要求]をクリックする

無線アクセスポイントが再起動します。

3



お知らせ

- 装置の再起動が完了してもしばらくは「装置を再起動中です」と表示されます。

動作ログを取得する

無線アクセスポイントの動作ログおよび最大通話数ログの取得を行います。

1
お使いになる前に

2
事前準備

3
Webでデータ
設定を行う

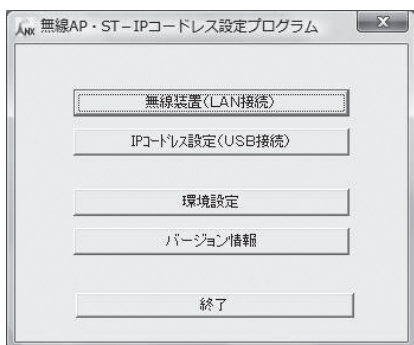
4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム
選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。



2

「無線装置(LAN接続)」をクリックする

設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。

3

「設定」メニューの「オプション設定」をクリックする

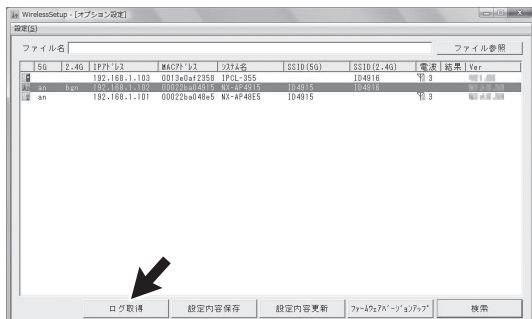
4

一覧表示からログを取得する無線アクセスポイントを選択する

5

「ログ取得」をクリックする

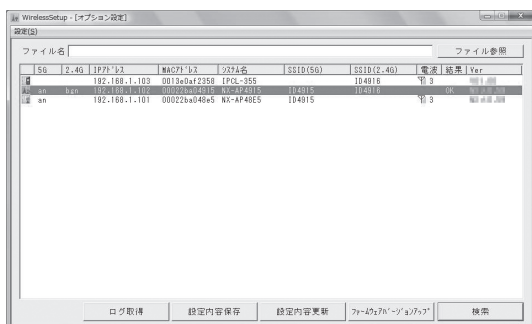
- ・ 動作ログのファイル名は、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)と無線アクセスポイント(ステーションモード)で「AP[5GHz帯MACアドレス]_[年月日時分秒].log」「ST[5GHz帯MACアドレス]_[年月日時分秒].log」となります。
- ・ ファイルはC:\Program Files\NTT\WirelessSetupMain\WirelessSetupNXに保存されます。



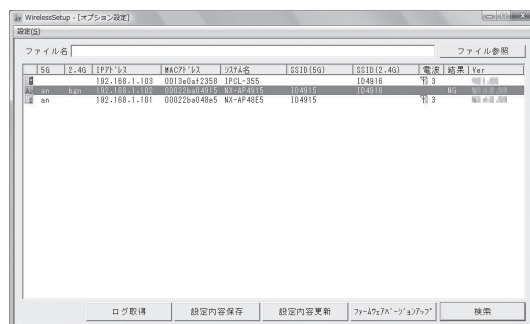
(前ページのつづき)

すべての保存結果を確認する

6



「動作ログ取得OK」



「動作ログ取得NG」



ワンポイント

- 結果表示(OK/NG)は、次の処理を実行するまで前回の結果を表示します。



お知らせ

- ログの記載内容は、Web画面の表示内容と異なります。

設定データを保存する

無線アクセスポイント、IPコードレス電話機からデータ設定の内容を収集し、バックアップデータを保存できます。

保存したバックアップデータを別の無線アクセスポイントで読み込むと、そのデータを反映できます。

IPコードレス電話機のデータ設定の内容を保存する場合はFTPサーバを準備する必要があります。

1
お使いになる前に

2
事前準備

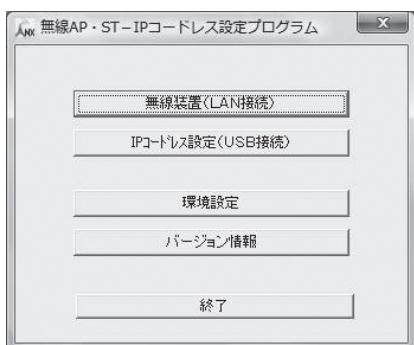
3
Webでデータ
設定を行う

4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。



1

「無線装置(LAN接続)」をクリックする

設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。

2

[設定]メニューの[オプション設定]をクリックする

3

一覧表示から、設定内容を保存する無線アクセスポイント、IPコードレス電話機を選択する

4



ワンポイント

●複数の装置を選択するには、パソコンのShiftキーまたはCtrlキーを押しながらクリックします。

設定データを保存する

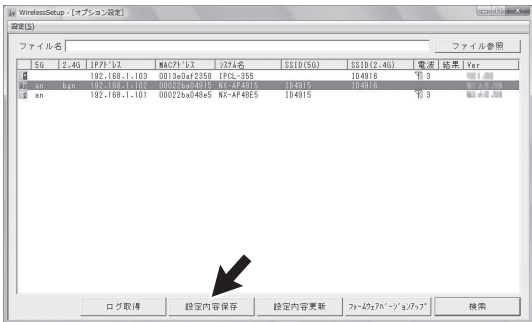
(前ページのつづき)

5

「設定内容保存」をクリックする

選択した無線アクセスポイント、IPコードレス電話機のバックアップデータのファイルが保存されます。

- ・ バックアップデータのファイル名は、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)と無線アクセスポイント(ステーションモード)で「NXAP[5GHz帯MACアドレス].txt」「NXST[5GHz帯MACアドレス].txt」となります。IPコードレス電話機の設定データはフォルダで保存されます。(例：IPCL00000000000000) (P117)
- ・ 設定ファイルはC: ¥Program Files ¥NTT ¥WirelessSetupMain ¥WirelessSetupNXに保存されます。



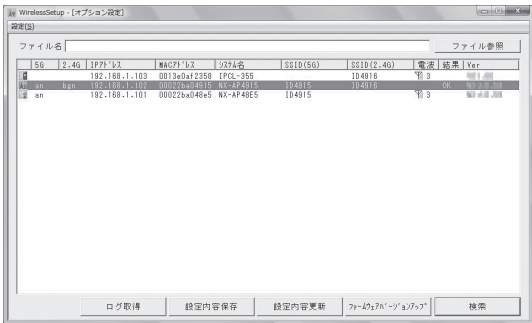
(例：NXAP00000000000000.txt/NXST00000000000000.txt)

(00000000000000には、保存した無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)・無線アクセスポイント(ステーションモード)の5GHz帯のMACアドレスが入ります。)

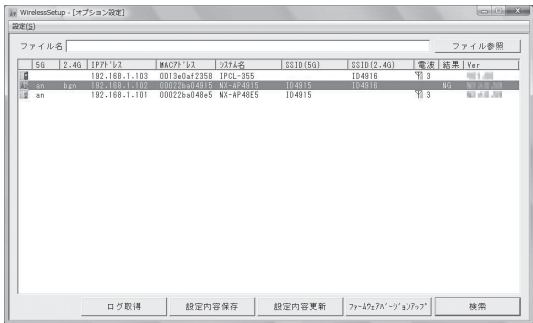
保存が完了すると、一覧画面に「OK」が表示されます。

6

すべての保存結果を確認する



「設定内容保存OK」



「設定内容保存NG」



ワンポイント

- 無線アクセスポイントのデータ保存は、保存中に[キャンセル]をクリックすることで中止できますが、IPコードレス電話機のデータ保存は途中で中止できません。
- 結果表示(OK/NG)は、次の処理を実行するまで前回の結果を表示します。
- 無線状態により失敗する場合があります。失敗した場合は、もう一度保存を行ってください。
- インストール先を変更している場合は、設定データのファイルはインストールしたフォルダ内にあります。



お知らせ

- IPコードレス電話機の設定データを保存するには、FTPサーバの設定を環境設定で行います。(●P119)
- 一覧表示でIPアドレスが表示されていない場合は、IPアドレスを設定してからご利用ください。([IPアドレスを設定する] ●P82)
- バックアップデータはファイル名および内容を変更しないでください。変更したバックアップデータで設定内容更新を行うと、動作しなくなることがあります。
- 一覧表示をする場合、ネットワークや無線の状態によっては検索できない場合があります。その場合は、接続を確認するか、再度[検索]をクリックしてください。
- バックアップデータファイルを他のアプリケーションでアクセスしている場合は正常に動作しません。
- 無線アクセスポイントのデータ保存は、保存中に[キャンセル]をクリックすることで中止できますが、結果欄に「NG」が表示されることがあります。

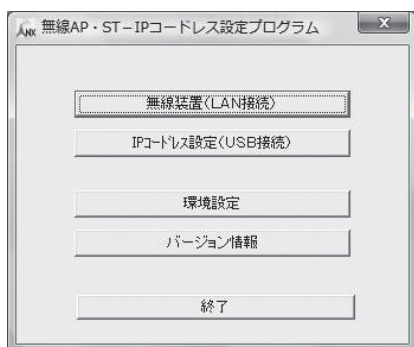
保存した設定データを反映する

無線アクセスポイント、IPコードレス電話機に、保存したバックアップデータを反映できます。
IPコードレス電話機の保存したデータの内容を反映する場合はFTPサーバを準備する必要があります。

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム
選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。



2

「無線装置(LAN接続)」をクリックする

設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。

3

【設定】メニューの【オプション設定】をクリックする

4

一覧表示から、設定内容を反映する無線アクセスポイント、IPコードレス電話機を選
択する



ワンポイント

●複数の装置を選択するには、パソコンのShiftキーまたはCtrlキーを押しながらクリックします。

[ファイル参照]をクリックして、設定内容を更新するファイルを選択する

- バックアップデータのファイルは、無線アクセスポイント、IPコードレス電話機で保存したデータを使用してください。
- 無線アクセスポイントで保存されたデータのファイル名は、「NXAP [5GHz帯MACアドレス]」「NXST [5GHz帯MACアドレス]」となっています。また、IPコードレス電話機で保存されたデータは「IPCL[MACアドレス]」フォルダに保存されているファイルを1つ選択してください。

「IPCL [MACアドレス]」フォルダには次のファイルが保存されています。

| | |
|-------------------------------|---------------------|
| dat_tel_[MACアドレス].ini | : メールアドレス帳データファイル |
| dat_mail_[MACアドレス].ini | : メール設定データファイル |
| dat_wireless_[MACアドレス].ini | : 無線設置データファイル |
| dat_ipcl_[MACアドレス].ini | : IPCL動作設定データファイル |
| dat_sys_[MACアドレス].ini | : ネットワーク関連設定データファイル |
| dat_wlan_config_[MACアドレス].ini | : セキュリティ設定データファイル |

以上に加えて最大8個の着信メロディファイル、最大3個のクライアント証明書・クライアント秘密鍵・ルートCA証明書ファイル

●無線アクセスポイントの保存・更新対象データ

| | 設定項目 | 保存項目 | 更新項目 |
|------|-----------------|------|------|
| 基本設定 | システム名 | ○ | — |
| | 動作モード | ○ | ○ |
| | ログインID | ○ | ○ |
| | パスワード | ○ | — |
| | DHCP機能 | ○ | ○ |
| | IPアドレス | ○ | — |
| | サブネットマスク | ○ | — |
| | デフォルトゲートウェイ | ○ | — |
| | プライマリDNS | ○ | ○ |
| | セカンダリDNS | ○ | ○ |
| 無線設定 | 無線機能 | ○ | ○ |
| | SSID | ○ | ○ |
| | チャンネル周波数 | ○ | ○ |
| | 拡張無線帯域 | ○ | ○ |
| | 送信強度 | ○ | ○ |
| | Beacon Interval | ○ | ○ |
| | DTIM | ○ | ○ |
| | QoS | ○ | ○ |
| | 最大接続数 | ○ | ○ |
| | 最大通話数 | ○ | ○ |
| | RTPパケット間隔 | ○ | ○ |

保存した設定データを反映する

(前ページのつづき)

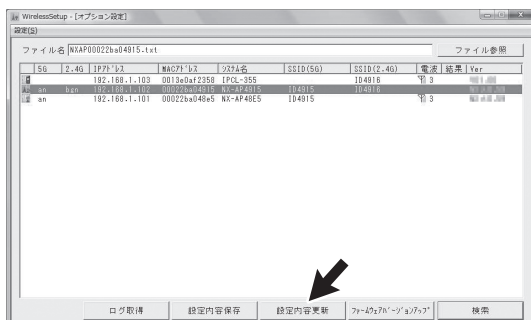
5

| 設定項目 | | 保存項目 | 更新項目 |
|----------------|-------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| セキュリティ設定 | SSID隠蔽 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | セキュリティ方式 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 暗号キー WEP | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 暗号キー PassPhrase | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | RADIUSサーバ設定 RADIUSサーバアドレス | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | RADIUSサーバ設定 RADIUSサーバポート番号 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | RADIUSサーバ設定 RADIUSシークレット | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | RADIUSサーバ設定 再認証間隔(分) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ACL設定 | ACL機能 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | ACLアドレステーブル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 詳細設定 | 情報取得アドレス | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 情報取得ポート番号 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 主装置発見アドレス | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 主装置発見ポート番号 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 主装置識別 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 電波強度表示設定 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| フィルタリング設定 | IPv6フィルタリング | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | フィルタリングテーブル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 手動/自動ファームウェア更新 | 自動更新時刻 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 通常ファームウェア更新方法 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 重要ファームウェア更新方法 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | バージョンアップお知らせURL | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 時刻設定 | NTP機能 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | NTPサーバアドレス | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | 更新間隔 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 登録モード | 登録スイッチ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| | WPS機能 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

[設定内容更新]をクリックする

選択した無線アクセスポイント、IPコードレス電話機の設定内容がバックアップデータの内容に更新されます。

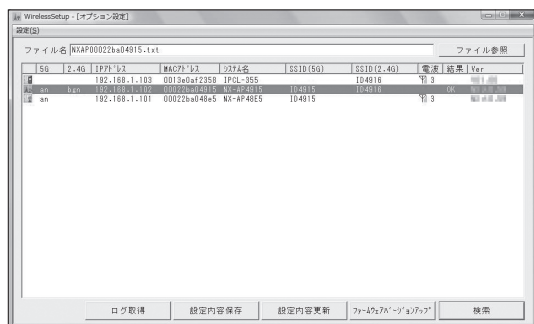
6



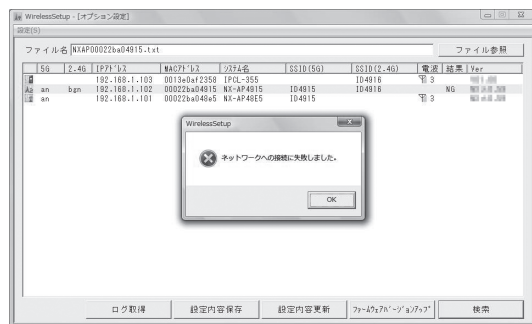
更新が完了すると、装置が再起動され、一覧画面に「OK」が表示されます。

すべての更新結果を確認する

7



「設定内容更新OK」



「設定内容更新NG」



ワンポイント

- 設定内容の更新状況は、一覧画面の結果欄に表示されます。「NG」が表示されているときには、再度設定内容を更新してください。
- 設定内容を変更すると、装置が再起動します。
- 「設定データを保存する」(P89)で保存されたファイルを使用してください。
- バックアップしたデータで無線アクセスポイント、IPコードレス電話機の設定データを更新できます。
- 設定を「DHCP無効」に変更した場合は、IPアドレスを設定してください。
- 無線状態により、失敗する場合があります。失敗したときはもう一度、設定内容の更新を行ってください。
- 結果表示(OK/NG)は、次の処理を実行するまで前回の結果を表示します。



お知らせ

- IPコードレス電話機で保存した設定データを反映するには、FTPサーバの設定を環境設定で行います。(P119)
- バックアップデータはファイル名および内容を変更しないでください。変更したバックアップデータで設定内容更新を行うと、動作しなくなることがあります。
- システム名、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイは更新されません。バックアップデータが「DHCP無効」の場合、設定内容更新前の値になります。また、お買い求め後または初期化後に一度も設定変更せずに設定内容更新をした場合は、それぞれ以下の値になります。
IPアドレス：192.168.1.20
サブネットマスク：255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ：設定なし
- 一覧表示でIPアドレスが表示されていない場合は、IPアドレスを設定してからご利用ください。([IPアドレスを設定する] P82)
- 一覧表示をする場合、ネットワークや無線の状態によっては検索できない場合があります。その場合は、接続を確認するか、再度[検索]をクリックしてください。
- 無線アクセスポイントのデータ更新は、更新中に[キャンセル]をクリックすることで中止できますが、結果欄に「NG」が表示されることがあります。
- 設定内容更新を行うと動作モードも更新されますのでご注意ください。
- 設定内容更新を行うとログインパスワードは"admin"になります。
- バックアップデータファイルを他のアプリケーションでアクセスしている場合は正常に動作しません。
- 装置の再起動が完了してもしばらくは「装置を再起動中です」表示をします。

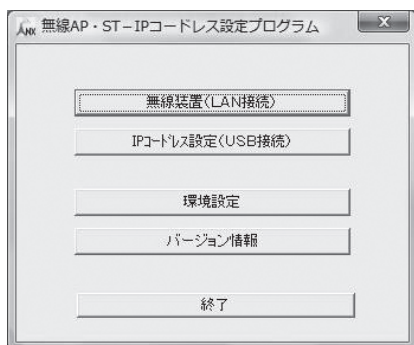
ファームウェアのバージョンアップを行う

検索した無線アクセスポイント、IPコードレス電話機のファームウェアをFTPサーバから取得してバージョンアップします。

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。



2

「無線装置(LAN接続)」をクリックする

設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。

3

「設定」メニューの「オプション設定」をクリックする

4

一覧表示から、ファームウェアをバージョンアップする無線アクセスポイント、IPコードレス電話機を選択する

5

「ファイル参照」をクリックして、ファームウェアをバージョンアップするファイルを選択する

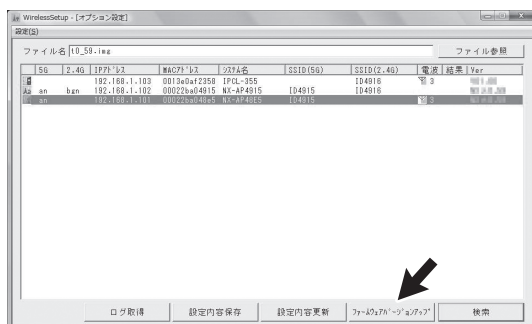
無線アクセスポイント用のファームウェアバージョンアップファイルは、拡張子*.imgを指定してください。

IPコードレス電話機用のファームウェアバージョンアップファイルは、拡張子*.ipcを指定してください。

6

「ファームウェアバージョンアップ」をクリックする

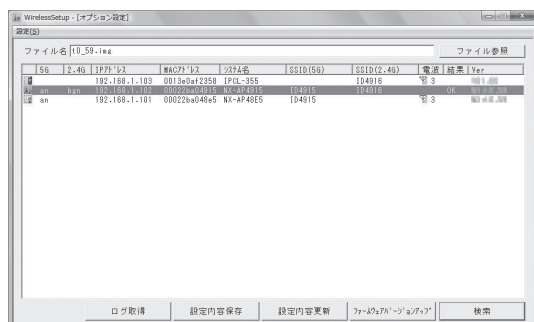
選択した無線アクセスポイント、IPコードレス電話機のファームウェアをバージョンアップします。



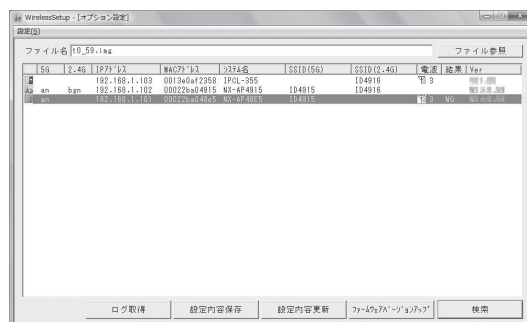
バージョンアップが完了すると、一覧画面に「OK」が表示されます。

7

すべてのバージョンアップ結果を確認する



「ファームウェアバージョンアップOK」



「ファームウェアバージョンアップNG」



ワンポイント

- ファームウェアバージョンアップの状況は、一覧画面の結果欄に表示されます。「NG」が表示されているときには、ファームウェアはバージョンアップされていません。再度実行してください。
- ファームウェアをバージョンアップする際に[ファイル参照]から選択したファイルがFTPサーバのホームディレクトリ配下でない場合は、無線アクセスポイントはプログラムファイルを取得できないため、ファームウェアのバージョンアップはできません。
- 無線アクセスポイントのバージョンアップを行う場合は、FTPのホームディレクトリにバージョンアップファイルを保存してください。
- IPコードレス電話機のバージョンアップを行う場合は、FTPのホームディレクトリにはバージョンアップファイルを保存しないでください。
- 結果表示(OK/NG)は、次の処理を実行するまで前回の結果を表示します。



お知らせ

- ファームウェアのバージョンアップを行っているときに無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）のLANケーブル、電源ケーブルを抜いたり、無線アクセスポイント（ステーションモード）の電源ケーブルを抜いたり、電波の届きにくい場所に移動したりしないでください。失敗の原因となります。
- [ファームウェアバージョンアップ]をクリック後、3分間以上画面が変わらなかった場合は、ファームウェアのバージョンアップに失敗しています。装置を再起動してください。
- バージョンアップを行ったあとの再起動には、時間がかかります。
- ファームウェアのバージョンアップに失敗した場合は、設定内容を確認してください。
- バージョンアップを行うには、FTPサーバの設定を環境設定で行います。（P119）
- 一覧表示をする場合、ネットワークや無線の状態によっては検索できない場合があります。その場合は、接続を確認するか、再度[検索]をクリックしてください。
- 無線アクセスポイントのデータ更新は、更新中に[キャンセル]をクリックすることで中止できます。結果欄に「NG」が表示されることがありますが、データ更新は正常に終了している場合があります。再度検索を行って、装置のバージョンを確認してください。

自動登録モードを起動する

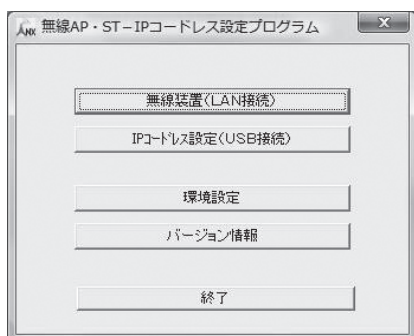
無線アクセスポイントに、自動登録モードを要求します。自動登録モードは、無線アクセスポイント（ステーションモード）を増設する場合、データ設定を行うことなく、簡単な操作で増設できます。

自動登録を行うことにより、無線アクセスポイント（ステーションモード）のSSID、セキュリティ方式、暗号キーを無線アクセスポイントと接続できるように変更できます。

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

1



2

「無線装置(LAN接続)」をクリックする

設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。

3

「設定」メニューの「自動登録」をクリックする

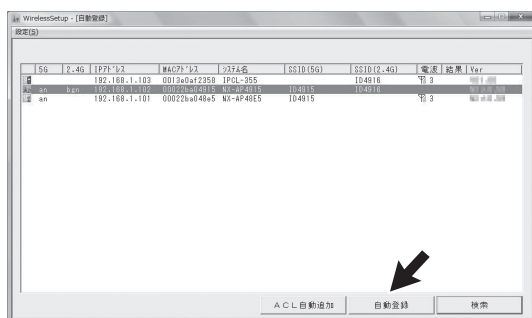
4

一覧表示から、自動登録する無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)を選択する

5

「自動登録」をクリックする

選択した無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)は、自動的に再起動し、自動登録モードになります。



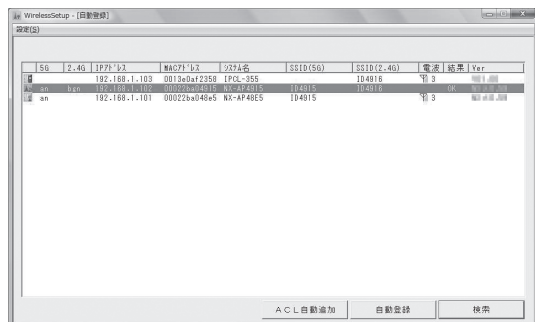
6

接続する無線アクセスポイント(ステーションモード)を、無線アクセスポイント(ステーションモード)の登録スイッチで自動登録モードにする(●P28 手順3～4)

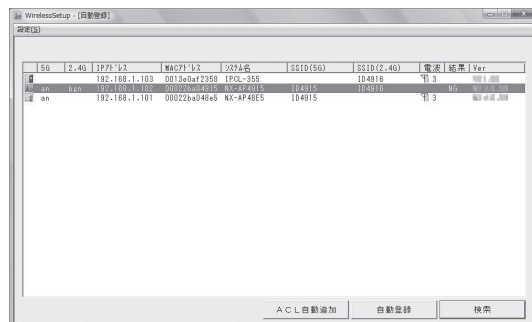
自動登録が完了すると、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)・無線アクセスポイント(ステーションモード)は再起動します。

7

自動登録の結果を確認する



「自動登録OK」



「自動登録NG」



ワンポイント

- 無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)と、IPコードレス電話機の自動登録を行ったときは、再起動に時間がかかります。
- 一覧表示から無線アクセスポイント(ステーションモード)を選択することもできます。その場合は、接続する無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)を登録スイッチで自動登録モードにして自動登録を行ってください。
- 無線状態によって失敗する場合があります。失敗した場合は、[検索]をクリックしてもう一度表示させてください。
- 結果表示(OK/NG)は、次の処理を実行するまで前回の結果を表示します。



お知らせ

- 設定ソフトウェアから自動登録モードを起動できるのは、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)、無線アクセスポイント(ステーションモード)のうち1台のみになりますので、登録したいもう一方の無線装置は、登録スイッチで自動登録モードにする必要があります。
- 自動登録モード設定中は、その無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)に接続していた無線アクセスポイント(ステーションモード)、無線LANカードとは通信ができません。
- 無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)のACLアドレステーブルが100件登録されていると「ネットワークへの接続に失敗しました」のエラーが表示されます。不要なACLアドレステーブルを削除してください。
- 一覧表示でIPアドレスが表示されていない場合は、IPアドレスを設定してからご利用ください。([IPアドレスを設定する] ▶P82)
- 自動登録に失敗した場合は、無線アクセスポイント(ステーションモード)の登録ランプが赤点灯(約10秒間)になり、その後自動的に再起動します。もう一度自動登録を行ってください。
- 自動登録モードは、最大5分間継続します。自動登録モードを解除するには、装置のリセットスイッチを押して再起動してください。
- 固定IPアドレスで使用する場合は、自動登録を行った後に増設した無線アクセスポイント(ステーションモード)のIPアドレスの設定を行ってください。
- 一覧表示をする場合、ネットワークや無線の状態によっては検索できない場合があります。その場合は、接続を確認するか、再度[検索]をクリックしてください。

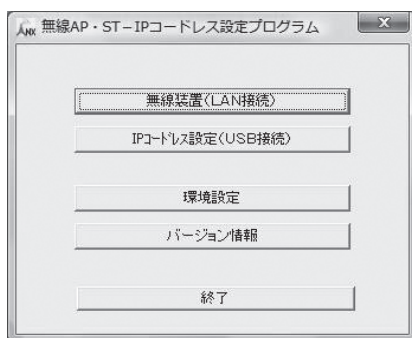
ACL自動追加

IPコードレス電話機または無線アクセスポイント(ステーションモード)のMACアドレスを、検索済みの無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)のACLテーブルへ追加登録します。

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

1



2

「無線装置(LAN接続)」をクリックする

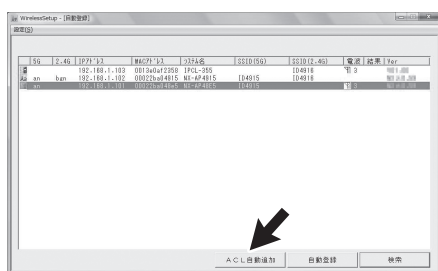
設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。

3

「設定」メニューの「自動登録」をクリックする

一覧表示から、MACアドレスをコピーしたいIPコードレス電話機または無線アクセスポイント(ステーションモード)を1台選択し、MACアドレスを登録したい複数の無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)を選択して、「ACL自動追加」をクリックする

4



- 無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)のACLテーブルには最大100件のMACアドレスを登録できます。MACアドレスを登録された無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)は、自動的に再起動します。
- 2つ目の機器を選択する場合は、Ctrlキーを押しながらクリックしてください。

5

更新結果を確認する

接続図を表示する

ネットワーク上に接続する無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)から接続情報を収集し、接続図を表示します。

1
お使いになる前に

2
事前準備

3
Webでデータ
設定を行う

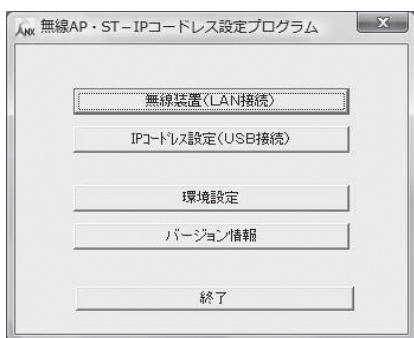
4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。



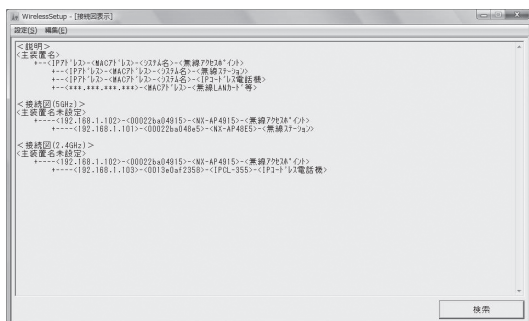
2

「無線装置(LAN接続)」をクリックする

設定ソフトウェアの各種設定画面が表示されます。

3

[設定]メニューの[接続図表示]をクリックする



無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)・無線アクセスポイント(ステーションモード)、IPコードレス電話機の接続図が表示されます。



ワンポイント

- [編集]メニューの[接続図のコピー]をクリックすることにより、接続図をクリップボードへコピーできます。
- 接続図に表示されるものは、無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)・無線アクセスポイントに接続されている無線アクセスポイント(ステーションモード)・無線LANカード、IPコードレス電話機です。

接続図を表示する

■無線アクセスポイント接続図表示例

表示内容は次のようになります。

| | |
|--|--------|
| <説明> | |
| <主装置名> | |
| +---<IPアドレス>-<MACアドレス>-<システム名>-<無線アクセスポイント> | |
| +---<IPアドレス>-<MACアドレス>-<システム名>-<無線ステーション> | |
| +---<IPアドレス>-<MACアドレス>-<システム名>-<IPコードレス電話機> | |
| +---<***.***.***.***>-<MACアドレス>-<無線LANカード等> |④ |
| <接続図(5GHz)> | |
| <主装置名未設定> | |
| +----<192.168.1.10>-<0000000000001>-<NX-AP0001>-<無線アクセスポイント> |① |
| +----<192.168.1.20>-<0000000000002>-<NX-AP0002>-<無線ステーション> |② |
| <接続図(2.4GHz)> | |
| <主装置名未設定> | |
| +----<192.168.1.10>-<0000000000001>-<NX-AP0001>-<無線アクセスポイント> |① |
| +----<192.168.1.30>-<0000000000003>-<IPCL-301>-<IPコードレス電話機> |③ |

<接続図の説明>

- ① IPアドレス[192.168.1.10]は無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)
- ② IPアドレス[192.168.1.20]は無線アクセスポイント(ステーションモード)
- ③ IPアドレス[192.168.1.30]はIPコードレス電話機
- ④ 無線LANハンディフォン、無線LANカード等



ワンポイント

- 5GHz帯、2.4GHz帯それぞれの配下の端末が表示されます。
- 無線アクセスポイント(ステーションモード)、IPコードレス電話機、無線LANカード等が1台も接続されていない場合も5GHz帯、2.4GHz帯は表示します。



お知らせ

- 装置により表示が異なります。
 - ・無線アクセスポイント、IPコードレス電話機の表示
+----<IPアドレス>-<MACアドレス>-<システム名>-<接続装置名>
 - ・無線アクセスポイント、IPコードレス電話機以外の表示
+----<IPアドレス>-<MACアドレス>-<接続装置名>
- IPアドレスの表示は、無線アクセスポイント、IPコードレス電話機以外では「***.***.***.***」と表示されます。
- システム名は無線アクセスポイント、IPコードレス電話機のみとなります。
- 無線アクセスポイントのシステム名はWeb設定で変更することができます。(「基本機能を設定する」▶P52)
- ネットワークや無線の状態によっては、無線アクセスポイント(ステーションモード)が<無線LANカード等>と表示されることがあります。
- 一覧表示をする場合、ネットワークや無線の状態によっては検索できない場合があります。その場合は、接続を確認するか、再度[検索]をクリックしてください。
- IPコードレス電話機のシステム名は、「IPCL-TEN番号」となります。
- 無線アクセスポイントのMACアドレスは5GHz帯のMACアドレスを表示します。

IPコードレス電話機の メールアドレス帳を設定する

メールアドレス帳への新規登録、編集、削除と、エクスポート・インポート（CSVファイル形式）を行います。最大500件のメールアドレスを登録できます。

1
お使いになる前に

2
事前準備

3
Webでデータ
設定を行う

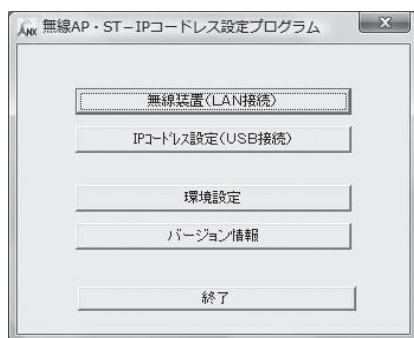
4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

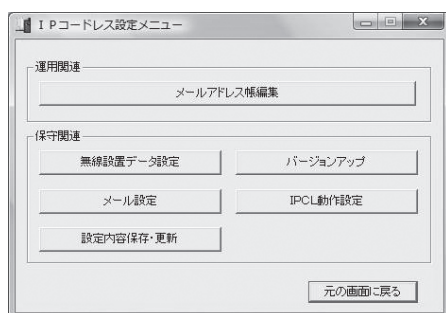
設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。



2

「IPコードレス設定(USB接続)」をクリックする

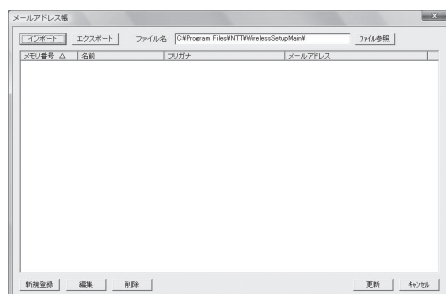
設定ソフトウェアのIPコードレス設定メニューが表示されます。



3

IPコードレス設定メニューの「メールアドレス帳編集」をクリックする

メールアドレス帳画面が表示されます。



4

各項目は、見出しをクリックすることにより、並び順を替えることができる

- ・メモリ番号
- ・名前
- ・フリガナ
- ・メールアドレス

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

5 メールアドレス帳をインポートするときは、拡張子が“txt”のCSVファイル形式のファイルを選択して、[インポート]をクリックする

6 エクスポートするときは、ファイル名を設定してから[エクスポート]をクリックする
メールアドレス帳がCSVファイル形式でエクスポートされます。

7 新しいメールアドレスを登録するときは[新規登録]をクリックする
新規登録画面が表示されます。
新規登録画面で、名前、フリガナ、メールアドレスを入力して[登録]をクリックします。

8 メールアドレス帳を編集するときは、メールアドレス帳画面で編集する項目を選択し、[編集]をクリックする

編集画面が表示されます。

データを編集してから、[登録]をクリックします。

9 メールアドレス帳を編集する

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|---------|--------------|-------------------|
| メモリ番号 | メモリ番号を表示する | 参照のみ |
| 名前 | 名前を入力する | 全角10文字 半角20文字 |
| フリガナ | フリガナを入力する | 半角20文字 |
| メールアドレス | メールアドレスを入力する | 半角英数、記号 最大64文字 |

10 メールアドレスを削除するときは、メールアドレス帳画面で削除する項目を選択し、[削除]をクリックする

11 メールアドレス帳画面で[更新]をクリックする

IPコードレス電話機に登録・編集したメールアドレス帳が送信されます。



ワンポイント

●IPコードレス電話機の文字入力について

・IPコードレス電話機のASCII文字には制限があります。

| 英字モード | | 数字モード |
|-------|-------|-------|
| 大文字半角 | 小文字半角 | 半角 |
| — | — | 1 |
| ABC | abc | 2 |
| DEF | def | 3 |
| GHI | ghi | 4 |
| JKL | jkl | 5 |
| jkl | mno | 6 |

| 英字モード | | 数字モード |
|------------------------------|-------|-------|
| 大文字半角 | 小文字半角 | 半角 |
| PQRS | pqrs | 7 |
| TUV | tuv | 8 |
| WXYZ | wxyz | 9 |
| — | — | 0 |
| — | — | * |
| — . @ _ () * # SP (スペース) | — | # |

- 名前、フリガナが入力されていないと、登録できません。
- 新規登録するときのメモリ番号は、空き番号から最小番号が設定されます。メモリ番号の変更はできません。
- メールアドレス帳画面で項目をダブルクリックすると、選択したデータの編集画面を表示させることができます。
- 設定の途中で中止するときには、[キャンセル]をクリックします。



お知らせ

- 新規登録では、同一の名前、メールアドレスがあっても登録できます。
- エクスポート／インポートファイルはCSV形式ですが、拡張子は"txt"となります。
- インポート／エクスポートファイルのフォーマットは以下の通りです。
 - 1行目：メモリ番号,名前,フリガナ,メールアドレス,電話番号
 - 2行目："000","IPCL太郎","ア化°-シ-ILlカ", "ipcl@ipcl.co.jp", ""
 - ⋮
 - n行目："499","IPCL花子","ア化°-シ-ILl カ", "ipclhanako@ipcl.co.jp", ""
- αNX IPコードレス電話機では電話番号は表示されません。X7000またはαGX IPコードレス電話機では電話番号は表示されます。
- メールアドレスをインポートする前に、次の点を確認してください。
 - ①インポートできるのは、カンマ区切りのデータのみです。
 - ②1行目はヘッダとして読み飛ばし、2行目からをデータとします。1行目のヘッダの内容はチェックされません。
 - ③最大500件のインポートが可能です。既存のデータとの合計が500件を超える場合は、確認メッセージを表示します。

「XXX件の追加になりますが、XXX件の空きしかありません。続行しますか？」

「はい」を選択すると、メールアドレスの合計が500件に達するまでインポートされます。
 - ④データ部(2行目以降、最終行以外)に空行を入れた場合は、インポートできません。
 - ⑤1行に5つ以上の項目がセットされていた場合は、4つ目のデータまでをインポートします。
 - ⑥インポートファイル中に“メモリ番号.”がある場合、既存の同じメモリ番号に上書きします。
 - ⑦インポートファイル中に不正なデータがある場合は処理を中断します。データは登録されません。全データが正常な場合のみインポートできます。
 - ⑧入力文字数の制限を越えている場合は、インポートできません。
 - ⑨文字入力で使用できる記号は— . @ _ () * # SP (スペース)です。

無線接続に関する設定を行います。
最大20件のSSIDを登録できます。

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

2

「IPコードレス設定(USB接続)」をクリックする

設定ソフトウェアのIPコードレス設定メニューが表示されます。

IPコードレス設定メニューの「無線設置データ設定」をクリックする

無線設置データ設定画面が表示されます。

3

無線設定データを設定する

●接続先無線情報

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|--------------|--------------------------|---|
| SSID種別 | SSID種別を登録する | 最大20件 |
| SSID | SSID種別で選択したSSIDを入力する | 半角英数、記号(●P105) 最大32文字 |
| 暗号化タイプ | SSID種別の暗号化タイプを選択する | 無し WEP64BIT WEP128BIT WPA-PSK WPA2-PSK WPA-1X WPA2-1X IEEE802.1X |
| 暗号キー | SSID種別の暗号キーを入力する | 0～9、a～f |
| 暗号方式 | SSID種別の暗号方式を選択する | TKIP AES |
| Pre Sharedキー | SSID種別のPre Sharedキーを入力する | 半角英数、記号(●P105) 8～63文字 |
| 認証方式 | SSID種別の認証方式を選択する | EAP-TLS PEAP MSCHAP-V2 EAP-TTLS MD5 EAP-TTLS CHAP EAP-TTLS MSCHAP-V2 |

4

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|---------------|--|------------------------------------|
| ユーザ名 | SSID 種別のユーザ名を入力する | 半角英数、記号 (●P105) 最大 64 文字 |
| パスワード | SSID 種別のパスワードを入力する | 半角英数、記号 (●P105) 最大 64 文字 |
| フェーズ 1 用 ID | SSID 種別のフェーズ 1 用 ID を入力する | 半角英数、記号 (●P105) 最大 64 文字 |
| クライアント証明書 | SSID 種別のクライアント証明書を選択する [ファイル編集]-[ファイル追加]によりクライアント 証明書ファイルを追加し選択する [ファイル削除]、[ファイル名変更]による編集もで きる | ファイルフォーマット：DER 形 式 最大 3 ファイル |
| クライアント秘密鍵 | SSID 種別のクライアント秘密鍵を選択する [ファイル編集]-[ファイル追加]によりクライアント 秘密鍵ファイルを追加し選択する [ファイル削除]、[ファイル名変更]による編集もで きる | ファイルフォーマット：DER 形 式 最大 3 ファイル |
| ルート CA 証明書 | SSID 種別のルート CA 証明書を選択する [ファイル編集]-[ファイル追加]によりルート CA 証 明書ファイルを追加し選択する [ファイル削除]、[ファイル名変更]による編集もで きる | ファイルフォーマット：DER 形 式 最大 3 ファイル |
| DHCP | SSID 種別の DHCP の ON/OFF を選択する | ON/OFF |
| IP アドレス | SSID 種別の IP アドレスを入力する | 0.0.0.0～255.255.255.255 |
| サブネットマスク | SSID 種別のサブネットマスクを入力する | 0.0.0.0～255.255.255.255 |
| デフォルト GW1 | SSID 種別のデフォルト GW1 IP アドレスを入力する | 0.0.0.0～255.255.255.255 |
| デフォルト GW2 | SSID 種別のデフォルト GW2 IP アドレスを入力する | 0.0.0.0～255.255.255.255 |
| プライマリ DNS サーバ | SSID 種別のプライマリ DNS サーバ IP アドレスを入 力する | 0.0.0.0～255.255.255.255 |
| セカンダリ DNS サーバ | SSID 種別のセカンダリ DNS サーバ IP アドレスを入 力する | 0.0.0.0～255.255.255.255 |
| 連携 AP 選択 | 無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）の 設定データを選択して、[連携 AP 選択]にファイル名、 MAC アドレス、SSID を表示し、暗号化タイプと暗号 キー、暗号方式、Pre Shared キーを取得して無線設 定されていない IP コードレス電話機に無線関連のデー タを設定する (●P109) | — |
| MAC アドレス | 選択した無線アクセスポイント（アクセスポイントモー ド）の MAC アドレスを表示する | 参照のみ |
| SSID | 選択した無線アクセスポイント（アクセスポイントモー ド）の SSID を表示する | 参照のみ |

(前ページのつづき)

●データレート設定

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|--------|-------------|------|
| データレート | データレートを選択する | — |

●スキャンチャンネル設定

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|-----------|--------------------|------|
| スキャンチャンネル | スキャンするチャンネルをチェックする | — |

●情報関連設定

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|--------|-----------------|---------------------------|
| アドレス設定 | 情報通信用アドレスを設定する | 0.0.0.0 ~ 255.255.255.255 |
| ポート設定 | 情報通信用ポート番号を設定する | 1 ~ 65535 |

●IPコードレスMACアドレス

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|--------------------|-------------------------|------|
| IPコードレス MACアドレス | IPコードレス電話機のMACアドレスを表示する | 参照のみ |

5

設定を登録するときは、[登録]をクリックする

登録を削除するときは、SSID種別を選択して、「削除」をクリックしてください。

6

[更新]をクリックする

IPコードレス電話機に登録・編集した無線設置データが送信されます。



ワンポイント

- 設定の途中で中止するときは、[キャンセル]をクリックします。

アクセスポイント設定連携

無線設置データ設定時に無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）の設定データから無線関連の情報を取得して、IPコードレス電話機の設定に反映させます。

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

2

「IPコードレス設定(USB接続)」をクリックする

設定ソフトウェアのIPコードレス設定メニューが表示されます。

3

IPコードレス設定メニューの「無線設置データ設定」をクリックする

無線設置データ設定画面が表示されます。

4

連携AP選択の「ファイル参照」をクリックする

ファイル選択ダイアログが表示されます。

5

無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)の設定データを選択する

「連携AP選択」にファイル名、MACアドレス、SSIDが表示され、暗号化タイプ、暗号キー、暗号方式、Pre Sharedキーを取得します。

6

「IPコードレス情報へコンバート」をクリックする

- ・SSID
- ・暗号化タイプ
- ・暗号キー
- ・暗号方式
- ・Pre Sharedキー

7

無線設置データ設定画面で「更新」をクリックする

無線設定されていないIPコードレス電話機に無線関連のデータを設定します。



お知らせ

- あらかじめ無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）の設定データが作成されていない場合には、この機能は使用できません。

IPコードレス電話機の詳細動作設定を設定する

マナーモード、ロックナンバーなどのIPコードレス電話機単独の動作を設定します。

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

2

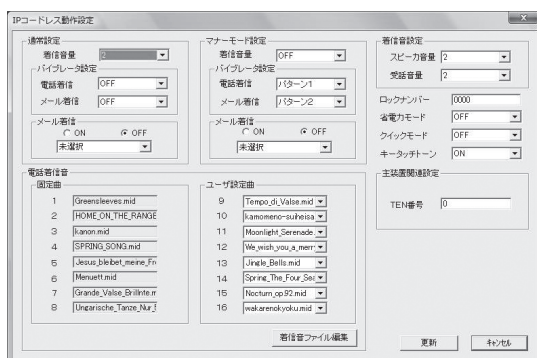
「IPコードレス設定(USB接続)」をクリックする

設定ソフトウェアのIPコードレス設定メニューが表示されます。

3

IPコードレス設定メニューの「IPCL動作設定」をクリックする

IPコードレス動作設定画面が表示されます。



IPコードレス電話機の動作を設定する

●通常設定

| 設定項目 | | 設定内容 |
|----------|--------|----------------------------|
| 着信音量 | | 電話着信時の音量を選択する |
| バイブレータ設定 | 電話着信 | 電話着信時のバイブレータの動作を選択する |
| | メール着信 | メール着信時のバイブレータの動作を選択する |
| メール着信 | ON/OFF | メール着信時に着信メロディを鳴らすかどうかを指定する |
| | 着信メロディ | メール着信がONのときの着信メロディを選択する |

●マナーモード設定

| 設定項目 | | 設定内容 |
|----------|--------|----------------------------|
| 着信音量 | | 電話着信時の音量を選択する |
| バイブレータ設定 | 電話着信 | 電話着信時のバイブレータの動作を選択する |
| | メール着信 | メール着信時のバイブレータの動作を選択する |
| メール着信 | ON/OFF | メール着信時に着信メロディを鳴らすかどうかを指定する |
| | 着信メロディ | メール着信がONのときの着信メロディを選択する |

●電話着信音

| 設定項目 | 設定内容 |
|-----------|---|
| 固定曲 | 参照のみ |
| ユーザー設定曲 | ユーザー設定の着信メロディを選択する ※着信メロディは着信音ファイル編集により追加・削除する |
| 着信音ファイル編集 | 着信メロディファイル編集画面を表示する(●P112) |

4

●着信音設定

| 設定項目 | 設定内容 |
|--------|--------------|
| スピーカ音量 | スピーカの音量を選択する |
| 受話音量 | 受話音量を選択する |

●ロックナンバー設定

| 設定項目 | 設定内容 |
|---------|--------------|
| ロックナンバー | ロックナンバーを入力する |

●省電力モード設定

| 設定項目 | 設定内容 |
|--------|-------------|
| 省電力モード | 省電力モードを選択する |

●クイックモード設定

| 設定項目 | 設定内容 |
|---------|--------------|
| クイックモード | クイックモードを選択する |

●キータッチトーン設定

| 設定項目 | 設定内容 |
|----------|---------------|
| キータッチトーン | キータッチトーンを選択する |

●主装置関連設定

| 設定項目 | 設定内容 |
|-------|------------|
| TEN番号 | TEN番号を入力する |

5

[更新]をクリックする

IPコードレス電話機に編集した動作設定データが送信されます。



ワンポイント

- 設定の途中で中止するときは、[キャンセル]をクリックします。



お知らせ

- 着信音メロディファイルを削除した場合は、元に戻すことはできません。設定ソフトウェアで設定してください。

着信メロディ設定

着信設定時にIPコードレス電話機で使用する着信メロディファイルを設定、削除できます。また、ファイル名の変更もできます。

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

2

「IPコードレス設定(USB接続)」をクリックする

設定ソフトウェアのIPコードレス設定メニューが表示されます。

3

IPコードレス設定メニューの「IPCL動作設定」をクリックする

IPコードレス動作設定画面が表示されます。

4

「着信音ファイル編集」をクリックする

着信メロディファイル編集画面が表示されます。



5

着信メロディファイルを削除するときは、削除するファイルを選択して「ファイル削除」をクリックする

6

着信メロディファイルを追加するときは、「ファイル追加」をクリックして、追加するファイルを選択する

着信メロディのサンプルは全23曲あります。

設定ソフトウェアインストール先の¥NTT ¥WirelessSetupMain ¥WirelessSetupNX ¥Melody_Sampleを参照してください。

7

着信メロディファイルの名称を編集するときは、編集する着信メロディファイルを選択し、「ファイル名変更」をクリックする

ファイル名変更ダイアログが表示されます。

ファイル名を編集してから、「決定」をクリックします。

8

IPコードレス動作設定画面で[更新]をクリックする



ワンポイント

- 設定したファイル名がIPコードレス電話機の設定画面に表示されます。
- ファイル名は半角英数記号です。
使用できる半角英数記号は「a～z、A～Z、0～9、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）、@、#」です。
ファイル名は最大64文字（拡張子含む）までです。



お知らせ

- 設定できる着信メロディファイルの仕様は、以下の通りです。詳しくは、着信メロディー一覧（P122）を参照してください。
 - ・種別：スタンダードMIDIファイルFormat0（拡張子は*.mid）
 - ・サイズ：30Kbyte以下
 - ・ファイル数：最大8個
- 使用できないファイルが選択された場合は、次のように動作します。

| 設定項目 | 設定内容 |
|--|-----------------------------|
| 固定曲と同じ名前のファイルを選択した場合 | エラーを表示します。 ファイルは追加できません。 |
| ファイルサイズが30Kbyteより大きい場合 | エラーを表示します。 ファイルは追加できません |
| スタンダードMIDIファイル Format1、Format2の ファイルを追加した | ファイルは追加されますが、再生されません。 |
| ユーザー設定曲と同じ名前のファイルを選択した場合 | エラーを表示します。 ファイルは追加できません。 |

メール送受信に関連する設定を行います。

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

2

「IPコードレス設定(USB接続)」をクリックする

設定ソフトウェアのIPコードレス設定メニューが表示されます。

IPコードレス設定メニューの「メール設定」をクリックする

メール設定画面が表示されます。

3

メールの設定をする

●ユーザ情報

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|-----------|------------------------|--------------------------------|
| 名前 | メールの差出人として表示される名称を入力する | 全角32文字、半角64文字 |
| メールアドレス | メールアドレスを入力する | 半角英数、記号(●P105) 最大64文字 |
| 返信メールアドレス | 返信メールアドレスを入力する | 無効 半角英数、記号(●P105) 最大64文字 |

4

●サーバ情報

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|-----------------|--------------------|--------------------------|
| 受信メール(POP) | 受信メールサーバのアドレスを入力する | 半角英数、記号(●P105) 最大64文字 |
| 送信メール(SMTP) | 送信メールサーバのアドレスを入力する | 半角英数、記号(●P105) 最大64文字 |
| POP before SMTP | 受信後に送信も行うかどうかを選択する | — |

●サーバのポート番号

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|-------------|---------------------|-----------|
| 受信メール(POP) | 受信メールサーバのポート番号を入力する | 1 ~ 65535 |
| 送信メール(SMTP) | 送信メールサーバのポート番号を入力する | 1 ~ 65535 |

4

●受信メールサーバ

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|--------|--|--------------------------|
| アカウント名 | 受信メールサーバのアカウント名を入力する | 半角英数、記号(●P105) 最大64文字 |
| パスワード | 受信メールサーバのパスワードを入力する 入力した文字は「*」で表示する | 半角英数、記号(●P105) 最大40文字 |

●受信メールの保存設定

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|------------------|-------------------------|------|
| 受信メールのコピーをサーバに保存 | 受信メールをサーバに保存するかどうかを選択する | — |

●署名

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|------|----------------------|------------------|
| 署名追加 | メールに署名を追加するかどうかを選択する | — |
| 内容 | 署名の内容を入力する | 全角30文字 半角60文字 |

●引用文の設定

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|-------|---------------------------------|------|
| 引用文挿入 | 返信するメールに、元のメールの本文を引用するかどうかを選択する | — |

●新着メッセージのチェック間隔

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|----------------------|---------------------------|------------------|
| 新着メッセージ チェック間隔(分) | 新着メッセージのチェック間隔の時間(分)を入力する | 0～60 (0：チェックしない) |

5

[更新]をクリックする

IPコードレス電話機に編集したメール設定データが送信されます。



ワンポイント

- 設定の途中で中止するときは、[キャンセル]をクリックします。
- メールをご利用になる場合は、ユーザ情報、サーバ情報、サーバのポート番号、受信サーバの設定は必ず行ってください。
- 間違えて設定された場合は、メールの送受信ができません。
- 設定については、接続する主装置に対応したIPコードレス電話機の取扱説明書をご覧ください。



お知らせ

- 署名の内容で、改行を入力する場合は、改行は全角1文字扱いとなります。
- 設定ソフトウェアからは、送信メールと受信メールを削除することはできません。

IPコードレス電話機の設定内容の 保存・反映を行う

IPコードレス電話機の設定データをパソコンに保存します。また保存しておいた設定データで、IPコードレス電話機の設定を更新できます

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

2

「IPコードレス設定(USB接続)」をクリックする

設定ソフトウェアのIPコードレス設定メニューが表示されます。

3

IPコードレス設定メニューの「設定内容保存・更新」をクリックする

設定内容保存・更新画面が表示されます。



4

設定内容をパソコンに保存するときは、「設定内容保存」をクリックする

IPコードレス電話機から、設定データを受信します。

5

設定内容を更新するときは、[フォルダ参照] をクリックして更新フォルダを選択し、[設定内容更新] をクリックする



ワンポイント

- 一括保存で作成されるファイルは、次の通りです。

*000000000000はIPコードレス電話機のMACアドレス

フォルダ名は、(設定ソフトウェアのインストールフォルダ) ¥IPCL000000000000 ¥ で

| | | |
|------------------------------------|---|-------------------|
| ・ dat_tel_000000000000.ini | : | メールアドレス帳データファイル |
| ・ dat_mail_000000000000.ini | : | メール設定データファイル |
| ・ dat_wireless_000000000000.ini | : | 無線設置データファイル |
| ・ dat_ipcl_000000000000.ini | : | IPCL動作設定データファイル |
| ・ dat_sys_000000000000.ini | : | ネットワーク関連設定データファイル |
| ・ dat_wlan_config_000000000000.ini | : | セキュリティ設定データファイル |

一括更新の際、以下のデータは現在のIPコードレス電話機の設定データのままとなります。

<メール設定データ>

- ・ ユーザ名
- ・ 電子メールアドレス
 - ・ 返信メールアドレス
 - ・ 受信メールサーバ・アカウント名
 - ・ 受信メールサーバ・パスワード
- ・ 署名の挿入の有無
- ・ 署名内容
- ・ 引用文の有無

<無線設置データ>

- ・ SSID種別20個に付随するデータ



お知らせ

- 設定ソフトウェア以外で変更した保存ファイルを使用して一括更新を行なった場合、IPコードレス電話機の動作は保証できません。

IPコードレス電話機のバージョンアップ を行う

USB接続によりファームウェアをダウンロードしてバージョンアップを行います。

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

2

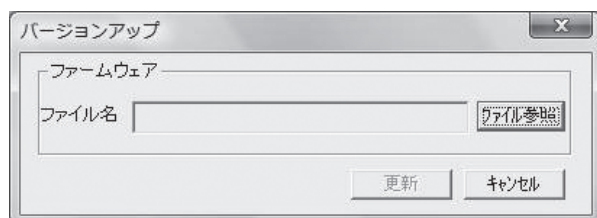
「IPコードレス設定(USB接続)」をクリックする

設定ソフトウェアのIPコードレス設定メニューが表示されます。

3

IPコードレス設定メニューの「バージョンアップ」をクリックする

バージョンアップ画面が表示されます。



4

「ファイル参照」をクリックして、バージョンアッププログラムを選択する

プログラムファイルの拡張子は、「nxipcl*.ipc」です。

5

バージョンアッププログラムのファイル名が表示されたら、「更新」をクリックする

IPコードレス電話機に、バージョンアッププログラムファイルを送信します。

6

「プログラムの更新に成功しました」と表示されたら、「OK」をクリックする

設定ソフトウェアを終了させてください。設定ソフトウェア終了後、IPコードレス電話機は自動的に再起動します。



ワンポイント

- 設定の途中で中止するときは、「キャンセル」をクリックします。
- IPコードレス電話機のファームウェアバージョンアップでは、プログラムファイルの拡張子「nxipcl*.ipc」についてはチェックしますが、その内容についてはチェックできません。「更新」をクリックする前に、選択したプログラムファイルでバージョンアップしてよいかどうかを確認してください。
- バージョンアップを行った場合は、IPコードレス電話機の再起動に時間がかかります。

設定ソフトウェアの環境設定を行う

設定ソフトウェアの動作環境を設定します。

1
お使いになる前に

2
事前準備

3
Webでデータ
設定を行う

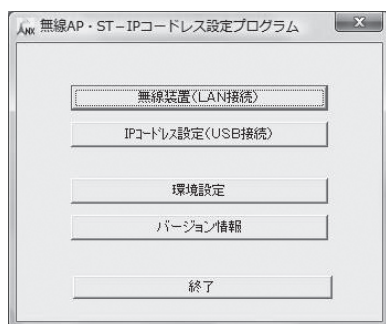
4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

1

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。



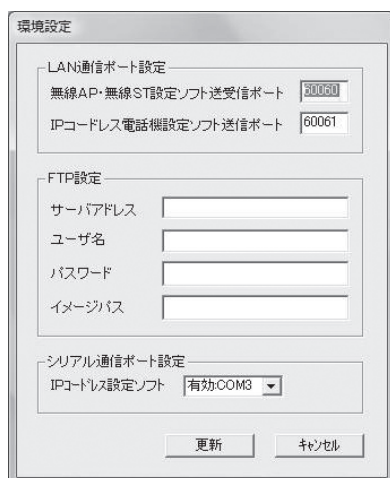
2

「環境設定」をクリックする

設定ソフトウェアの環境設定画面が表示されます。

3

動作環境を入力する



環境設定画面では、以下のような設定ができます。

●LAN通信ポート設定

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|--------------------------|--------------------------------------|-----------|
| 無線AP・無線ST 設定ソフト送受信ポート | 無線装置とのLAN通信に使用するポート番号を入力する | 1 ～ 65535 |
| IPコードレス電話機 設定ソフト送信ポート | IPコードレス電話機とのLAN通信に使用するポート番号 を入力する | 1 ～ 65535 |

(次ページへつづく)

設定ソフトウェアの環境設定を行う

(前ページのつづき)

3

●FTP設定

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|---------|---|---------------------------|
| サーバアドレス | ファームウェアバージョンアップで使用するFTPサーバのアドレスを入力する | 0.0.0.0 ~ 255.255.255.255 |
| ユーザ名 | ファームウェアバージョンアップで使用するFTPサーバのログインユーザ名を入力する | ASCII文字、最大32文字まで |
| パスワード | ファームウェアバージョンアップで使用するFTPサーバのログインパスワードを入力する | ASCII文字、最大32文字まで |
| イメージパス | ファームウェアバージョンアップで使用するファイルを配置しているパスを入力する | ASCII文字、最大64文字まで |

●シリアル通信ポート設定

| 設定項目 | 設定内容 | 入力条件 |
|--------------|----------------------------------|------|
| IPコードレス設定ソフト | IPコードレス電話機とのUSB通信に使用するポート番号を選択する | — |

4

[更新]をクリックする



ワンポイント

- 設定の途中で中止するときは、[キャンセル]をクリックします。
- シリアル通信ポートは、Com1 ~ Com9までです。
- シリアル通信ポートは、[スタートメニュー]→[コントロールパネル]→[システムとメンテナンス]→[デバイスマネージャー]→[ポート(COMとLPT)]で確認できます。

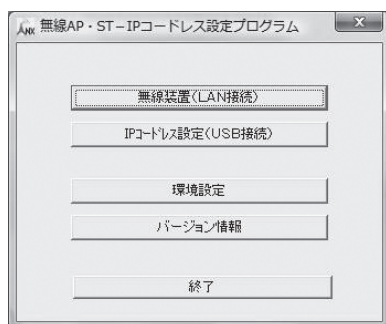


お知らせ

- LAN通信でファームウェアのバージョンアップを行う場合は、FTPサーバの情報を設定してください。
- ユーザ名、パスワード、イメージパスには、スペースを入力できません。
- ポート番号を変更すると、通信ができなくなることがあります。通常は変更しないでください。

スタートメニューのプログラム内の「WirelessSetupMain」をクリックし、システム
選択画面から「αNX設定」をクリックする

設定ソフトウェアのメインメニューが表示されます。



「バージョン情報」をクリックする

設定プログラムのバージョン情報が表示されます。



■ファイル名と曲名の対比について

固定曲

| | |
|--------------------------------|---------------|
| Greensleeves.mid | グリーンスリーブス |
| HOME_ON_THE_RANGE.mid | 峠の我が家 |
| kanon.mid | カノン |
| SPRING_SONG.mid | 春の歌(メンデルスゾーン) |
| Jesus_bleibet_meine_Freude.mid | 主よ人の喜びよ |
| Menuett.mid | メヌエット |
| Grande_Valse_BrillInte.mid | 華麗なる大円舞曲 |
| Ungarische_Tanze_Nur_5.mid | ハンガリア舞曲第5番 |

ユーザー設定曲

| | | |
|-----|---------------------------------|--------------------------|
| 春 | dokokade-haruga.mid | どこかで春が |
| | hana.mid | 花(滝廉太郎) |
| | Spring_The_Four_Seasons.mid | 四季より-春(ビバルディ) |
| | Tempo_di_Valse.mid | 花のワルツ(チャイコフスキー) |
| 夏 | BEAUTIFUL_DREAMER.mid | 夢路より(フォスター) |
| | kamomeno-suiheisan.mid | かもめの水兵さん |
| | Morgenstimmung.mid | ペールギュントより朝(グリーグ) |
| | Santa_Lucia.mid | サンタルチア(イタリア) |
| | wareha-uminoko.mid | 我は海の子 |
| 秋 | Dreaming_of_home_and_mother.mid | 旅愁(オードウェイ) |
| | Moonlight_Serenade.mid | ムーンライトセレナーデ |
| | muramaturi.mid | 村まつり |
| | mushino-koe.mid | むしのこえ |
| | syozozino-tanukibayashi.mid | 証城寺の狸ばやし |
| 冬 | Jingle_Bells.mid | ジングルベル |
| | pechka.mid | ペチカ |
| | silent_Night.mid | 聖夜-きよしこの夜(クルーパー) |
| | We_wish_you_a_merry_Xmas.mid | We wish you a merry Xmas |
| | Winter_The_Four_Seasons.mid | 四季より-冬(ビバルディ) |
| | yuki.mid | ゆき |
| その他 | Jupiter.mid | 木星 |
| | Nocturn_op.9-2.mid | 夜想曲集-変ホ長調 |
| | wakareno-kyoku.mid | ホ長調-別れの曲 |

設定ソフトウェアで通信などに障害が発生した場合には、以下のエラーコードが表示されます。

| エラーコード | エラー内容 | 対処方法 | 参照ページ |
|--------|-------------------|---|-----------|
| 1 | 設定ソフトウェアの動作不良 | ●IPコードレス電話機との接続でエラーが発生しています。設定ソフトウェアを再起動してください。 | — |
| 2 | IPコードレス電話機のエラー | ●IPコードレス電話機が使用中です。IPコードレス電話機を待ち受け画面にしてください。 ●設定ソフトウェアの環境設定を確認してください。 ●IPコードレス電話機が自動バージョンアップを行っている場合、接続できません。しばらくしてから、設定ソフトウェアを実行してください。 | ●P119 |
| 0xff00 | IPCL未接続エラー | ●IPコードレス電話機との接続に失敗しています。設定ソフトウェアを再起動してください。 | — |
| 0xff01 | 設定ソフトウェアが他の処理を実行中 | ●2重起動している恐れがあります。PCを再起動してください。 | — |
| 0xff02 | レスポンスタイムアウト | ●IPコードレス電話機が応答しません。接続を確認の上、設定ソフトウェアとIPコードレス電話機を再起動してください。 | — |
| 0xff03 | 送信エラー | ●データの送信に失敗しました。接続を確認の上、設定ソフトウェアとIPコードレス電話機を再起動してください。 | — |
| 0xff04 | IPコードレス電話機通信エラー | ●IPコードレス電話機が応答しません。接続を確認の上、設定ソフトウェアとIPコードレス電話機を再起動してください。 | — |
| 0xff05 | 処理中止 | ●処理中に設定ソフトウェアが終了されました。継続して使用する場合は、再起動してから使用してください。 | — |
| 0xff06 | 不正データあり | ●IPコードレス電話機のメールアドレス帳データが壊れている可能性があります。IPコードレス電話機のメールアドレス帳データを確認してください。 データが表示できない場合は、初期化する必要があります。 | ●P103 |
| 0xff07 | FTP通信エラー | ●無線環境を確認してください。 ●FTPサーバの設定を確認してください。 ●設定ソフトウェアの環境設定でFTP設定を確認してください。 | ●P119 |
| 0xff08 | ZMODEM通信エラー | ●ファイルの送受信に失敗しました。ファイルが壊れているか、USB通信の動作が不安定になっています。指定したファームウェアファイル、着信メロディファイルを確認してください。また、ファイルを指定していない場合は、設定ソフトウェアとIPコードレス電話機を再起動後再度実行してください。 | ●P112、118 |
| 0xff09 | ケーブル切断中 | ●USBケーブルが外れている可能性があります。接続を確認してください。 ●USBケーブルが断線している可能性があります。新しいケーブルに変更してください。 | — |
| 0xff0a | ポートオープン・初期化失敗 | ●IPコードレス電話機と接続されていません。接続を確認してください。また、他の装置でCOMポートを使用していないかご確認ください。 | — |

故障かな？と思ったら

故障かなと思ったら、修理を依頼される前に次の点をご確認ください。

■ ランプが点灯しない

| こんなときは | | 確認してください | 参照ページ |
|------------------------------------|---|---|------------|
| POWERランプが点灯しない | 電源アダプタをお使いの場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●電源ケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 ●接続されている場合は、OAタップなどに電源が供給されているか、ほかの電気製品などで確認してください。 | — |
| | 給電HUBに接続している場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●給電HUBに電源が供給されていることを確認してください。 ●給電HUBの設定が正しいことを確認してください。 ●LANケーブルの接続を確認してください。 | ●P20、22 |
| POWERランプが一定間隔でついたり消えたりする | 機器が正常に動作していません | <ul style="list-style-type: none"> ●設定データを初期化して、再度電源を入れてください。 | ●P18 |
| LANランプが点灯しない | 無線アクセスポイントのLANポートをネットワークに接続している場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●LANケーブルがきちんとLANポートに接続されていることを確認してください。 ●LANケーブルが、ネットワークに接続されている機器（HUB、ルータなど）に接続されていることを確認してください。 ●ネットワークに接続されている機器などが正常に動作していることを確認してください。 | ●P20、22 |
| | 無線アクセスポイントとパソコンを接続している場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●パソコンのネットワークインタフェースが動作していることを確認してください。 | ●P42 |
| | 無線アクセスポイント（ステーションモード）とIP多機能電話機を接続している場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●IP多機能電話機にLANケーブルが接続されていることを確認してください。 ●IP多機能電話機の電源が入っていることを確認してください。 | — |
| | 無線アクセスポイントを給電HUBに接続している場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●給電HUBにLANケーブルが接続されていることを確認してください。 ●給電HUBの電源が入っていることを確認してください。 | ●P20、22 |
| WLANランプ（11a/nランプ、11b/g/nランプ）が点滅しない | — | <ul style="list-style-type: none"> ●電源投入後、約40秒間はWLANランプは点灯しません。しばらくお待ちください。 ●無線機能の設定が「無効」の場合消灯します。設定を確認してください。 | ●P54 |
| 登録ランプが点灯している | 自動登録に失敗しました | <ul style="list-style-type: none"> ●しばらくお待ちください。自動的に再起動します。 | ●P29 |
| 登録ランプが点滅している | 自動登録またはWPS登録モードになっています | <ul style="list-style-type: none"> ●登録スイッチを確認してください。 ●リセットスイッチを押してください。登録モードを解除します。 | ●P18 |
| INFOランプが点灯しない | 無線アクセスポイント（ステーションモード）の場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●ステーションモードに設定されているかを確認してください。 ●設定内容を確認してください。 | ●P52 |
| INFOランプが赤点灯している | 無線アクセスポイント（ステーションモード）の場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●無線アクセスポイントと接続できていません。設定内容を確認してください。 | ●P52、54、57 |

■ Webブラウザが見えない

| こんなときは | | 確認してください | 参照ページ |
|---------------------|---|--|------------|
| LANケーブルをつないでも接続できない | — | <ul style="list-style-type: none">●ネットワークとの接続を確認してください。IPアドレス、サブネットマスクが正常に設定されていない場合、パソコンと接続できません。●LANランプが点滅していることを確認してください。●パソコン側のネットワークの設定を確認してください。 | ☛P17、42、44 |
| ネットワークを介して接続している場合 | — | <ul style="list-style-type: none">●ネットワークとの接続を確認してください。IPアドレス、サブネットマスクが正常に設定されていない場合、パソコンと接続できません。●LANランプが点滅していることを確認してください。●パソコン側のネットワークの設定を確認してください。 | ☛P17、44、82 |

故障かな？と思ったら

■ データ・音声通信ができない

| こんなときは | | 確認してください | 参照ページ |
|------------------------|--------------------------------------|--|------------|
| 音声・データがまったく通信できない | — | <ul style="list-style-type: none"> ●無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）と接続できていることを確認してください。また、対向する機器でWLANランプが点滅していることを確認してください。 ●無線アクセスポイント（ステーションモード）を無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）のLANポートに接続していないことを確認してください。 ●無線アクセスポイント（ステーションモード）に接続されているIP端末、無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）に接続されている無線LANカードなどからデータ通信、音声通話を確認してください。 ●IP端末、パソコンなどを有線で接続し、通信ができるかどうかを確認してください。 ●無線アクセスポイントの設置場所を確認してください。電波を遮断するものがないか確認してください。 ●電波状況を確認してください。 | ●P17、20、22 |
| IP多機能電話機で通話中に音声途切れる | — | <ul style="list-style-type: none"> ●電波状況を確認してください。IP多機能電話機と接続されていると、IP多機能電話機のディスプレイにアンテナマークが表示されます。 ●無線アクセスポイントの設置場所を確認してください。電波を遮断するものがないか確認してください。 | ●P40 |
| | 無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）が複数台設置されている場合 | ●同一のチャンネルが選択されることがありますので、各無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）のチャンネル周波数が同じにならないよう、個別に設定してください。 | ●P54 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ●無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）の接続は、IEEE802.11a/nまたはIEEE802.11bの場合は最大4台まで可能です。IEEE802.11g/nの場合は最大3台まで可能です。 ●複数の無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）を設置している場合は、無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）間の距離を空けてください。 | ●P21 |
| 無線LANハンディホンで通信中に音声途切れる | — | <ul style="list-style-type: none"> ●音声通信とデータ通信を同時に行わないでください。 ●他の無線LANカードなどの使用により現象が発生します。同時使用は避けてください。 | — |
| 通信速度が遅い | — | <ul style="list-style-type: none"> ●無線設定を確認してください。無線機能をIEEE802.11bのみに設定していると、無線LANの通信速度は遅くなります。 ●複数の無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）を設置している場合は、無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）間の距離を空けてください。 ●無線アクセスポイントの設置場所を確認してください。電波を遮断するものがないか確認してください。 | ●P54 |
| | 通信速度が非常に遅い | <ul style="list-style-type: none"> ●電波状況を確認してください。 ●1台の無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）に多数の無線アクセスポイント（ステーションモード）や無線LANカードを接続していないか確認してください。 ●無線アクセスポイントの設置場所を確認してください。電波を遮断するものがないか確認してください。 | — |
| | 無線LANハンディホン使用の場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●音声通信とデータ通信を同時に行わないでください。 ●他の無線LANカードなどの使用により現象が発生します。同時使用は避けてください。 | — |

■ 設定ソフトウェアで設定ができない

| こんなときは | | 確認してください | 参照ページ |
|--------------------|----------------------|--|-------|
| 設定画面が起動しない | IPコードレス設定が起動しない | <ul style="list-style-type: none"> ●IPコードレス電話機が使用中には設定できません。IPコードレス電話機が待ち受け画面のときに操作してください。 ●パソコンと通信できていません。設定ソフトウェアの環境設定でシリアル通信ポート設定を確認してください。 ●無線装置（LAN接続）でIPコードレス電話機を設定する場合はFTPサーバが必須です。FTPサーバが起動しているか確認してください。 | ☛P119 |
| | メールアドレス帳の編集画面が表示されない | | ☛P103 |
| | 無線設置データ設定画面が表示されない | | ☛P106 |
| | メール設定が表示されない | | ☛P114 |
| | 設定内容保存・更新ができない | <ul style="list-style-type: none"> ●無線装置（LAN接続）でIPコードレス電話機を設定する場合はFTPサーバが必須です。FTPサーバが起動しているか確認してください。 ●環境設定のFTP設定を確認してください。 | ☛P116 |
| | バージョンアップができない | | ☛P118 |
| | IPCL動作設定画面が表示されない | | ☛P110 |
| 設定できない | — | <ul style="list-style-type: none"> ●設定できる項目ごとに入力制限があります。 ●無線装置（LAN接続）でIPコードレス電話機を設定する場合はFTPサーバが必須です。FTPサーバが起動しているか確認してください。 | — |
| 無線装置（LAN接続）で検索できない | — | <ul style="list-style-type: none"> ●設定ソフトウェアをインストールしたパソコンで、Windows、ウイルスチェック、セキュリティソフトなどのファイアウォール機能を利用している場合は、警告メッセージが表示される場合があります。ご使用のアプリケーションの取扱説明書を確認し、ブロック解除の設定を行ってください。 | — |

■ その他

| こんなときは | | 確認してください | 参照ページ |
|-------------------------------------|---|--|---------------------------------------|
| IP多機能電話機に電波強度レベルが表示されない | — | <ul style="list-style-type: none"> ●設定を確認してください。 ●IP多機能電話機との接続を確認してください。 | ☛P40、62 |
| 設定ソフトウェアで検索できない | — | <ul style="list-style-type: none"> ●設定を確認してください。ポート番号が違っていると通信できません。 ●ネットワークカードを複数使用している場合は検索できないことがあります。 ●パソコンにファイアウォール機能やウイルスチェックソフトが動作している場合、検索できないことがあります。 | ☛P62、119 |
| 設定ソフトウェアが正常に動作しない | — | ●設定ソフトウェアを起動しているパソコンのIPアドレス、サブネットマスクを確認してください。ネットワークアドレスが無線アクセスポイントと同一でなければ正常に動作しません。 | ☛P83 |
| 設定ソフトウェアの一覧表示が消えるときがある | — | ●設定ソフトウェアの動作中は一覧表示が消える場合があります。設定ソフトウェアの動作が終了したときに、再表示を行ってください。 | — |
| 主装置の管理者画面からデータ設定画面を起動できない | — | <ul style="list-style-type: none"> ●設定を確認してください。 ●主装置がRACSIAであるか確認してください。 ●主装置との接続を確認してください。 | ☛P39、62 |
| 無線LANカードが接続できない | — | <ul style="list-style-type: none"> ●SSID、セキュリティ方式、暗号キー、ACL、SSID隠蔽の設定を確認してください。 ●接続しようとしている機器の無線規格を確認してください。接続できるのはIEEE802.11a/b/g/n規格の無線機器です。 ●無線機能の設定で、各無線帯が有効になっているかを確認してください。 | ☛P54、57、59 ☛P54 |
| 無線アクセスポイント（ステーションモード）を移動すると利用できない | — | ●SSID、セキュリティ方式、暗号キー、ACLの設定を確認してください。 | ☛P54、57、59 |
| 自動登録できない | — | <ul style="list-style-type: none"> ●無線アクセスポイント（ステーションモード）を自動登録できない場合は、ステーションモードに設定されているかINFOランプ／データ設定にて確認してください。 ●無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）・無線アクセスポイント（ステーションモード）を近づけて行ってください。 ●自動登録は、1台の無線アクセスポイント（アクセスポイントモード）と1台の無線アクセスポイント（ステーションモード）で行ってください。 ●ACLアドレステーブルを100件登録しているときは登録できません。不要なACLテーブルを削除してください。 ●無線アクセスポイント（ステーションモード）のLANポートは未接続の状態では自動登録を行ってください。 無線アクセスポイント（ステーションモード）を給電HUBに接続して使用する場合は、給電HUBには無線アクセスポイント（ステーションモード）以外接続しないで自動登録を行ってください。 ●セキュリティ方式・無線機能のデータ設定を確認してください。 | ☛P17、52 ☛P27、36 ☛P61 ☛P54、57 |
| 無線アクセスポイント（ステーションモード）を自動登録しても通信できない | — | ●無線アクセスポイント（ステーションモード）を初期化後、動作モードを「STA（5GHz）モード」に変更し、再度自動登録を行ってください。 | ☛P18、26 |
| IPアドレスを忘れてしまった | — | ●設定ソフトウェアから検索できます。RACSIAの設定画面から探すこともできます。 | ☛P82 |
| WPSが実行できない | — | ●セキュリティ方式、無線機能、ACLの設定を確認してください。 | ☛P54、57、59 |

アルファベット

- ACL制御**…………… Access Control Listの略。アクセスコントロールリストに登録を許可する無線アクセスポイント(ステーションモード)等の無線MACアドレスを登録することにより、不要なステーションが登録できないようにする機能です。
- AES**…………… Advanced Encryption Standardの略。米国商務省標準技術局(NIST)によって選定作業が行われている、米国政府の次世代標準暗号化方式です。
- FTP**…………… File Transfer Protocolの略です。インターネットやイントラネットなどのTCP/IPネットワークでファイルを転送するときに使われるプロトコルのことです。
- FTPサーバ**…………… コンピュータネットワークにおいて、クライアントコンピュータに対し、自身の持っているFTP機能を提供するコンピュータのことです。
- IEEE802.11a**…………… 5GHz帯を使用し、最大54Mbpsで無線通信ができる無線LAN規格です。
- IEEE802.11b**…………… 2.4GHz帯を使用し、最大11Mbpsで通信ができる、互換性の高い無線LAN規格です。
- IEEE802.11g**…………… 2.4GHz帯を使用し、最大54Mbpsで通信ができ、IEEE802.11bと互換性のある無線LAN規格です。
- IEEE802.11n**…………… 2.4GHz帯と5GHz帯を使用し、最大600Mbps(実効速度100Mbps以上)を目標に策定中の無線LAN規格です。本装置では最大300Mbpsまで通信できます。
- IPアドレス**…………… インターネットやイントラネットなどのIPネットワークに接続されたコンピュータ1台1台に割り振られた識別番号のことです。
- MACアドレス**…………… MACアドレスは、イーサネット接続時に使用される物理的なアドレスで、データ通信時に送信先/送信元アドレスで使用されるものです。MACアドレスとイーサネットアドレスは同義語です。
MACアドレスは6バイトからなり、各LAN端末ごとに個別の値が割り当てられます。(MACアドレスは、LANのインタフェースに世界で1つ割り当てられる番号です。また、変更も不可能です。)
- QoS**…………… QoS(Quality of Serviceの略。サービス品質)制御を行う技術としてWMMに対応しました。どのような状況でも優先度の高いフレームを先に送信・処理することができます。
- SSID**…………… Service Set Identifierの略。無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)と無線アクセスポイント(ステーションモード)が認証を行うためにやりとりを行うIDです。
- SSID隠蔽**…………… Beacon上にSSIDを出さないようにすることで、不要なステーションが登録できないようにする機能です。
- TKIP**…………… パケット偽造やリプレイ攻撃などに対応するため、一定時間ごとに暗号を自動的に変更する暗号化方式です。長時間盗聴しても、暗号が一定期間で変化するので暗号の解析が不可能です。
- Webブラウザ**…………… インターネットのホームページなどを見ることができるソフトのことです。
- WPS**…………… Wi-Fi Protected Setupの略。無線LANの設定を簡単に行うための統一規格です。

五十音

【サ行】

サブネットマスク …………… インターネットのような巨大なTCP/IPネットワークは、複数の小さなネットワーク(サブネット)に分割されて管理されますが、ネットワーク内の住所にあたるIPアドレスのうち、何ビットをネットワーク識別のためのネットワークアドレスに使用するかを定義する32ビットの数値のことです。

【タ行】

デフォルトゲートウェイ …………… 所属するネットワークの外のコンピュータへアクセスする際に使用する「出入り口」の代表となるコンピュータやルータなどの機器のことです。アクセス先のIPアドレスについて特定のゲートウェイを指定していない場合に、デフォルトゲートウェイに指定されているホストにデータが送信されます。

【マ行】

無線アクセスポイント

(アクセスポイントモード) …… アクセスポイント、またはAP。IEEE802.11a/b/g/nでは基地局のことです。

無線アクセスポイント

(ステーションモード) …………… ステーション、またはST。IEEE802.11a/b/g/nでは移動局のことです。通常はノートパソコンに接続されるPCカードですが、Netcommunity SYSTEM 無線アクセスポイント(ステーションモード)はIP多機能電話機、HUBなどに接続できます。

【ラ行】

ローミング …………… 無線アクセスポイント(ステーションモード)が無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)の電波の受信範囲から外れた場合に、別の無線アクセスポイント(アクセスポイントモード)に登録することができる機能のことです。

アルファベット・数字

ACL.....31、59、100
 Beacon Interval.....55
 DHCP.....42、45、52、83
 DTIM.....55
 INFOランプ.....17
 IPアドレス.....52、82
 LANポート.....18
 LANランプ.....17
 NTP.....69
 PINコード.....34、75
 POWERランプ.....17
 QoS.....55
 RTPパケット間隔.....55
 SSID.....54、55
 SSID隠蔽.....31、57
 Webブラウザ.....41、48
 WLANランプ.....17
 WPS登録.....33

五十音

【ア行】

暗号化.....31
 暗号キー.....57、58
 音声優先.....32

【カ行】

拡張無線帯域.....30、55
 環境設定.....119

【サ行】

最大接続数.....55
 最大通話数.....55、71
 サブネットマスク.....53
 システム名.....52
 自動登録.....27、36、75、98
 主装置識別.....62
 主装置発見アドレス.....62
 主装置発見ポート番号.....62
 情報取得アドレス.....62
 情報取得ポート番号.....62
 スタンド.....16
 セカンダリDNS.....53

セキュリティ方式.....57、58
 接続図表示.....101
 設定内容更新.....92、116
 設定内容保存.....89、116
 送信強度.....31、55

【タ行】

チャンネル周波数.....55
 デフォルトゲートウェイ.....53
 電波の状態を確認する.....40
 電波強度表示設定.....63
 統計情報.....72
 動作モード.....52
 登録スイッチ.....18
 登録ランプ.....17

【ナ行】

認証方式.....31

【ハ行】

パスワード.....48、52
 ファームウェアバージョンアップ
66、68、96、118
 フィルタリング.....64
 プッシュボタン方式.....33、75
 プライマリDNS.....53

【マ行】

無線機能.....54、55

【ラ行】

リセットスイッチ.....18
 ローミング機能.....25
 ログインID.....52

| | 項目 | 無線アクセスポイント (NX-WL-AP) | 適用 |
|----------|----------|---|---------|
| 無線 LAN 部 | 伝送方式 | Draft IEEE802.11n OFDM | 11n |
| | | IEEE802.11a 準拠 OFDM ARIB STD-T71 | 11a |
| | | IEEE802.11b/g 準拠 DSSS/OFDM ARIB STD-T66 | 11b/g |
| | チャンネル | 36ch、40ch、44ch、48ch、52ch、56ch、60ch、64ch | 11a |
| | | 1ch、2ch、3ch、4ch、5ch、6ch、7ch、8ch、 9ch、10ch、11ch、12ch、13ch、14ch | 11b |
| | | 1ch、2ch、3ch、4ch、5ch、6ch、7ch、8ch、 9ch、10ch、11ch、12ch、13ch | 11g |
| | データ伝送速度 | 最大300Mbps (MIMO使用時) | 11n |
| | | 54、48、36、24、18、12、9、6Mbps | 11a、11g |
| | | 11、5.5、2、1Mbps | 11b |
| | アクセス方式 | CSMA/CA | |
| | 伝送パケット | IEEE802.11フレーム | |
| | 無線カテゴリ | 5GHz帯小電力データ通信システム | 11a |
| | | 2.4GHz帯小電力データ通信システム | 11b |
| | | 2.4GHz帯高度化小電力データ通信システム | 11b/g |
| 有線 LAN 部 | 空中線電力 | 10mW/MHz以下 | |
| | QoS | WMMによる音声優先 | |
| | セキュリティ | WEP (64/128/152bit)、 AES-CCM、TKIP、 WPA、WPA2、IEEE802.1X、 ACL、SSID隠蔽 | |
| | イーサネット規格 | IEEE802.3 (10BASE-T) | |
| | | IEEE802.3u (100BASE-TX) | |
| | | IEEE802.3ab (1000BASE-T) | |
| | アクセス方式 | CDMA/CD | |
| その他 | 通信方式 | Full Duplex / Half Duplex、オートネゴシエーション | |
| | ポート数 | 1ポート | |
| | LAN受電機能 | Power over Ether (独自) | |
| | その他 | オートクロスオーバーコネクタ機能 | |
| | 設定方法 | Web、設定ソフトウェア(一部のみ) | |
| | 電磁波妨害 | VCCIクラスAに適合 | |
| | 使用環境 | 温度：5℃～35℃ 湿度：45%～85% (結露ないこと) | |
| | 使用電源 | 電源アダプタ(電源アダプタ(K) ー094) (オプション品) または給電HUB (NX-POLHUB) | |
| | 外形寸法 | 幅約165mm×奥行き約47mm×高さ約207mm (突起物を除く) | |
| | 質量 | 約470g | |
| | 消費電力 | 12W | |

1

お使いになる前に

2

事前準備

3

Webでデータ
設定を行う

4

設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5

ご参考に

| | | |
|-------------|---------|--|
| システム名 | | |
| ユーザー名 | | |
| パスワード | | |
| DHCP | 有効／無効 | |
| IPアドレス | | |
| サブネットマスク | | |
| デフォルトゲートウェイ | | |
| 有線MACアドレス | | |
| 無線MACアドレス | 5GHz帯 | |
| | 2.4GHz帯 | |
| SSID | | |
| セキュリティ方式 | 5GHz帯 | |
| | 2.4GHz帯 | |
| 暗号キー | 5GHz帯 | |
| | 2.4GHz帯 | |
| ACL設定 | 有効／無効 | |
| バージョン | | |



お知らせ

- 本商品には下表に示すお客様固有の情報が記録されています。本商品を廃棄または譲渡などをする場合は、お手数ですが、お客様にて下表を元に情報を消去してください。

| 項 目 | 対処方法 |
|------------------|--|
| システム名 | リセットスイッチを約4秒（INFOランプがオレンジ点灯するまで）押してください。 （●P17、P18） |
| ログインID | |
| DHCP機能 | |
| IPアドレス | |
| サブネットマスク | |
| デフォルトゲートウェイ | |
| プライマリDNS | |
| セカンダリDNS | |
| 無線機能 | |
| SSID | |
| チャンネル周波数 | |
| 拡張無線帯域 | |
| SSID隠蔽 | |
| セキュリティ方式 | |
| 暗号キー | |
| WEK | |
| PassPhrase | |
| RADIUSサーバ設定 | |
| RADIUSサーバアドレス | |
| RADIUSサーバポート番号 | |
| RADIUSシークレット | |
| 再認証間隔 | |
| ACL機能 | |
| ACLアドレステーブル | |
| 情報取得アドレス | |
| 情報取得ポート番号 | |
| 主装置発見アドレス | |
| 主装置発見ポート番号 | |
| 主装置識別 | |
| IPv6フィルタリング | |
| フィルタリングテーブル | |
| 自動更新時刻 | |
| バージョンアップお知らせ用URL | |
| NTPサーバアドレス | |
| 更新間隔 | |
| 登録スイッチ | |
| WPS機能 | |

● 保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載に基づき当社が無償で修理いたしますので「保証書」は大切に保管してください。（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

● 保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。

当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをおすすめしております。

保守サービスの種類は

| | |
|----------|---|
| 定額保守サービス | ●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無償で修理を行うサービスです。 |
| 実費保守サービス | <p>●修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。）</p> <p>●当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。</p> |

● 故障の場合は

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

● その他

定額保守サービスの料金については、NTT 通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：☎ 0120-970413

※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間 9：00～21：00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：☎ 0120-248995

（携帯電話・PHSからも利用可能です。）

受付時間 9：00～21：00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

● 補修用部品の保有期間について

本商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後、7年間保有しております。

なお、部品によっては7年間保有が困難なものもあります。

詳しくは、当社のサービス取扱所へお問い合わせください。

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社（以下、「当社」という。）とお客様との間の契約です。お客様がソフトウェア製品に含まれるオブジェクトプログラムをコンピュータにインストールすることにより、お客様はソフトウェア使用許諾契約書（以下、「本契約」という。）に同意されたものとします。

第一条 （契約対象の定義）

ソフトウェア製品とは、東日本電信電話株式会社または西日本電信電話株式会社が提供するNetcommunity SYSTEM専用CD-ROMに収録している「無線アクセスポイント設定ソフトウェア」（オブジェクトプログラム、格納媒体、マニュアル類、及び本契約書を含む。）を意味します。

第二条 （使用許諾および著作権）

ソフトウェア製品の著作権は、当社が保有しております。当社は、本契約に基づきお客様に対してNetcommunity SYSTEM専用無線アクセスポイント（以下、「無線アクセスポイント」という。）のデータ設定のために使用する目的に限り、ソフトウェア製品を譲渡不能かつ非独占の日本国内における第三条に定める権利を許諾します。ソフトウェア製品はその使用を許諾されるもので、販売されるものではありません。

第三条 （許諾事項、禁止事項）

1. お客様は、オブジェクトプログラムを無線アクセスポイントに接続した1台または複数のコンピュータ上で動作させもしくは表示させることができます。
2. お客様は、ソフトウェア製品の全部またはその一部を無線アクセスポイントに接続されたコンピュータで使用するために当該コンピュータの台数分を上限として複製し利用することができます。
3. お客様によるソフトウェア製品についてのいかなる改変・修正・リバースエンジニアリング・逆アセンブルを禁止します。また、それに起因する障害について当社は一切の責任を負いません。
4. お客様は、本条1項及び2項で認められている以外の権利は一切有しないものとし、本条1項及び2項に定めること以外のためにソフトウェア製品を使用できません。

第四条 （契約の終了）

1. お客様がソフトウェア製品に含まれるオブジェクトプログラムを使用しないと決めたとき本契約は終了します。
2. お客様が本契約のいずれかの条項に違反した場合、当社は他の権利を害することなく本契約を終了することができます。
3. 本条1項及び2項により本契約が終了した場合、お客様は速やかにソフトウェア製品とソフトウェア製品の複製物を全て破棄しなければなりません。【（ご注意）当社はその他法的措置をとることもあります。】

第五条 （輸出規制）

お客様は、ソフトウェア製品（その一部を含む）を、日本国外に輸出または移送すること、および非住居者に提供することはできません。

第六条 （準拠法）

本契約は、日本国法に準拠するものとします。

第七条 （無保証および免責）

当社は、お客様に対して使用許諾するソフトウェア製品について、特定物として現存するままの状態を提供し、法律上の瑕疵担保責任を含めて、全ての明示または暗示の保証を致しません。お客様は、当社に対してソフトウェア製品の使用に起因して被ったいかなる損害に関して責任を求めないものとします。

第八条 （その他）

本契約は日本国法を準拠法とします。本契約に関連または起因する紛争は、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所としてこれを解決するものとします。

搭載されているソフトウェアの著作権と使用許諾に関する情報

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies
of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to

make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this

1
お使いになる前に

2
事前準備

3
Webでデータ
設定を行う

4
設定ソフトウェア
でデータ設定を
行う

5
ご参考に

License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License.

(Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the

Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense

or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License.

However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices.

Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT

WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the “copyright” line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program’s name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w`. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c` for details.

The hypothetical commands `show w` and `show c` should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w` and `show c`; they could even be mouse-clicks or menu items-whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a “copyright disclaimer” for the program, if necessary.

Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989 Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

注 意

本製品は、外国為替および外国貿易法が定める規制貨物に該当いたします。

本製品は、国内でのご利用を前提としたものでありますので、日本国外へ持ち出す場合は、同法に基づく輸出許可等必要な手続きをお取りください。

NOTICE

This product, which is intended for use in Japan, is a controlled product regulated under the Japanese Foreign Exchange and Foreign Trade Law. When you plan to export or take this product out of Japan, please obtain a permission, as required by the Law and related regulations, from the Japanese Government.

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報などを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

**当社ホームページ： <http://web116.jp/ced/>
<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>**

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア(北海道、東北、関東、甲信越地区)でご利用のお客様

お問い合わせ先：  **0120-970413**

※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間 9：00～21：00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア(東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区)でご利用のお客様

お問い合わせ先：  **0120-248995**

(携帯電話・PHSからも利用可能です。)

受付時間 9：00～21：00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

©2009 NTTEAST・NTTWEST

